無産階級戦闘雑誌

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
昭和二年四月一日發行 昭和二年三月二十五日印刷納本

福田狂二編輯

第五年 五周年記念 第四號

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

森永の菓子

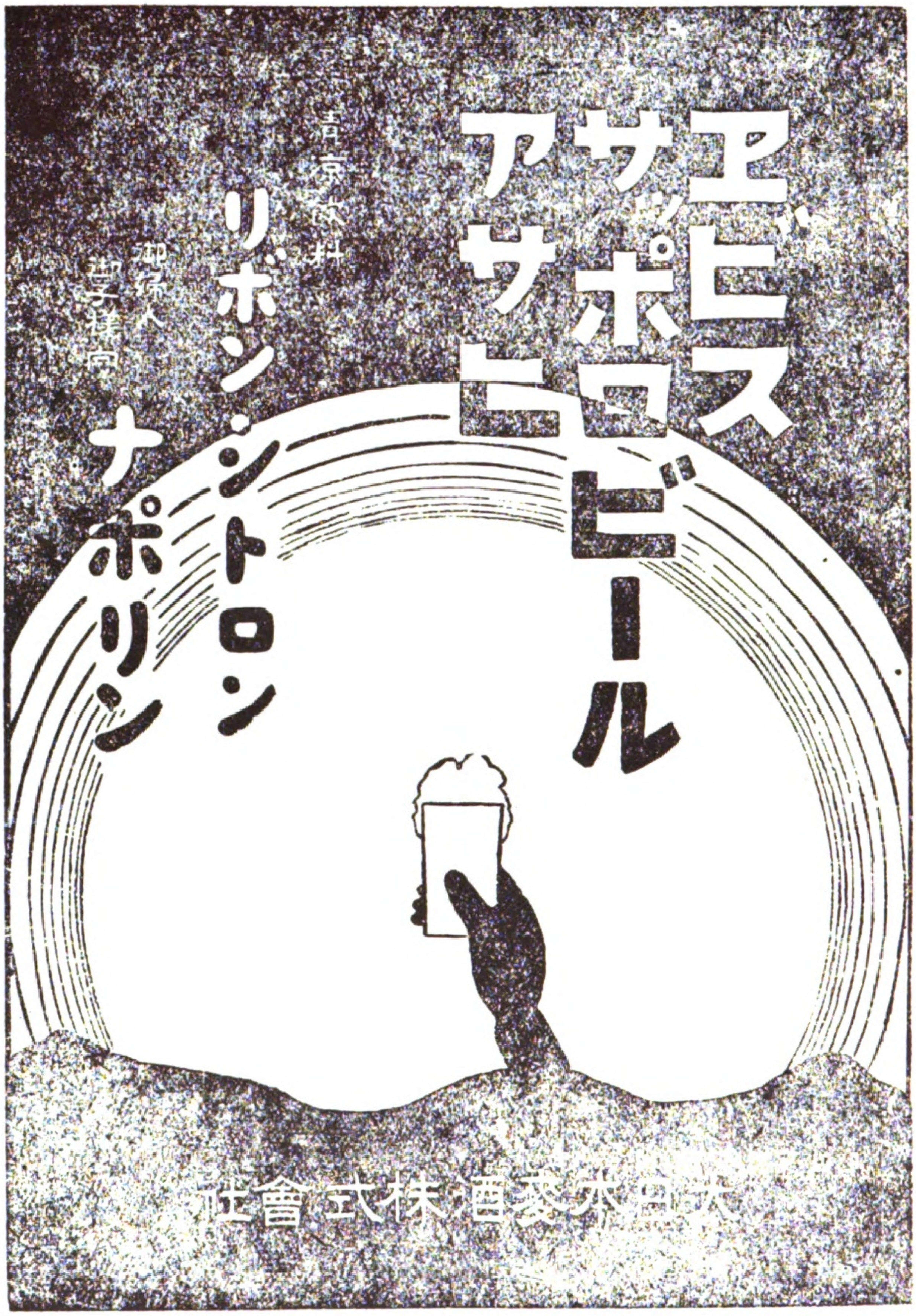
贈答品は これに遊ばせ

森永の菓子はいづかたの御家庭でも常に必要を感じられてをります。從つて是れが中元暑中の贈答に最も好適の逸品であることは例年旺盛な實行が語る事實であります。

キャラメル（各種）
チョコレート（同）
ビスケット（同）
ドロップス（同）
ウェファース（大小）

森永製菓株式會社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め・第五年第四號・目次

□五年を迎ふ……巻頭言（五）
□闘巷の語……阪本勝（六）
□「指導精神」及「指導意識」を抹殺せよ……澤井龍之助（八）
□戴天仇氏に寄す……土田杏村（一一）
□奇怪な運動……佐藤護郎（一三）
□時評……同人（一六）
□福田博士と高畠君に御答へする……向軍治（二一）
□勞働者の要求（漫畫）……（二七）
□カール・マルクス……カーハン・コアテス（二六）
□佛蘭西の勞働運動……淺野研眞（三四）
□擲散彈……（四一）
□殖民政策裏面研究……金熙明（四二）

ハガキ 批評 感想 挑戰 辨駁 回答

福田德三　中澤辨次郎　澤井龍之助　細迫兼光　奥平生　今村等　津田光造　奥田貫太郎　原信行　佐根泰夫

尾崎敬止　久米萬平　須藤三郎平　淺野研眞　張龍俊　春田勝彦　加藤勘十　森本信一　大谷久治　山崎一雄

金熙明　島津一郎　加藤今一郎　山内房吉　村松信太郎　行村義雄　傘木幸盛　北野秋鳥　今村サノ　戸野元

高島米峰　茅野琢也　北澤新次郎　倉本晃南　鈴木楯夫　吉田源藏　澁川國雄　大和久雄　三和一男　倉澤康男

藤松義雄　岡部龍英　永島德次　濱口文美　室伏高信　水島三郎　柴野吉三郎　笹川健治　坪井正己　杉山元次郎

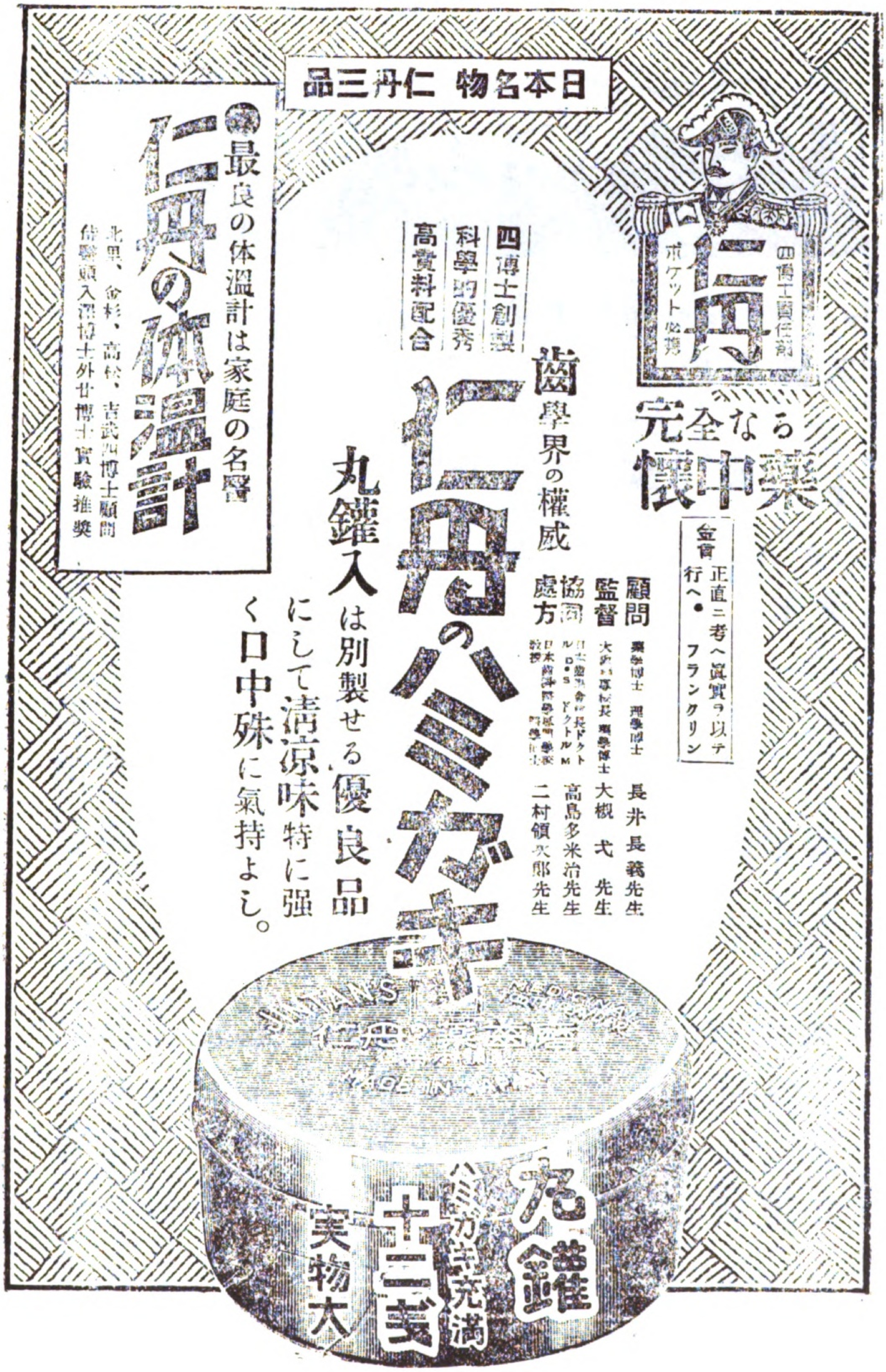
（四八）

□本年勞働代表隨員問題紛糾の内實……長尾桃郎（六〇）
□無產階級法律問答……布施辰治（六五）
□生存權の主張……星村龍（六八）
□最後の手段を採れ……北野秋鳥（七一）
□敎訓歌の變遷……鈴木楯夫（七三）
□左翼妄動者の流言に對する聲明書……中部日本農民組合（七五）
□大山郁夫氏の泣言……鈴川二郎（七六）
□根を絕つて葉を枯らせ……吉田源藏（七七）
□ゴシ―或る幹部こ一黨員……中村高一
□ツブ―革命家の卵……藤原政二（七九）

全土戰報

△目覺めた靑年……倉本晃南
△渦卷く戰塵……T・S生
△反動思想を葬れ……三木田善太郎
△斯かる輩を倒せ……北村陽之助
△吾作の辨（續）……前田泰郎
△鬪爭の戰線へ……北野秋鳥
△彼等の彈壓を見よ……木下正
△官憲糺彈の叫び……伊藤誠一
△戰線雜報……村山銀次郎
△月給取の本懷……淺井正美
△電球の爆彈……秋葉一大
△番犬の征伐……川田紅葉（八〇）
△此の慘虐……島野國造
△小百姓に與ふ……梅本國治
△地主を煮て食へ……伊藤己人
△鐵道從業員の活躍……岡地雅孝

□隨筆 忘れられた日記……吉田金重（九二）
□創作 失業者の熟睡……吉田婦美（九五）
□戲曲 斷末魔……行村義雄（九八）
□戲曲 ストライキ……下山利基智（一〇一）



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

第五年 ■ 進め ■ 第四號

五年を迎ふ

玆に五周年を迎ふ。顧みて吾が力の足らざりしを思ふ。而して益々奮鬪せん事を誓ふ。

吾等は九千萬大衆に組織と鬪爭を促せり。以て勝利の凱歌を揚げん事を期せり。然るに、當初の豫期に反して、五年の長日月を經過せり。吾等の努力足らざりしならん。然れども幾十萬の無產階級を啓蒙指導せしことや窃かに微笑せざるを得ざるなり。

一雜誌の發行は、新社會を建設する能はざる勿論なりと雖、大衆を啓發する運動機關として、第一に雜誌を揚げざるべからず。

實に雜誌は、組織と鬪爭を敎へ、勝利へ導き、以て瀕死の無產階級をして永遠に蘇生せしむべき原動力なり。

方今、無產雜誌と稱するもの多しと雖、悉く一黨一閥の機關となり、眞に無產階級總體の指導に努むる甚だ寥々たり。而して之等皆、理論鬪爭に野心鬪爭に吸々たり。其の結果や、多年苦鬪せる同志は爭ひ傷き、結束は破れ、戰線は亂れ今日の小黨分立を生ぜり。

然るに吾等は、目標を資本主義倒壞に定め、全無產階級の結合を大聲叱呼せしことは、所謂無產階級の正道を誤らざりし所以なり。

今や、我國は反動の爛熟期に屬す。故に吾等は專ら、啓蒙運動と組織運動に全力を擧げざるべからず。

惟ふに將來の戰ひは、內外共に紛糾するならん。吾等は、敵の强大、內線の紊亂を見て益々奮はざるべからず。此の受難期を豫想して意氣愈々旺なり。

吾等は百折苦鬪、遂に勝たざるべからず、先づ握手せざるべからず、共に戰はざるべからず。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

闘巷の語

阪本勝

細胞よいづこへ行く

昔學者は有機體が細胞から成つてゐることを發見した、人間を造る細胞の中で、頭の三角細胞が一番高貴な働きを司るものださうだ。

最高最左の原理はいはば三角細胞である。スターソン流にいへば參謀本部だ。貯水池だ。しかしあはてゝはならぬ、三角細胞も亦、身體全部の中での一特殊細胞なのである。土臺である身體から離れた細胞は想像することは出來ぬ。

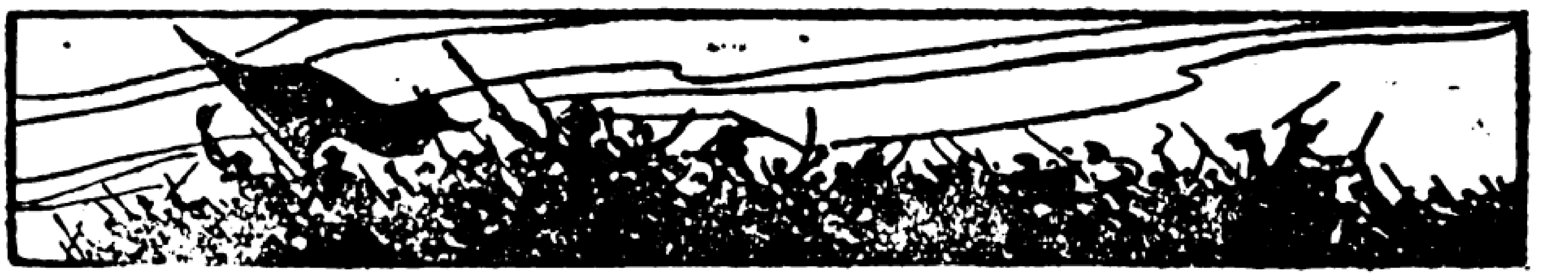
最高解放原理も亦土臺あつての原理だ。細胞だけが空中高く遊離して、大衆を「引き上げる」べき本來の立場を忘れて、自分だけが「吊り上つて」しまふ悲喜劇がそのあたりにザラにありはしまいか。細胞よいづこへ行くとは誰が言葉ぞ。

薩長聯合

日本勞農黨を薩州にたとへ、勞働農民黨を長州に比する人があるならば、なるほどと思ふ人がないでもあるまい。人の關係からいつてもいはゆる西鄕好みの肌合ひの人物が日勞黨に比較的多い。奸計秘策を弄することはあまり得意ではなささうだ、全體として人物に重味がある。勞農黨には身の輕い、燒刄のにほひのデリケイトな人々が多いと見るのは僻目か。維新當時京都を輕快に走り廻つて、公卿をその手中にあやつつた桂小五郎をおもひ出す。大村益次郎、山縣狂介、井上聞多、伊藤俊輔などには勞農黨の策士の芳ひがたしかにする。幕府に致命傷を負はしたのは薩長聯合である、この聯合を完成したのは、おそらく阪本龍馬、中岡愼太郎だらう。

龍馬、愼太郎が出ないものか。日本の政治鬪爭は薩長合同によつてのみ達成せられる。色々と曲りくねりが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



あるだらうが、日勞黨、勞農黨が結局合同するに非ずんばとても駄目だ。唯今が適當な時期ではないといふだけのことである。おもへ、この兩黨合同後の、解放戰線のすばらしい力を。

社會民衆黨をもつて何藩となす。曰く桑台二藩！

どぜう地獄

一平褐伯のお得意の話題に、どぜう地獄なるものがある。鍋に豆腐と生きたどぜうを入れて煮出すと、熱さに苦しむどぜうは、冷たい豆腐の中にもぐり込む。最後に煮上つた豆腐をあざやかに切ると、どぜうの胴切り姿が模樣となる、このオペレツトをどぜう地獄といふ。

階級鬪爭が激しくなると、「自由批評」の舞臺は次第に狹少となる。批評は必らず、來る主張を持つ流派を背景としなければ不可能となつた。これは批評壇の進歩だ。然るになほ自由で氣樂な豆腐の安住地を求めて、そこへ逃げ込まうとするいはゆる文明批評家の多きことよ。

詩人晩翠頃日歌つて曰く、「世界戰ただにノルマン、エンゼルの名をなし」のみ歐洲の秋」と。自由批評家ノルマン、エルゼルあたりが名をなした時代はすむだ。正に殺陣時代だ。然るにノルマン、エンゼルを今頃かつぐ人もゐる。（社會科學研究創刊號）大正八年頃だつたか、田中王堂氏は中央公論卷頭の大論文で人類解放の三大使徒としてサンタヤナあたりを隨分かついだものだ。救世主のサンタヤナは今頃どうしてござることか。とにかく世の中もかはつたものだ。ついでながらスペングラリズムなども、本氣になつて豆腐の中へまだもぐり込むつもりか。たちの惡いカリカチユアではある。

美學者の幸福

或る人が人類の中で美學者ほど幸福な人間はないといつた。色彩と線との抽象によつて來る不變の美學的原理を確定し、それをかざして、あらゆる美的作品を批評する、その美的美學論にかかつては、どんな展覽會も數分の間に片づけられてしまふ。しかしその唯一のほこりは、自分の手で作品を造らぬといふことにある。

美的に出來上つた樣な理論をかざす人々は、結局人類の中で最も幸福な人々なんだらう。曰く、あの色が惡い！この線がいけない、あの線がいけない、この色が惡い！樂な仕事ではある。定めし愉快であらうと思はれる。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「指導精神」及「指導意識」を抹殺せよ

澤井龍之助

一

現今、社會運動家及勞働組合運動家の間に頻りに『指導精神』及び『指導意識』の言葉を發見する。

『指導精神』若しくは『指導意識』と云ふ『精神』又は『意識』はそれ自身既に或る支配的若しくは優越的觀念の所産である。最近、無産階級的諸雜誌を見ても凡そ此の熟語を發見しない事は稀である。

吾々は現在の資本主義經濟組織下に於て對立する所の社會階級に資本家階級と無産階級を發見する。而して其の中間階級と自惚れ、若しくは自任する所の階級に知識階級なるものを發見するのである。此の知識階級なるものは資本家社會の包藏する矛盾と錯誤に據り必然的に兩階級に分裂差別せられ行くものである事は既に自然の事實であり、現在に於ても知識階級の苦悶と焦燥の情態が益々、高調せられ行くのを見る事が出來る。

而して、此の知識階級が左する？右する？に據ると否とに拘わらず歷史的必然の勢力は知識階級なるものを無産階級に蹴落しつゝある事は否む事が出來ない。而かも既に知識階級と稱する所の人々は無産階級の社會的水草に投入して新らしく續々と社會主義的世界觀を抱持して共に社會運動を實行しつゝあるのである。

然し乍ら、知識階級なるものは、それ自らの觀念、又は意識の中に如何しても拔け切らない或るものを持つて居る。それは何であるかと云ふに知識階級特有の優越觀と云ふ奴だ。そしてそれは何處の時と場所とを問わず出て來る厄介な代物なのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二

今や吾國に於ては無産政黨運動と云ふ問題が喧ましく云われて居る。而して無産政黨の黨首又は幹部とか指導者の間に『指導精神』若しくは『指導意識』と云ふ樣な言葉が頻りに出て來るのである。吾々が社會主義的世界觀と精神を持つて無産階級と共に仇敵ブルジョアジーに向ふ時、其處には何等の水くさい觀念又は感情は拂拭せられてゐなければならない筈である。然るに何ぞや、現今へ無産政黨運動に當つて居る人々は何日の間にか此の、無産階級同志の麗はしい精神を拋棄し忘却して『指導原理』だの『指導精神』だのと寧ろ無産階級よりも遙かに掛け離れた階級？若しくは群に身を措く所のものである如き口吻を漏らして居るのだ。此の『意識』は無産階級それ自からの階級に身を措く所の人々から見れば明らかに一個の支配的に映發する。此の事實は先頃、新聞に報じてあつた所の『露西亞官吏の官僚化を懼る』？なる標題の下に勞農露國の最高幹部たる所の人々が變へて居るのに徴しても判り得る事である。而かも此の勞農露西亞の最高幹部なる人々が今更に云ふ迄もなく、彼等自身、最早明らかに官僚化して居るものと云はなければならない。即ち、勞農露西亞の巨頭若しくは指導者達は既に官僚ボルセヰズムの信奉者となり切つて居るのだ。それが比較的個人主義的自由主義國である露西亞に於て既に然りとせば、況んや吾國の如き形式的官僚主義國であるに於ては尚更酷いと云はねばならぬ。否、既にして無産政黨運動を行つて居る者の間にさへ『俺は何々部長である』とか『未來は日本の文部大臣である』とかの如き口吻を聞くに於ては寧ろ其の心情のさもしさ、惘まずには居られない。此の心情の所有者に最も多い連中は私稱日本共産黨の手合である。近頃、『賣出し中』とかで――最早やスタりかけては居るが――福本某とかの一派の連中に『如何に大衆を獲得すべきか？』の如き愚劣にして而かもマルクス辯證法の盲拜者流に聞くが如き言語を發して居るが斯くの如きは最早や到底、助かる見込のない『指導意識』の傳染患者である。コンナ連中に無産大衆が彼等の思ふ樣に『獲得』されては堪らない。彼等は其の精神に於て最早やプロレタリア的精神の何者をも所持して居らない事を證明して居るに過ぎないのだ。而かも、それ自身は左翼悲壯感に據つて『右傾』の『反動』のとセンチメンタルな悲鳴を昂けて居るのだ。

三

今を去る七八年前、思へば年號革まりうたゝ昔日の如き感じがせぬでもないが、一時『指導者排斥』の聲が昂り、知識階級出の社會勞働運動家を戰慄せしめた時代があつた。それも今はうたゝかたの夢の如き問題にされて了つたが、吾々は是れ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

を以つて直ちに此の問題の終局と見る事が出來ない。今や、日本無産階級は經濟的にも政治的にも資本家階級に向つて總攻擊に轉じつゝある。而して政黨運動家等は「如何にして大衆を獲得すべきか」に吸々たる有樣である。更に又「大衆を如何に指導すべきか」が問題にされて居る。吾々は斯くの如きブルジョア、イデオロギーの所産たる「精神」と「意識」を拋棄しなければならない。何故なれば吾々自身既に大衆の一人でなければならない。然るに何ぞや、「大衆」をば一個の革命の道具の如き觀念を持して已の文化的野心の支配下に置こうとするが如き意識若しくは、事實があれば吾等は斷乎として排擊しなければならぬ。

是を文藝方面に於て見る時「大衆の自然發生的表現より目的意識の把持」とか云ふ如き評論を見る事があるが、是も文學を同樣に「指導精神」の下に一律に置こうとするものであらねばならぬ。要するに文藝戰線一派の唱へる文藝運動とは文藝の分野に於ける指導運動と云ふ事になるのだ。

然して、是を要するに現在の政治運動なる鬪爭過程は只だ單に「大衆の指導」云々が問題となつて居るに過ぎない。吾々は此處に一昔以前の精神に歸る必要を痛感する。それは慥か震災以前の「無産階級の政治運動へ」の方向轉換が叫ばれだした頃であつた。現在の政黨運動否、代議士病にかゝつて居る輩は苦笑するかも知れないが、其の當時の政治運動の實行者即ち代議士なるものは單なる「無産階級の代表者――若しくは小使――に過ぎない」ものであると述べて居た人があつた。否それは寧ろ、政治運動を高唱する指導者の連中に於てであつた樣に考へられる。然るに何ぞや、現在の政治運動を行つて居る人々を見るに最早や、一かどの代議士――もいゝが其の背廣意識が癪だ――にでもなつた心算で居る先生方があるではないか。彼等の「精神」及「意識」を分析解剖すると「實は社會主義社會は如何でもいゝ、自分の寫眞と名前さへ新聞に出て呉れればいゝ」てな「意識」が見へ透いて居る樣だ。是れが無産階級の「指導精神」であり、「指導意識」でなければ幸ひであるが如何やらソノ邊のものらしいではないだらうか。

乃ち吾等は一切の「指導精神」と「指導意識」を排斥し抹殺せしめなければならぬ。從つて指導者なんて勞働階級中の特權階級をも一掃しなければならない。此處に於て吾等は社會主義的世界觀共産主義的信念を把持する前に不屈不拔のプロレタリア精神を確くしつかと把持しなければならないのである。是れ無くして如何に社會運動を行ふ共、如何に資本家社會を崩壞さす共、又若し、共産主義社會を實現する事が出來得たとしても遂にそれは官僚ボルセキズムの先蹤を追ふものに終る事は明瞭である。

「プロレタリア精神の把持」これは何を意味するか。吾等は知る一切の殘滓的ブルジョア觀念の絶滅であると。(完)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戴天仇氏に寄す

土田杏村

戴天仇足下

貴下が支那革命の現勢を報告し其れに對する日本朝野の諒解を得んが爲め、我國へ來られた事を私は歡迎します。私は日本に居て支那の革命を傍觀して居るに過ぎませんが、支那革命の進行に對しては甚大の同情を持ち、其れの達成を切願して居るものです。蓋し支那は、今日の狀勢として、如何にしても革命側の勝利の歸結に達しないではならないものだと私は信じて居るからです。支那に就いて革命の勝利を切願するといへば日本では其の見方を直ちに危險視して、然らば日本に就いても同樣の革命を力說するものかと見るのが常でありますが、私の考へでは支那革命の成功は日本の資本主義者に對しても等しく利益となる事であるから、日本の革命とは全く無關係に、日本人は支那の革命の成功を祈つてよいと思ふのです私は貴下が崇敬せられて居る孫中山先生を等しく崇敬いたします、其の學說は折衷的であり、獨創的な統一を缺いで居るとは思ひますが中山先生の革命に對するあの一貫した情熱と至誠とは、永遠に我々によい模範を示してくれたものだと思ひます。其の『中山叢書』を讀んで私は常に感激せしめられるものです。私はなほ昨秋『日本支那現代思想研究』なる一書を公刊し、其の中で支那最近の思想界を論述し、併せて支那の將來に就いての私の意見を開陳して置きました。本年新年號の『大阪時事新報』では、日本と支那との提携する方法に就いて私說の幾分を公表しました。支那に對して私の懷抱して居る思想は其中で大畧述べて居りますから其れで御承知を願ひます。なほ右論文揭載の『大阪時事』紙は廣東政府の中心的活動者にお送りしようと思つて數部を手許に殘してあります。當時支那の友人に問合せましたら、諸氏は皆多忙で住所も一定しないといふ事でしたから、お送りするのを一時取り止めて居た次第です。

貴下が門司へお着きになられた事を聞いた時に、私は早速貴下に幾分の助言を呈したいと思つて居ました。京都を通過せ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

られる時に、此の助言を貴下へ致すのが最も適當だと思つて居ましたが、當時停車場での警戒が嚴重だといふ事を聞いて居たので、其の機會を後に譲り、貴下をお迎へ致しませんでした。今此の書信を以て私の意のある處を貴下にお傳へしたいと思ひます。

此の助言は、先きに中山先生が神戸へ來られた時に私の痛切に感じて居た處でありました。其時私は直ちに其事を新聞紙上で書かうと思つて居たのでしたが、中山先生は直ちに北京へ去られたので、其意を果さずに終りました。今其時の感想を其儘述べようと思ふのです。其れは、「折角日本へ來られた中山先生が、何故日本の新興階級、新思想家、新社會運動者に其の最後の御意見を開陳せられなかつたか」といふ事です。今私は貴下に對して其と同様の助言を致したいと思ひます。中山先生が病篤きを自覺せられ、最後に日本を訪問せられたものとしては、あの神戸での數日間は誠に感銘の薄かつたものだと思ひます。私は中山先生があの危篤の病軀を以て最後に日本を訪問せられたお心を察し今なほ悲痛の感じを持ちます。北京へ行かれる間も無くにとう〳〵病死せられたといふ電報を見た時、私の心は暗然たるものでありました。其れにしては感銘の薄い神戸の數日間ではありませんか。中山先生は、あの時相變らず日本の所謂支那浪人や官界の有力者と會談せられ其等の人達に支那の將來を依賴して行かれましたが、あの時中山先生は何故日本の新思想家、新社會運動者を招致せられませんでしたか。其時新聞の報道する處によれば、日本の所謂支那浪人の一巨頭は、中山先生に問ふに、革命支那は何故過激主義と提携するかを以てし、中山先生は其れに對し詳密に說明せられたといふ事でありました。遺憾ながら中山先生の既知であつた日本の有力者は、概ね日本に於ける反動思想家であるのです。其の人達に對して、今支那革命の新らしい進路を說明する事は徒勞といふものでせう。

中山先生を始め貴下は、支那に就いては新狀勢を取らうとしながら、日本へ來られては、日本の舊勢力と結合せられようとするのは何といふ矛盾でありませうか。貴下等は其點で餘りにも日本の現勢に就き無識では無いでせうか。今や革命支那は日本の所謂支那浪人に依賴すべきものでもなければ、舊勢力を代表する政治家實業家に諒解を求むべきものでもありません。貴下等は專ら日本の新興階級と提携すべきであります。そして何よりも先きに、今日の日本は、舊勢力に愛想をつかして了ひ新興階級に非常な信望の置かれて居る時である事を知るべきであります。支那革命の進行に對して貴下等が近視的であつてならないと同樣に、日本の現狀に對する貴下等の觀測も亦近視的であつてはなりません。もう直きに普選が實施せられますが、其の結果は議會にも勢力の大いなる變動となつて現はれませう。貴下等は今後益々日本の新興階級と提携すべき狀勢を迎へる事となるのであります。私は中山先生があの最後の日本訪問に於いて何故日本の新興階級に呼びかけなかつ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たかを今日なほ深い遺憾とします。隨つてせめては貴下が此失敗を再びしない事を切望するものです。

ここに貴下に一策を獻じますならば、貴下は個人的に各方面の諒解を求められるだけでは無く、東京及び大阪に於いて一夕我國の新思想家、新文藝家、新社會運動者を招致せられ、其の席上に於いて支那革命の意義を詳略に披瀝せられ、更に其等の人達の忌憚無き質問と批評とを受けられるが、足下の使命を果される上に於いて最も有力では無いかと思ふのです。勿論此れは一策に過ぎません。日本朝野の諒解を得るために貴下の處せられる一般方針は、前に述べた如くである事を、私は革命支那の爲めに、また新興日本のために貴下に切望致します。ここに取りあへず「進め」誌上に於いて此の書信を公開致し此の書信を直接に貴下へ發送する事に換へたいと思ひます。

奇怪な運動

——共產黨を評す——

佐藤護郎

今手許に三枚の宣傳ビラがある。內二枚は市電自治會の名を以て發行された京濱電鐵爭議に關するもの、今一枚は評議會を脫退した聲明書で、東京北部勞働聯合會の名を以てされてゐる。

市電自治會は最近になつて、殆んどこうした文書は共產黨の手に依つて作成されてゐる情報を傳へきくのであるが、今この二枚のビラの內容をのぞき見るに、その噂さは確實なものであると思ふ裏書をなしてゐる。先づその「郊外電鐵のゼネラル怠業に就いて一般居住民諸君に訴ふ」といふビラの一端をのぞけば「即ち居住民に對して乘車賃錢の高いこと、車體が皆ボロ電車であること、軌道の不完全、少數の車體運轉による收入增加の政策はラツシユアワーの滿員、從つて各種事故の頻發、日夜停留場の雜沓による時間の遲延、かく市民諸君の受ける危險不便、不快は諸君の日常痛切に體驗せられてゐることであらう」「こゝに於てか沿線住民の蒙る損害、壓迫には單に沿線一個の會社の問題とし、對立としての決して解決し得るものではない、それは實に各郊外電鐵トラストの獨占的經營これを操る金融寡頭政治、專制的支配に對する一般的搾取、被壓迫階級の反抗として取扱はなければならぬ」「今後諸君と共に不斷になすべき幾多の問題が殘されてゐる――失業

反對運動は、反動ブルジョアに對する抗爭に……」といふ事である。

このビラの文句を通じて、先づ最初に氣づくのは、爭議中、しかも、直接利害關係を持たない沿線一般の人の同情を求め樣とするに適してゐるかといふ點である。この點では殆んどゼロである。そして次に疑問とする點は、何故にこんなむづかしい事を言はねばならぬか、といふ點である。はたして沿線住民の中にこの一枚のビラに書かれた字句の意味を眞に理解する人は幾人あると思ふか。更に沿線住民は常識的にこの內容を受入るや否や、恐らくは氣狂じみた革命患者として取扱ふに終るであらう。却つて反感を買はせる以外の效力はない。すべて、爭議に對する同情は、常識的感情の中からのみ湧き出でるものである。況んや資本主義社會の中に住む一般の人々に「被壓迫階級の反抗として取扱はなければならぬ」等と言ふが如きは、目前の重大なる爭議といふ問題を一切忘れたところの、氣狂共の盲言としか思はれぬ。

同じく、市電自治會發行の休戰宣言に曰く。

「今日にせる鬪爭は明日なすであらう所の、鬪爭のよりよい訓練、成熟發展となるのでなければならぬ」。

然らば彼等は、問題の目的として起つた爭議の問題はどうあつてもよいといふのか。「我々の鬪爭は殘されてゐる。全無產階級的政治鬪爭への躍進、これこそ我々の眞に鬪ひ取るべきものがある。この戰の爲にその試練、執拗なる日常鬪爭こそこの準備の故に我等は今こゝに休戰する」。

といふのが一貫した休戰理由である。この理由の中には、恐らくは如何にして今回の爭議が起されたか、如何なる經濟利害の重要問題があるか、を一切說明なしに、たゞ如何に爭議を利用すべきかの、革命患者の狂語が露骨に出されてある。而して爭議を口實に知り、これに參加する勞働者の利益を如何に擁護し、如何に獲得しやうか、を思へば淋しき彼等の革命病政策を罵らずにゐられない。

最後に殘された評議會脫退のビラはよくこの危險な點を指摘してゐる。

「昨年末幹部(評議會幹部――共產黨は)專橫にも獨斷で、評議會に加入してゐる全國の工場分會に對して保險料の全額負擔を要求して直ちに罷工に移れ、若しその要求が直ちに入れられた場合は要求を追加しても、なほ罷工に移れといふ命令書を發したり、或は人を派して命令を傳へたのである。この時に於ける幹部の考へは、勞働者の當面の利害はどうでもよい。只だ罷工を起しさへすればよい。それが第一段の策であつて第二段の策は、罷工者を全般的に動員して大大民衆運動化せしめんとすることがあつた。この氣狂ひじみた輕卒な幹部の命令に從つた數ケ所の工場分會は、殆んど慘敗し一般會員は歲の暮れを控へて貧のドン底に泣き、幾十人かの組合員は投獄された、反對に保險料の問題で勞働者側に有利な條件を貫徹したとこ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ろは、凡て、幹部の命令に服せずして適當な行動をとつたところであつた」。これは、當時評議會の中にあつて、その統制に動員した人口の眞の告白である。これで彼等の爭議政策が明かになつた事と思ふ。

次にこのビラの中には、彼等の生活費のことを言つてゐる。「評議會の幹部の中で、工場に働いてゐないし、組合の有給でもない者や、或は少額の有給者等が、工場に働いてゐる者の及びもつかない生活旅行をしてゐる連中が多數ゐる」。こうした連中の生活費旅行費等はいつも、親兄弟からせびるのではあるまい。然しその金の出所はいづれにもせよ「金」を一つの鎖りとして、私黨を結んでゐることは明かである。「金」の鎖りに依て結ばれたところには必ず墮落がある。醜事がある。資本家の金で結合する總同盟のダラク幹部と理論や政策を異にしてゐても、金の點に於ては、同じくダラク幹部の名を逃れることは出來ない。彼等はレニンの謂ふ職業的革命家と自惚れてゐるが、それはむしろ、賤しき商賣的革命家の類である。

社會的發展の過程に於て、無産勞働者階級は如何なる生活過程を經なければならぬか?、がむしろ重大なる問題である。社會主義發展過程に於ける、勞働運動者乃至社會運動者はこの點を無視して、健實なる社會の進展を劃することは出來得ない。この問題は單なる常識的問題のみではなく、實に、無産階級的社會政策に依存するものである。

社會の發展に關する、無産階級の役割をみる時、更にその役割を演ずる無産者の發展的勢力傾向は、常に無産者相互の常識と、無産者相互の藝術的要素が第一次定條件として、みなければならぬ。そしてこれ等の交互的勢力の中にあつて、理論はよくその中心を握つてこそ、理論の實際的價値が評價せられて行くものである。過去の歴史に於てアナキズム、サンヂカリズム、ギルドソシアリズム、キリスト教ソシアリズム、コンミユニズム、國家ソシアリズム等々の、理論的鬪爭が盛んに演ぜられ來つたが、嘗つてこれ等の理論が、實際運動を征服し終つた事實はない。併しこれ等の理論が相當實際の社會發展傾向を吸引して來たことはある。それは理論が社會の發展傾向を吸引して來たのではなく、よく、當時の無産階級の常識的藝術的勢力に投合し來つたものである。從つて常識的、藝術的勢力を決定する生活關係を、社會發展の過程に於て無視することは出來ない。

共産黨革命狂患者の矛盾はこゝにある。福本和夫の理論鬪爭を以つて鬪取獲得すべしとする彼等の所書は、憐むべきであるが、それより、彼等の犧牲となつて飢えに泣く一般勞働者は更に慘めなものである。組合を信じ、組合の力を是として生活を維持、保護仕樣とする勞働者は、あたら彼等の革命狂患者の理論に葬られて泣寢入るのである。この筆法で社會××をものしやう等はあまり虫のよすぎる考へ方である。隨つてこの無理をつなぎ行くものは、きたなき「出所不明の黄金」となつて現はれ來るのである。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

同人時評

全日本農民組合の結成

日本農民組合分裂後、堅實同盟なる名の下に其の基礎工事を急ぎつゝあつた三宅、須永、淺沼の諸氏は、全日本農民組合なる名を以つて去る三月一日大阪に於いて華々しく其の第一聲を擧げた。

此の組合の幹部諸氏は、嘗つて、日本農民組合より除名された時、反動幹部又は、解放運動の攪亂者なる名稱を附せられたが、吾々は斷じて此の言葉の當つてゐない事を明言する。日本農民組合のオツチョコチョイ共、即ち若手の農民運動者が他に對して、反動だとか、攪亂者だとかの社會運動家にとつて、致命的な罵言を發する等と云ふ事は潜越、自らを知らざる甚だしきものであると云はねばならない。一組合を死守する事が、解放運動に忠實なることであるか、土を離れ、紊亂の極に達せる組合を脫退して新たに組合を組織することか、運動に忠實なるものであるか、そは問はずして明かな所である。日本農民組合は其の指導者の無智、陰險、悪辣なる内部的矛盾に依つて、今や正に崩壞の過程を辿りつゝある。此の崩壞の危險を先見して、同組合を勇退した前記の諸氏こそ寧ろ社會運動家として、最も烱眼の士であると云はねばならぬ。

吾々は昨年來、杉山元二郎氏が日本農民組合長たりし時氏が共産黨一派に禍されんとしつゝある事を警しめた。然る所氏は、本年三月に至つて漸やく其の眞實なる事を悟り、翻然として日本農民組合を脫退し、前途洋々たる全日本農民組合へ來り參じた事は氏の爲め、多大の祝意を表したい。杉山氏は全日本農民組合へ加盟した事に依つて、蘇生した樣なものである。氏よ、健在なれ。而して今後全日本農民組合の爲め舊の日本農民組合長時代に於けるが如き努力を惜しまれざらん事を望む。斯くする事は氏が蘇生への

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

道を辿る事を意味する。日本農民組合は杉山氏を失つた事に依つて、大動揺を來すであらう。既に今日氏の人格を慕した日本つて全日本へ加盟を申込む組合の相踵ぎつゝある事は日本農民組合の大打撃である。共産黨一派に攪亂されたる日本農民組合は斯くして自ら最後の弔鐘をつくであらう。

それに引き換へ、全日本農民組合の前途は曉の如き輝かしきものである。幸ひにして、組合長杉山氏を始め、其他の幹部諸氏の健闘あらん事を祈る。

既成政黨の醜體

昨日迄、兩虎相搏つと云ふ樣な猛烈な爭ひを續けてゐた憲政會と政友本黨とが、俄然提携して憲本合同と云ふものが出來上がつた。吾々が今茲に、腐敗墮落の極に達せる既成政黨者流の醜陋を摘發して、今更らの樣に彼等を嘲笑せんとするものではない。要は、彼等に依つて支配されつゝある國民に、既成黨政の斷じて賴むに足らざる事を訴へたいのである。

彼等の爭ひたるや、主義主張の爭ではなく、政治を一種の、玩具視して、之れに親しみ、あはよくば、政權を掌握して、自らの優越を誇らんが爲めの爭ひである。而して彼等の心中を支配してゐる所のものは、實にブルジョア階級の利益擁護であり、プロレタリア階級搾取の方法如何である。それは敢えて憲政會たると政友本黨たるとを問はない。政友會然り！實業同志會然り！其他一切の既成ブルジョア政黨の凡てが無産階級に取つて、何等の利益にもならない事は、言はずもがなである。

吾等は、今年こそは解散となつて普選による選擧が行はれるであらうと信じてゐた。然るに彼等は、擡頭せる無産階級の政治的萌芽を恐れて、遂に三派妥協なるものに依つて解散を回避し、自らの生命を一年延ばしたではないか。即ち彼等は無産階級をして、政治に參與せしめたくないと云ふ心底を明かに曝露したのである。即ち國民は知る。彼等の代表するものは、斷じて無産階級にあらざる事を。

今回の憲本合同は、一に目前の利益を獲得せんが爲めにした合同であることは勿論である。彼等自らの欲する法案を多數決に依つて可決せしめる爲めの合同である事は明かだ。目前の利益獲得の爲めに易々として合同する、これ政權慾盲者の野合でなくて何である。

民衆は、最早何日迄も、腐敗せる彼等既成政黨者派に凡てを依屬すべきではない。無産階級は無産階級の政黨に依つて自らの利益の保護、獲得に向つて進出すべきである。

出版法案を葬れ

言論の壓迫、自由の抑壓を以つて世界に冠たる東洋の法

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

治國は今期議會に、又亦言論彈壓令たる出版法を提出した。今日の新聞紙法及び出版法に依つてすら既に、恐るべき壓迫振りを示しつゝある現政府にして此の新法案を適用せんか、そこには實に怖るべき言論の封鎖時代を現出するであらう。
法案の骨子たる、保證金、名義人、屆出等々其の內容を仔細に分析すれば、是れ悉く言論の封鎖法令にあらずして何ぞ。此の法案は既にブルジョア新聞、雜誌社に於いてすら、一齊に非難、反對しつゝあるのを見ても如何に其の內容の苛酷なものであるかは明瞭である。況んや、吾々無產階級に取つては、實に、緘口令であると見るも斷じて誤りのないものである。

全國の無產階級は、言論の封鎖緘口令、出版法案を一蹴せよ。

日本共產黨の滅裂

組合の攪亂、團體の乘取りを以つて、澎湃たる天下の指彈を受けつゝある日本共產黨は彼の唯物的辨證法福本和夫の出現に依つて正に四分五裂に滅裂しつゝある。

福本が例の辨證的論法で以つて盛んに山川をコキ下ろし始めたので、今迄山川を唯一無二の指導理論家と思つてゐた共產黨、評議會の無智蒙昧なる誤連中は、遽に福本を崇拜し出した。而して山川を省みやうともせず、福本の方へ馳せ參ずる者は續々出てきた。彼れ福本は、山川の多年、自ら苦心獲得せる地盤を蠶食し山川を完膚なき迄に蹴散らし、日本に於ける社會運動の代表的指導理論家を以つて任じ、雜誌マルクス主義を橫領して、怪しけな、堂々？たる論陣を張つてゐる。

加ふるに、佐野學が無產者新聞を體よく福本一派に橫領され、今では社員中殆んど、佐野を省みる者がなくなつてゐる。田所輝明の如き、今日では既に勞農黨から日本勞農黨へ鞍替して、日勞の爲めに奮戰しつゝある。

其の組織の曖昧、出所不明の黃金、連絡の不統一なる日本共產黨の今日あるは、何人も期してゐた所である。今後尙分裂するであらう事は確かである。評議會は早くも一部より崩壞し始めた。その證據は過日の金屬勞働の評議會脫退によつて證明される。評議會に屬してゐた金屬勞働は猛烈なる、共產黨攻擊を開始して斷然評議會を脫退したのである。

四分五裂に瀕せる日本共產黨！汝そも何する者ぞ！社會運動の攪亂者！速かに去れ！

日本農民總同盟生る

日本勞働總同盟が社會民衆黨を全階級的なものたらしめ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

やらうとして、農民をも加盟せしめやうと日本農民總同盟を組織した。社會民衆黨は其の持つ所の自由主義的色彩をブルジョア政治勢力の上へ彩らんとしてゐるのであるが、眞に闘爭意識を持つた無産階級は、果して社會民衆黨に滿足するであらうか。否斷じて否と云ふの外ない。が幸ひに農民を糾合して、社會民衆黨を勞農相團結した大政黨たらしめられん事を望む。

而して他の團體から同じ名稱を用ひるのは階級道德を無視するものであると云ふが如き抗議を申込まるゝ樣な拙劣な事は、注意せらるべきである。

無産雜誌の使命

無産階級の闘爭は日常目前の問題凡てを摑まへて闘ふものである。而して實際運動に、言論に、其他一切の機會及び機關に依つてブルジョア階級と抗爭せなければならない。

近時、無産階級の雜誌、新聞は著るしく增加した。運動の進展を表象する意味に於いて最も喜ぶべき事でなければならぬ。然るに、之等の新聞、雜誌は、悉く評論的なもののみを登載し、一般無産階級啓蒙運動に殆んど役立たないものばかりであると云つても誤りではなからう。勿論、一團體の機關紙は其の團體だけの用を達すれば足りるだらうが、一般無産階級を相手にすべき新聞、雜誌は、今日殆んどない。一部の智識階級相手の雜誌はあるが、一般無産大衆に讀ますべきものゝないといふ事は、日本の社會運動界に於ける大なる缺點である。而して此の事は、從來、何人も痛感してゐる所である。痛感しながらも其れが實現の出來なかつたのは、果して何に原因するであらうか。吾々は云ふ、從來の社會運動家は、少し自分の名前が知られ出すと直ちに名士振つて、判らない樣な理屈を振り廻して得意になつてゐた爲であると。即ち今日迄、凡ゆる新聞、雜誌には、隨分多くの迷論卓說が發表されたが、其の殆んど全部が書いた當人ですら充分判つてゐない樣な、六ツカ敷い理屈のみ書き並らねてある。

吾々は無産大衆を啓蒙する理論を、新聞、雜誌に載せんことを、全國の無産雜誌社に慫慂する。新聞、雜誌の使命は、第一、啓蒙にあるのだ。理論闘爭は第二乃至は第三の任務に屬してゐるのだ。

戴天仇來

北伐軍から日本の諒解を得るが爲に、天仇戴傳賢が來た。そして各方面に、奔走してゐる。が未だ吾が無産階級には、何の交渉もない。彼は無産階級を以つて結成する支那北伐軍の使節であらうか。

吾等は嘗つて、上海に於て、彼に面會した時、トルスト

イを以て社會主義者と云つた位であるから階級的觀念や、社會思想は毫もないものだと思はれる。第一革命、第二革命に於ても、支那浪人と稱する腰拔け無頼漢と酒色に耽溺してゐた位であるから、革命家的素質を少しも持つてゐない。日本の新聞記者は彼を以つて國民黨の右傾派だと云つてゐるが、吾々の見る所によれば、右傾でも何でもなく、憲政會邊りの小策士に過ぎない。日本に來て、今回の行動を見ると、官邊に出入し、又支那浪人と稱する遊蕩兒と會合してゐる位では、吾々は啞然たらざるを得ない。彼抑々何の爲に日本に來りしや。中國無產階級の靑血の結晶たる黃金を、日本に於いて酒色に費さんが爲に來るものにあらずして何ぞや。吾人は、支那北伐軍の爲に惜しむ。

目的意識の錯亂性

文藝戰線社同人に依つて高唱され出した、所謂目的意識とは何ぞや。吾々は、彼等文士連中の潛越と無智、錯亂と蒙昧を茲に剔抉し、以つて彼等に頂門の一針を與へんとする。

彼等の所謂、「自然生長と目的意識」とは要するに無產階級の實際生活と恐ろしく、掛け離れた天上より無產階級解放の眞理を無產階級の頭上に叩きつけんとする。如何に無產派と雖、文學である以上は、無產階級解放運動上、絕對的に何等の役目をも演じない事を斷言する。文學者とは何ぞ！ 夫れ、自らの作品を眺めて自らの發表心を滿足せしめ、自らの名前が活字になるのを意識して喜こんでゐる至極單純な輩のみである。而して、時には、淫蕩的な作品に依つて人間の好寄心を惹き寄せ、下らない三文文學に陶醉してゐる徒輩のみである。換言すれば男女の戀愛事件のみに留意してゐる一種の不良老年乃至は中、青年のみである。

然るに斯る輩が、所謂、文學を以つて無產階級運動の一舞臺とせよの、文學は政治鬪爭へ進展する一ツの道程をつくらねばならぬだのと云ひ出されては、鼻持ちならぬ程、擽つたい感じがする。

彼等は云ふ、既成文學は、ブルジョア階級の弄さみ物であつて、プロレタリア文學は、プロレタリア階級の意志發表の道具であると。大いに然り！たゞそれだけである。プロレタリア文學に限らず、それは何の文學にした所で、文學は一ツの道樂乃至は、閑つぶしに弄んで良い所のものである。それが、文學に依つて無產階級を啓蒙するの、鬪爭へ導くのと言ふに至つては、彼等の無智蒙昧振りに啞然として口が塞がらない次第である。

而して彼等は云ふ、プロ文學者は、社會主義的作品を作つくる前に、先づ、社會主義者でなければならないと。如何にも御尤もの樣に聞こえる。然し、社會主義者にして、文學を志ざす樣な者は、假令あつたとしても、それは極めて

稀れである。若しありとすれば、それは、社會主義者ではなく、社會主義を弄んで、乃至は道具や看板にして、自己の作品を天下に發表せんとする野心家か、破廉恥漢である。眞の社會主義者に文學等を志ざす様な不心得者はゐない筈だ。眞の社會主義者は文學よりも、もつと重大な職分を與へられてゐる筈であるからだ。即ち實際運動の眞ツ唯中へ突入して呉る筈である。文壇等と云ふ象爪の塔へ引込んで下らない小説のみを作つて、悦こんでゐる筈はないではないか。

彼等は巧に云ふ。レーニンは大衆の自然生長性には一定の局限があると信じてゐる。大衆の自然生長性は、文學運動による社會主義的目的意識を注入することに依つて行はると。咄！此の低頭兒！無産大衆は文學に依つて社會主義を知らうとするものではない。文學運動の、社會主義的目的意識の、大衆の自然成長性のと、潜越極まる世迷ひ言を並べて獨り、悦こんでゐる低頭兒！速かに影を沒せよ！文學何ぞ社會××の用を爲さんや。錯亂した目的意識の盲者を葬れ！

不平等條約破棄

支那に於ける各國帝國主義の侵略は、最も露骨を極め、支那の無産階級は、經濟的に、法律的に、又社會的に、人道的に各國人に虐待されつゝある。中國の有産階級は、黄金の力に依つて、之を避くることが出來るが、無産階級は奴隷以上に、酷使されてゐるのである。

吾等は、中國の土を踏むや、最初に、之れを見て、帝國主義の、暴虐を憤慨せざる事はなかつた。

昨年、國民軍の南方を取るに及んで、漢口に於て、兵力を以つて之れを恢復したのは、近來にない痛快事と思つた。

吾が日本に於ても、維新前より不平等條約を締結せられて居つて、漸く明治二十七年に至つて、外國恐怖病者大隈重信に爆彈を投じて漸く、之れを破つた位で、今支那國民が、國を擧げて此の破棄に努むるのは、強ち、社會主義者に非ずとも、日本人は了解の出來る事である。

英國が出兵しても北伐軍の前に戰ふ勇氣がない。唯諸外國に對して、體面を維持するが爲めに止まり、其の効力はない。英の帝國主義や、支那に於ては、何の力も無くなつた。中國民は尚も英國に對すると同様に、上海、天津、青島、香港等を恢復して政治的に、確保するであらう。

國民軍の目標は、租借地の恢復等は其の烽火に止まつて無産階級の樂園を目がけて突進しつゝあるのである。

中國の無産階級の擡頭は、暫て印度無産階級の蹶起となり、政治的、經濟的、社會的に自己を解放し、進んで世界××の前提となるであらう。

故に我が日本の無産階級は、中國無産階級の爲め、多大の援助をしなくてはならぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

研究

福田博士と高畠君とに御答へする

向軍治

今日迄、日本の社會運動家の殆んど全部は高畠素之氏の飜譯にかゝるマルクス資本論は、原文と大差ない程の完全に近いものと信頼し切つてゐた。而して同志の全部は、高畠氏の偉大なる苦心と努力とに對し多大の敬意を拂つてゐた。然るに、日本に於ける語學の泰斗、慶大教授向軍治氏に依つて、吾々の信頼は根底より覆へされた。即ち氏は、高畠氏の飜譯には甚だしき誤謬のあることを本論に於いて指摘されてゐる。本論は正しく日本の社會運動外に、轟々たる輿論を捲き起こさねば止まぬであらう。御本稿は、氏の御多忙中、特に御執筆を御願ひしたものであるが、來月號にも續稿を御寄せ下さる筈である。

——(編輯子)——

文部省は教育の行政事務を取扱ふべき處で教育全體を掌るべき者ではない。其文部省が教育宗教の事に全部容喙しやうとするのは大變な間違ひである。然るに無智な國民は文部省の此の言語道斷の態度を少しも怪まない。全く世が手になつたのである。無學な俗吏が學問の上にまで勢力を握る樣になつたから我國の學問が恐ろしく退歩した。博士だとか大學教授だとか謂へばエラ相に聞こえるが、其實殆んど皆テンプラ式である。今日の低級の學者皮相の學問は皆文部省主宰の惡教育の結果である。

例へば此說の文士と稱する人で本當の文章の書ける者は殆んど一人もない。是れ文部省が一知半解の智識を根據にして國語教育を誤つたからである。漢字は廢すべきものである。併し漢學に依て養成した文章に關る智識と道義的觀念とは取替のない寶物であつた。此兩者の滅亡は國家の滅亡であることを我輩四十年來論じて居る。言文一致を唱導しローマ字を鼓吹すると同時に、和漢文の大事なことを盛んに論じたのである。愚昧な文部省は覺醒しなかつた。世間が今日の如く文章の上に道義の上に於て支離滅裂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

救ふべからざる狀態に陷ることを明治二十四年より明治三十年代とに盛んに論じた。今日は予の豫言が盡く適中して居る。

此頃放送でも流行して居る童話と云ふ者がある。例外が無いとは謂はないが童話を受持つ文士大低は國語も知らなければ話の術も心得て居ない。惡教育に依て低級になつた讀人聽人と云ふのが話人の上手下手の區別が出來ない。諧謔でも混ぜさへすれば上手な話人と云ふ事になつて居る。聽く耳を持つた人が聽いて居ると其諧謔が話の打壞になるのを大低の聽衆が其諧謔を歡迎して居る。十年計り前に某講談師（本職の講談師）にローマ字會で講談を賴んだ事がある。予が先づ其講談師に其會合の目的が聽衆に話の筋を聽かせるのでなくて講談師の巧妙な言葉遣を味はせる處に在ることを注意して置いた。すると其講談師先生固くなつて了つて、中途で口を辷らし損なつた、沐浴の形容に「垢を墜し身を淨め」と言ふべきを「垢を淨め身を」と言つて行詰つた事がある。聽衆の中には大學生も學校の先生もあつたが誰一人之に氣の付いた人は無かつた。講話が終ると予が演壇に出て「今の講談の中に言葉遣の間違があつたが誰か氣が付いたか」と問糺して見たが誰にも判つて居なかつた。予は講談の最中會場の後方で直に手帳を出して其文句を記して置いたのを流石講談師は見て取つて居て予が演壇から降りると「先生に氣付かれたなと思ひました」と苦笑した事がある。聽衆が全部文章の心得のなかつた事の明な證據である。今日の日本人は何が名文だか何が惡文だか判斷が付かなくなつて居る。文部省が漢文を廢して之に代る教育を施さないからである。

嘗て現代一流の役者に尋ねたことがある。「此節の飜譯芝居が貴君方に能く演ぜられますね。文章が下手だから、臺詞と所作とが一致しなくて演じ難い筈だ」と謂つたら「御說の通り。あれは飜譯家と先づ半年位前から善く研究して下らない文句を省いて頂かなくては芝居になりません」と其役者が答へた事がある。役者は「入れる必要のある文句は入れて」とは決して言はない「下らない文句は省いて」とのみ謂ふ。如何に文士の文章が冗漫であるかの確證である。其時「併し其文句を省いては……と仰しやるものですからね」と其役者は苦笑して居た。其結果原作で忍耐強い男が飜譯芝居では氣狂の樣になつて居て殆ど原作の俤もないものを老若男女喜んで觀て居るのを目擊した事がある。惡教育の結果畏るべきものである。

予が本年一月三十日の東京日々新聞で「誤譯だらけの資本論が世間に流布したらマルクスが地下で泣きます。これ皆文部省の責任です、惡教育の結果です」と發表したのは前述の意味である。簡單な文章であるから高畠氏が誤解したのも無理はないが、之に對する返事の積りらしい「小生は學費が無くて、教育と云ふ程の教育を受けなかつたから文部省の惡教育といふ者は殆んど知らない」と云ふ高畠氏の言は少し的が外れて居る。「惡教育の結果です」は「惡

教育の結果誤譯をした」と云ふ意味ではなくて「惡教育の結果誤譯が歡迎せられる」と云ふ意味である。

高畠氏に對へる前に福田君に一本參りたい。

福田君に「先づ常識はあるか」と尋ねたい。學問の問題ではない、常識の問題である。「其個所の明示を高畠氏が促したに拘らず向君は一向之に答へないのはフェーヤでありません」又「證據なしに誤譯呼はりは決して爲すべきことでありません」とは何たる非常識な筆法だらう。予は明瞭に「譯本第一卷三七一ペイチから三七八ペイチの處は每ペイチ皆違つて居ます又六七九ペイチ六八三ペイチと手當り次第に開いて見ると皆間違つて居ます」と發表して居る。何の「證據なし」とは何の口で言へる。中學五年生が見れば直に判然する間違が歷々と載つて居るペイチを指摘して即ち事實を明示して置いたものを「證據なし」とは何から割出した議論だ。予が「誤譯の標本と命名した方が早い本」と斷言した後に「誤譯なしとは思ひませんが」と云ふ福田君の言分は常識ある人の耳には滑稽に響く。

福田君が「成程向君の指摘したペイチには誤譯がある併しあれは云々」と謂ふのなら聞こえて居る。「誤譯なしとは思はない」の「證據なし」だのと能くも恥かしくないことである。畢竟高畠氏も福田君も予の指摘したペイチは讀んで見たに違ひない。讀んでも何處が誤譯だか判然しないのに違ひない。厄介な連中である。高畠氏も謂つて居る「誤譯があれば何時でも改める」と。高畠氏はまだ何處が誤譯だか判らないものと見える。「此處の意味は判然しない」と斷言する人は其個所丈が讀めないので、書物は讀める人である。高畠氏や福田君の樣に指摘せられても分らない人は間違を間違でないと平氣で思つて居る不得要領の人は自分では讀める積りでも、其實讀めない人である。自分が了解し得たか了解し得ないかの區別を自分でなし得ない人は書物の讀めない人である。中學生程度の人である。高畠氏の「若しまた、それが單なる漫罵に過ぎなかつたとすればたゞでは濟まされない」は滑稽ではあるまいか。何ペイチと明瞭に指摘して置いたので、其の誤譯が中學生程度なのであるから、高畠氏が本當に書物の讀める人なら「畏れ入つた成程間違つて居た」と答ふべき場合ではあるまいか。「誤譯があれば」だの「漫罵に過ぎなかつたとすれば」だのと謂ふ高畠氏は日本語を知らないのではあるまいか。

福田君は立腹するに違ない。「向の奴けしからん奴だ乃公を非常識と罵り乃公の讀書力を中學生程度だと謂ふ」と屹度福田君が此言葉を僕に向けるに違ない。僕は本來福田君とは喧嘩したくないのである。福田君が挑戰する以上應ぜざるを得ない。友人の面の皮を剝ぐのは眞に心苦しいが、福田君が「輕微な問題として一蹴する譯に行かない」と公言する以上一本眞向から參らざるを得ない。此喧嘩が濟んだら復仲直しにしたいことを前以て斷つて置く。

嘗て慶應大學でフックスの經濟原論の講讀を受持たされた。小泉信三君抔の組であつた。大に閉口した。フックスが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

讀めないのではない。フックスの文章は平易な文章で意味の取れない心配はない。文字面の意味は取れても經濟學の智識のない者には文字の奥に潜んで居る思想は判然しない早速圖書館へ閉籠つてブュツヘルだのフキリボウヰチだの手當り次第讀んだ。意味は判然して來た。譯語を知らない。何か好參考書もがなと探して居る内に見當つたのが福田君の著述である。好い拾物有難いと思つて讀んで見て喜び且つ驚いた。自ら嘆息した。「福田君はエライ男だ。こんなに飜譯が上手だとは知らなかつたフックスの燒直しもこんなに上手に出來るのなら成程福田德三著でも差支ない譯だ」と。爾來福田君は獨逸語は達者だと思つて居た。すると昨年予の教へて居る慶應大學生が「先生此本を御存知ですか」と一冊の新著を見せた。開いて見て第一ペイチの誤譯に驚いた。處が其誤譯の種が福田君の誤譯である事が後に判然した。「オヤ、福田君は此んなに常識のない男か、此んな讀書力か。丸で中學生程度だ」と云ふ嘆聲を思はず發した。福田君は外の本は讀めるか知らないが經濟書は讀めないね。併し我國の經濟學者の中には福田君程本を讀んで居る人は恐らくあるまい否ないと斷言しても宜しいと思ふ。福田君が讀んで居る事は事實だ。併し讀めない事も事實だ。「謙遜なしだ」、「フェーヤでない」、「其個所を明示しろ」と謂はれ玆に身を切る思で友人の面を剝ぐ事にする。此材料は昨年偶然得たのである。相手が福田君であるから發表しない積であつた。今は背に腹は代へられない

福田君御免!

福田君は誤譯問題に彼是言ふ資格はない。他人の事を彼是言ふ前に自分で下らない誤譯を遣らない樣にする方が遙に急ぐではあるまいか「ボルシェヴヰズム研究」七三ペイチの誤譯が福田君が獨逸語も佛蘭西語も出來ない人で且つ常識のない男と云ふ事を證明して餘りある。福田君は七三ペイチ五行目から七四ペイチに亘つて左の通に述べて居る。

試に其文を邦譯して見れば「マルクスがインターナショナル中甚だ有用の人物たるは疑のない所である。今日迄彼の爲した所は彼の黨に對して善き影響を與へて居る。而して彼は社會主義の最堅固な支柱であり、プルヂョア的思想や傾向に對抗する最も堅固の鐵壁である。だから唯自己の私怨を報ずる爲めに、彼の善き影響を一掃し又は之を弱めることを予が企てるならば予自ら決して予を宥さぬであらう。然し乍ら予が彼と鬪爭を始めることは來るであらう而も短き月日の間に、然し共れは決して彼を個人的に攻擊する戰ではなく一の主義の問題に就てであることは諒して貰ひたい。即ち予は彼が其率ゆる英獨の共黨派と共に共最も輝ける主張者たる彼の國家共產主義と戰ふ爲めである。此戰は死生を賭する戰であらう。乍去凡ての事には時機がある、此戰を始むべき時期は今未だ到來して居ない」と云ふのである云々。

(一)福田君ともあらう者が「今日まで彼の爲した所は彼の黨

に對して善き影響を與へて居る」なんて、丸で中學生の飜譯其儘だ。マルクスがインターナショナルの首惱者になつて活動した結果が僅に「善き影響を與へて居る」位な程度だと思つたとすれば福田君は經濟史を知らない男だ黨の首領株は其の黨に對して「勢力」こそ振へ「影響」位で滿足する者ではない。マルクスが其んな男だつたと思へば福田君は常識がない。「インフリユエンス」は何時でも「影響」だと思ふのは中學生だ。「勢力を振ふ」と「影響を與へる」との差が判然しない樣な男は學者ではない。假に原文に「影響」と云ふ文字があつても其れを黨派の首惱者の事だからと云ふ意味で「勢力」と誤譯するのが常識ある人の陷り易い過だ。處が福田君に取て御氣の毒な事には英佛獨共「勢力」も「影響」も同字だ。常識があれば直に判斷の出來る事をボンヤリして居るのは此節の中學生に限ると思ひの外世界に名の響いた博士も同じ樣な不得要領を遣る。學問が低級になつた事の確證でなくて何だ。

（二）

「鬪爭を始めることは來るであらう」は「來るかも知れない」の誤譯だ。日本語を善く知らない外國人なら「あるだらう」と「あるかも知れない」との區別が判然しないかも知れない。此場台に予が假に「判然しないだらう」と謂つたとして御覽。隨分變な斷言になるだらう。此場合に福田君は「斷言になるかも知れない」で差支ないと思つて居るだらうか。原文では佛語にも獨語にも「來る可能性がある」となつてゐる。福田君に謂はせると此んな事は何らでも「善いかも知れない」でなくて「善いだらう」。

（三）

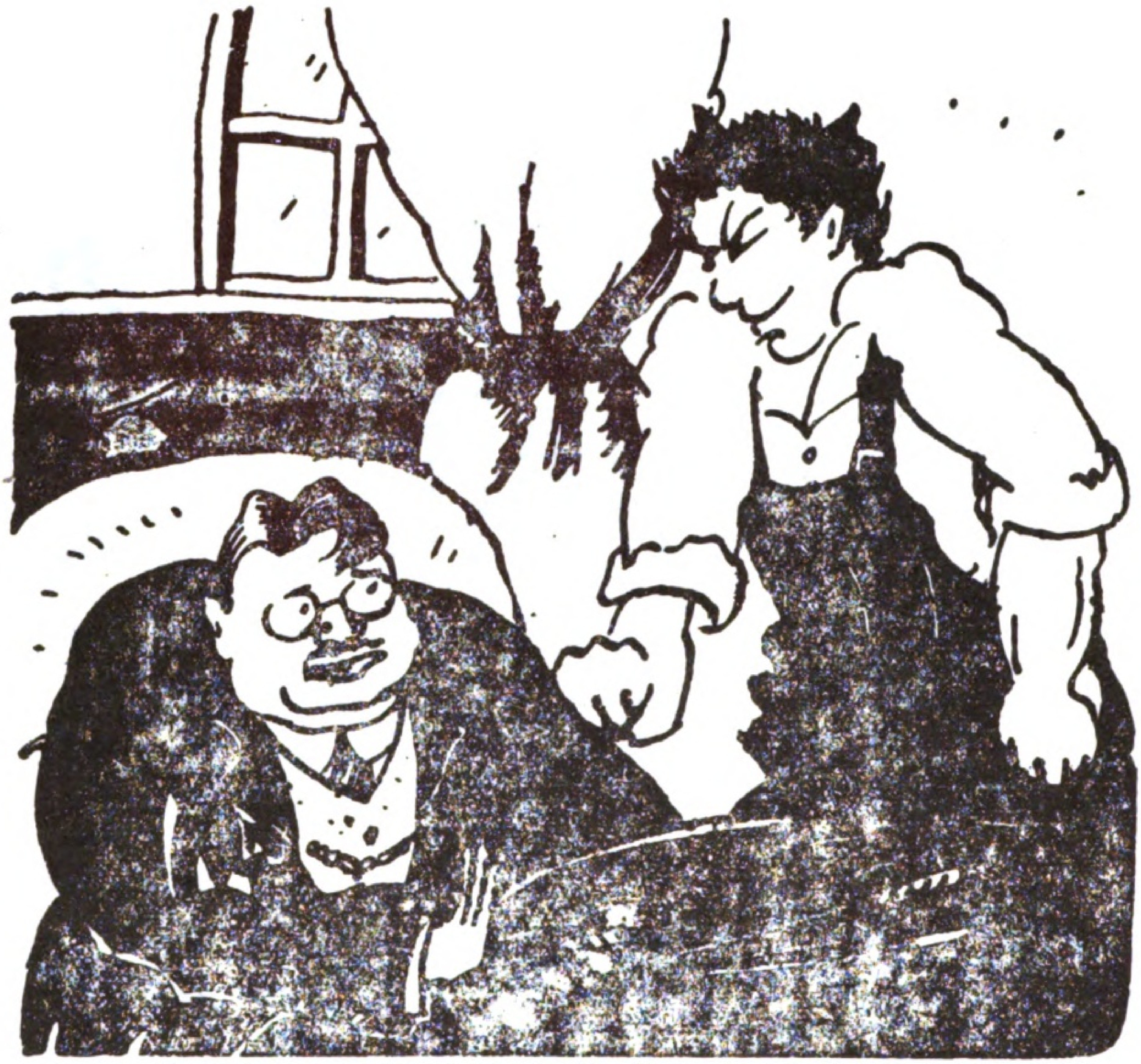
「凡ての事に時がある、此戰を始める時間の鐘はまだ鳴らない」と原文にクライマクスが使つてある。「時計がまだ時間を打たない」とは「機が熟しない」と云ふ意味。前の「時」と云ふ字に對して意味を强めたのである。福田君がまさか「時期」と「時機」との區別を知らないとは謂へまい。皆「時」にして了ふ程にボンヤリして居なかつたのはエラ相だが、實は唯原文が違つた字になつて居るから、區別のある字を用いたと云ふ丈で、原文の區別の深い意味は了解して居ないのである。原文の意味が判然して居れば日本一の博士ともあらう者が「時期」と「時機」とを使ひ誤る筈はあるまい。

（四）

發音なんか何うでも宜しいがブルヂョアではなくてブルジョアである。

僅か五六行の原文を飜譯するに此んな誤譯がある樣では「經濟書は讀めない」と謂はれても仕方はあるまい。福田君「卑見」があれば伺ひたい。

高畠氏には次號で反問する。



勞働者の要求

資本家の虐殺的搾取に奮然として起つた勞働者は、今や全世界のブルジョアを恐怖せしめつゝある。突撃の砲聲轟々と肉迫した勞働者の要求は、彼等をして戰慄せしめつゝある。勞働者の要求は、人間として生存して行く權利の要求である。彼等に奪ひ取られた生產の奪還である。今や此の生存權の要求は全世界に充ちくしてゐる。全世界の勞働者は、資本の國際的團結を望んで、之れと抗爭すべく、勞働者のインターナショナルへ進出し、萬國の勞働者の解放は、萬國の勞働者の團結にあることを知つた。國際的資本の團結と國際的勞働者の團結とが今や、白刃閃めく肉彈戰を演ぜんとしてゐる。隆々たる勞働者の鐵腕は、搾取にアブラ切つた資本家の便々たる腹を突破らんとしてゐる。而して十重二十重に束縛されてゐた資本の鐵鎖を斷ち切らんとしてゐる。鐵鎖よりの解放、手枷足枷の破壞、それ勞働者の團結に依つてのみ果される　勞働者の要求は單なる賃金値上、時間の短縮ではない。人類を黃金に依つて支配せんとする資本主義制度の××である。勞働者を束縛する賃金奴隷の鐵鎖の切斷である。萬國の勞働者は、鐵鎖を斷ち切る國際的團結へ進め！

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

カール・マルクス

――その生涯と學説――

カハン・コーテス

はしがき

一、プロレタリア解放運動の大恩人カール・マルクスに就ては、餘りにも多くが書かれてゐる。從つて今更ら本誌上に之を載する必要なきが如くであるが、而も尚ほマルクスが單に喰物にされてゐる今日、之が直截簡明な評傳は、今一度必要とされやう。二、以下は一九一八年五月五日、マルクスの生誕百年祭の紀念として、英國社會主義黨から、國際社會主義叢書の第六編として出版されたる、ゼルダ・カハン・コーテスの『カール・マルクス、その生涯と學説』(Zefda Kahan - Coates, Karl Marx ; His Libe and Teaching, London, 1918.) なる手頃な小册子の全譯である。三、尚ほところどころ譯註をつけた。より良き理解へのための故にてある。

一、生ひ立ち

カール・マルクスは一八一八年五月五日、獨逸のトリエールに生れた。父はユダヤ人系の人で、有名な辯護士であつた。此の父は優秀なる才能を持ち、高等教育を受けまた第十八世紀のフランスの自由急進思想に甚だ心醉してゐた一八二四年、プロシア政府は、總てのユダヤ人に向つて、基督教に改宗するにあらざれば、その官職を剝奪する旨を布告した。自由思想家にしてボルテールに私淑してゐたが父マルクスは、官職を棄てるに忍びずして、遂に改宗の命令に服した。母はハンガリア系の和蘭生れのユダヤ人で、その祖先は講師であつた。

カールは幼にして早くも恐るべき將來の聰明さを顯はした。そして幸にも彼の兩親は、彼に教養のための總ゆる激勵と機會とを與へることが出來た。

彼の父はラシーヌやボルテールを彼に讀んで聞かして、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

早くからフランスの古典に親しませた。また當時、彼はその將來の妻の父ルドキツヒ・フオン・ウエストフアーレンの家でホーマーや、沙翁を愛讀する樣になつた。カール・マルクスの勞働階級に對する深き同情や革命的熱情は、純眞なる識見及び研究の上に基礎づけられたものであつた。それは最初から單純なる感情、階級的差別、若しくは自己の苦境から出たものでは決してなかつた。尙ほ彼は冷かな哲學者でもなく人間味なき科學者でもなく、また歷史の派生的剖解者でも亦決してなかつた。彼の總ての親しき友達及び全生涯の顯はれから見ると、彼は彼の同時代人たるダーウインの如く、單なる科學者ではなかつた。然し天才であつたにも拘らず、人間の總ゆる愛情や、欲望や、情慾や、弱さを持つた多面的な人間であつた。彼の最初の文筆上の努力が詩であつたことは、興味あることだ。

彼の娘エリナーによれば、

「彼は常にその學友から愛せられ、また威敬せられてもゐた。愛せられてゐたと云ふのは、彼が常に子供らしい惡戯をしたからであり、威敬せられてゐたと云ふのは、彼が痛烈なる諷刺的な文章を書いて敵を嘲弄したからであつた。」

と云ふことである。全生涯を通じて彼は、詩、藝術、音樂を熱愛してゐた。彼の好んで讀んだ著書は、ホーマー、ダンテ、シエクスピア、セルバンタス、バルザツク、シエドリン、及びプーシエキンなどであつた。彼はハイネ、フライリグラート及びウエールトなど、その時代の獨逸革命詩人の總てと交遊してゐた。そして彼等の多くの革命的な詩を愛したのみならず、また彼等が共に巴里に居た時分には詩構を練磨するために、屢々ハイネを助け、詩の中の一語一語が總て滑かになるまで推敲し合つたものだつた。マルクスは、約六ケ國の國語を話すことが出來たし、フランス語と英語とは本國人の如く良く書くことが出來た。それのみならず、科學の發達にも深く興味を持つてゐた。リープクネヒトは一八五〇年の七月に初めて電氣機關が展覽された時にマルクスが、如何に驚いたかを述べてゐる。エンゲルスも、亦理論科學の總ゆる方面で新しい發見が爲された時に、マルクスが常に感じた喜びに就て大いに述べてゐる。然しエンゲルスは附け加へて、この喜びは、さうした發見が直ちに產業に適用され得て、それが爲めに社會の發展に貢献することが出來た時に、マルクスの感じた喜びとは同じものではなかつたと云つてゐる。一八五九年にダーウインの「種の起源」が出版された時、それ以前に於てさへ認めてはゐたが、マルクスはダーウインの業蹟の劃期的な重要性を直ちに認めた。そして獨逸の亡命者の集りの中では、數ケ月間と云ふものはダーウインの話で持ち切りだつた。

吾々はマルクスの普遍性を示さんが爲に、またマルクスを單なる「干からびた」經濟學者であつたと一般に考へられてゐるのを否定せんが爲に、以上のことを述べたのである。

吾々は次第にマルクスの後年の業蹟に就て、語るであらうが然し、玆で、吾々の示さんとすることは、マルクスですら經濟學を十分に明確にすることが出來なかつたと云ふこと——然し決してこの主題のより形式的な概念すら彼れ以前の經濟學者の樣に漠ぼんやりとは彼の業蹟には取扱はれてゐないのだが——また『資本論』の歷史的部分が、人間的同情と理解とに非常に滿ちて居り、說明が適切であり、諷刺が自然的であり、且つ的中してゐると云ふこと、ために如何なる勞働者も他の有り觸れた理論には耳を藉さなかつたと云ふこと、また一般の初等敎育は、彼が敎育上にある一種の集中力と決定力とを持つと云ふことを立證する彼の諸著作を摑むことを恐るゝの要がある等々のことである。

二、最初の政治的活動

十六才にしてマルクスは、ボンの大學に入學し、一八三六年には伯林大學に移つた。これは父の希望により、法律學を研究するためであつた。然し彼がその研究に多くの注意を拂つたとは思はれない。哲學はより深く彼の興味を引いた。そして彼の兩親の望みを失望せしめたにも拘らず、青年マルクスは熱烈なる哲學の學徒となり伯林の青年ヘーゲル派の團體に加はることになつた。其處でマルクスは多くの先輩の知己を得た。ブルノー・バウエルや・エフ・ケッペンス等が其れだ。彼等は間もなく此の年若き學徒の天才を認めた。（然し後にはマルクスと彼等とはその意見に於て甚だしく相違して來た）。既に當時に於て、彼の知識に對する渇望は盡きざるものであり、また彼の活動力や、自己批判や、哲學的又は歷史的問題を明確にする所の精細なる注意力等は驚くべきものであつた。一八四一年に彼は博士號を得、哲學の講師として大學に於て身を立てんとした。然し大學の私講師をし乍ら官憲に壓迫せられてゐた所の友人バウエルの經驗によつて、その樣な地位は取るに足らぬものであると云ふことを、マルクスは間もなく知つた。然るに同年、ライン地方の自由主義的ブルジョアジーは『ライン新聞』なる一新反對新聞を起して、マルクスは當時僅かに二十四歲であつたのに、彼はその新聞の主筆とされた。彼の編輯振りは、檢閱との一つの連續的鬪爭であつた。エンゲルスも云つてゐるやうに、『然し、檢閱は『ライン新聞』を倒す譯にはいかなかつた。』マルクスの人に勝ち、人を支配する偉大なる力は、既に玆に於て現はされた。檢閱官が不問に附した多くの箇所も、伯林の官憲は恐れを爲した。檢閱官は譴責を喰はされ又どし／＼更迭された。然し何の効果もなかつた。そこで政府は遂に此の邪魔者を除去するに最も良い、また最も確實な方法を採つた。即ち『ライン新聞』を斷然禁止したのであつた。この當時に於て、森林盜伐、自由貿易保護貿易などに關する論爭、即ち所謂物質的利害に關する論爭に從事することが必要となつた時に彼が感じた當惑が、やがて彼れマルクス

に經濟問題を研究するの最初の刺激を與へたのであつた。

三、結婚

この頃、マルクスは彼の少年及び青年時代の遊び友達であつたエンニー・フオン・ウエストフアーレンと結婚した。彼女は秀れた智力と、深き敎育のある婦人であつた。マルクスは、その一生の内助役として、これ以上の婦人を得ることは出來なかつたであらう。その結婚の日から、死の日まで、彼女は其の夫マルクスと、總ての喜びと悲しみとを、又總ての希望と抱負とを、共に分ち合ふたのであつた。彼等は互に身を捧げ合つてゐた。彼等の娘エリナーは、彼女の母が一八八〇年の秋に、重病のために、病床より起き上ることさへ殆んど出來ず父も亦肋膜炎を病みて次の室に寢てゐた時の狀態を次の如く述べてゐる。即ち曰く、

「モール（これはマルクスの綽名で、彼の頭髮や髭が眞黑でモヂャ〳〵してゐたから、家族の者や友人達がから呼んでゐた）は、この時その病から癒えた。私は、父が愛する母の室に行ける程に丈夫になつた朝のことを決して忘るることは出來ない。兩親はもう一度若返つた樣だつた。母は初々しい少女となり、父は愛らしい若者となつて、共に新しい生活に入つた樣だつた、病氣のために身體を壞してゐる老父でもなく、お互に永遠の別れを告げて死んで行きかけてゐる老母でもなかつた。」

また此の極端な無神論者且つ、共產主義者に對してもこの結婚だけは如何なる敵と雖も天國に於て成就されたものであると云はずには居られまいと、メーリングは述べてゐる。

四、エンゲルスとの會見

「ライン新聞禁止後、マルクスはその新妻を携さへて巴里に行つた。巴里で彼は暫時『獨佛年誌』のために働いた。また後ちには巴里の「進め」に寄稿した。前者に働いた當時マルクスは、フリードリヒ・エンゲルスと知り合ひになり、それ以後この兩人は、私的にも、政治的にも、また文筆的にも、最も親密な間柄となつた。この時分マルクスは既にその唯物史觀の基礎の第一步に到達してゐた。彼は共に主として哲學的方面から到達した。之に反してエンゲルスは、近世產業の搖籃地たる英國に長らく生活してゐて英國に於ける產業生活の實際狀態の研究の結果から、同一の結論に到達してゐたのであつた。かくして彼等は相互に補充し合つて、唯一人では完成するに決して不可能ではなかつたにしても非常に困難であつたであらう所のものを共同で仕上げることが出來たのであつた。この時以來彼等は殆んど每日の樣に、直接に又は手紙によつて、交際をなした。そして如何に彼等の文筆上の關係が、興味あり、且つ、親密なものであつたかは、數年前、獨逸に於てベーベル及びベルンシュタインに依つて出版された彼等の相互に取交した四卷から成る書簡集によつて見ることが出來る。主としてマルクスは、彼等の業績の、より深き理論的方面の研究と調査とに沒頭した、そしてエンゲルスは、主として彼

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

等の理論的演繹の實際的適用に勢力を費し、反對者との論爭に努めた。然し、書いた所の一つの言葉も、宣言した所の一つの政策も、最初には彼等二人の間で論じられたものに外ならなかつたと云ふことは、エンゲルス自身の權威のために一言して置かねばならない所である。

五、唯物論的辨證法

彼等兩人の最初の科學的業蹟は、獨逸哲學の當時の學派を完全に打破することであつた。マルクスが、未だ伯林に學んでゐた當時に、彼が青年ヘーゲル派に加入してゐたことは、既に之を述べた。マルクスはヘーゲルの哲學を完全に修得した。然し、盲目的な模倣者、若くは未派にはならなかつた。彼は歴史の研究と解釋との爲に、革命的であり又有益であるもの丶總てを其中から引出した。ヘーゲル哲學は、進化の法則として、現狀の不斷の變化と倒壞、及び新しき反對物の生長、並に現狀の崩壞とを提案してゐることの法則に依れば、古いものゝ中に新しきものが發生し、そして此の新しきものゝ發芽が生長するにつれて、最初は此の二つのものゝ間の相違は單に量的であるが、然し此の量的相違がある一定の段階に達すると、二つの間に分裂が行はれ、その差異は質的になるものだ。此の法則は有機體にも無機體にも通ずる眞理である。されば其れを若干の例を以て説明するために、暫くの間止るだけの價値はあらう。

化學に於ては、炭素及び水素の原子を含有してゐる數によつてのみ他の物から區別される所の炭素含有物の數種がある。そこで若し沼氣を例に取るならば吾々は其をCH_4と表はすだらう。若し吾々が此に勝手な條件の下に炭素(C)又は炭素(H)を加へるならば、吾々は唯だ沼氣と炭素若しくは水素の混合物を得るのみだ。これが續けられて、遂に吾々は炭素の一原子と水素の二原子との割合で量を増加するやうにまでなる。すると其の物質の全性質は變化し、かくて吾々は新しい性質を帶びた新しい瓦斯、アセチリン(C_2H_2)を得るのである。即ち量が質へと變化したのである。

さて次には、物理學から簡單なる一例を取つて見やう。水に熱が加へられると、次第に溫度を増すが、然し或る一定の點に達する迄は、水の變化は單に溫度の相違である。即ち根本的には冷水と熱湯とは、同じ液體である。然るに加へられた熱が一定の量、即ち攝氏の百度(100°C)、又は華氏の二百十二度(212°F)、に達すると、水は俄然として新しい物質、即ち水とは全く異つた性質を帶びた一つの瓦斯、即ち蒸氣となるのだ。即ち量が變じて質となつたのだ。

さて歴史からも一例を取らう。勞働者が土地に縛りつけられてゐた間は、所謂農奴制度なる社會形態が存續した。併し生産及び商業が發達するにつれて、勞働者即ち勞働の見付かる所へと浮浪して行く移動勞働者を解放する事によつてのみ達せられる所の一定の土地に於ては、自由に働くことの出來る權利を與へることが、次第々々に必要となつて來た。同じ農業の古い方法と形態とが、何れも土地所有者

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

に取つて不便なものとなり、又さほど有利なものでもなくなつて來たにつれて、土地所有者は農奴に依り以上の行動の自由を與へるか、又は強制勞働を賃金勞働か又は小作勞働に變更する樣になつた。かくて次第に社會の中に奴隷制度の廢止のための凡ゆる條件が發達し、此の發達が或る一定の段階に達した時に、奴隷制度は自由な私的生産に道をゆづるのだ。そして或る場合には、此の變化はより多くの強力な、而して他の場合には、より少しの強力を待つて遂行される。又、或る場合には、その變化は急激であり、他の場合には緩慢である。然し何れの場合に於ても、その變化は革命的なものだ。即ち、新しい形態の社會が、古いのと取つて代つたのだと云ふのは、新しい狀態が、此の變化を必要としたからだ、

生活に於ける總ゆる經驗及び總ゆる科學から證明され樣からして、かうした例を、これ以上に重複して述べる餘裕を我々は持たない。かうした法則や、かうした研究方法をば、マルクス及びエンゲルスは、ヘーゲルの哲學から取り來つた。然し彼等はヘーゲルの辯證法を強く主張したにも拘らず、その獨斷的にして唯心的なる構想には反對した。ヘーゲル哲學は、總ゆる他の唯心派の哲學と同樣に、思想は現實の狀態の投影ではない、獨立して存在するものであり、且つその發達は事物の發達の基礎をなすものであると云ふことを認めてゐる。然しマルクス及びエンゲルスはこれを否定した。彼等は唯物論を基礎となし、イデオロギイ、即ち事物から離れて發達する獨立の思想の代りに、現實の事物と、目的と、及び歴史との世界を基礎となした。彼等は此の新しい辯證法的唯物論を發揚すると共に、一八四五年に出版された『神聖家族』なる一書に於て小ブルジョア的ヘーゲル派がヘーゲル哲學に植えつけた所の用法を打破した。後に彼等は此の同一問題に關して今一つの著書を共に書いた。そして此は出版さるゝには至らなかつたが彼等自身の觀念を、はつきりするに役立ち、又彼等が唯物論的觀念に完全に把握するに役立つたものである。

この當時マルクスは巴里に於て經濟學を研究してゐた。而して又プロシア政府に對して猛烈なる攻撃を加へてゐるた。而して此の攻撃は、彼を巴里から追放することに依つてその復讐をなした。かくてマルクスはブルッセルに行きそこで時々『獨逸ブルッセル新聞』のために筆を執つた。

一八四六年の自由貿易會議に於て、マルクスは自由貿易に關する一演說を試みた。（譯註此の會議ではブルジョアに敬遠され實際にはブルッセル民主協會で試みた）。此の演說は後にパンフレットの形で發行された。また一八四七年には、彼はフランス語で『哲學の貧困』を書いてプルードンの『貧困の哲學』なる著作に抗辯した。此の著作に於て、マルクスは、彼自身及びエンゲルスに依つて、採用されたる唯物論的革命的形態でもつて、ヘーゲル式の辯證法を用ひ、飾りなく社會法則を構へ、以て近世科學的社會主義の基礎を發展せしめてゐる。（未完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

勞働運動講座

佛蘭西の勞働運動

淺野研眞

第一節　序說

近世的な洗禮を最も早く受けたものは、正しく佛蘭西であつた。從つてフランスの諸事物は、多かれ少かれ、諸外國に影響を與へた。その首都パリーは、一時は全く革命の都として、全世界の革命家たちの訪問を受けたものであつた。

フランスの近世的社會變革は、云ふまでもなくフランス大革命にその端を發してゐる。この大革命は一七八九年八月二十六日の人權宣言によつて、その最高潮に達した。フランスは此の大革命によつて、中世期的な封建制度を脫却し、所謂『古制』（アンシヤン・レヂーム）を去つて、ブルジヨアジーの社會を建設した。

然るに反動的勢力は、一時ナポレオン一世なるものゝ功名を可能ならしめたが、既にして彼れも沒落し、次に所謂王政復古の時代（一八一四年四月十四日――一八三〇年七月二十九日）が來るのである。此の時代は、初めにルイ十八世があり、後ちに王帝チャールス十世が即位した。然るにチャールス十世は極端なる保守主義を執り、恣に憲法を更め、言論、出版の自由を妨ぐる等、壓制甚だしきものがあつた。かくて一八三〇年の七月革命は勃發したのである。

この七月革命の結果は、王家の支族ルイ・フィリップが、迎へられて王位に即いた。（その治世は一八三〇年八月七日より一八四八年二月二十四日まで）。

ルイ・フィリップは、その位に上るや、善政を行はんことを約したにも拘らず、却て人民の自由を束縛し、何等革

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

命前に變る所がなかつた。かくて一八四八年の二月革命は勃發し、王は英國に脱れ、民衆は假政府を立てゝ、共和政治の建設を宣言した。（此の第二共和制時代は、一八四八年――一八五二年十二月二日まで續く。）

此ノ共和制フランスは、新憲法を制定し、ナポレナン一世の甥ルイ・ナポレオンは國民の公選により大統領となつた。彼は功みに善處し、一八五一年に至り、遂に國民大多數の投票によつて皇帝になり、ナポレオン三世と稱した。かくて共和政は一轉して帝政となつた。（此の帝政は一八五二年――一八七〇年九月四日）

然るに一八七〇年七月に至り、ナポレオン三世は、帝國主義的野心よりしてプロシヤと開戰するに至つたが、次年一月を以て獨逸に降を乞ふた。これ有名なる普佛戰爭であるが、この結果帝政は再び沒落し、共和政は三たび開かれた。この時のプロレタリアーとの活躍は、有名なる巴里コムミユーンの其に現はれた。而して此の共和政は、今日にまで持續して居るが、然し其は決してプロレタリアートの其ではない。反動的ブルジョアジーの共和政たるに過ぎないことは云ふまでもない。即ち其は、ブルジョア革命たりしフランス大革命の精神を未だに基調とするものであつて、プロレタリアの革命は今世紀に入つて、遠く飛んでロシアの地にいち早く花を開いた。さあれ、前世紀に於ては、フランスの諸事物は、多くの影響を國際的に及ぼしたものであることは、否定され得ない。

我々は以下簡單に、フランスの勞働運動の史的發達を記述しやう。

第二節　巴里コムミュンまで

一、革命の連續

全く近世的ブルジョアジーの共和國を最初に生み出したのは、正しくフランスであつた。一七八九年を以て其の最高調に達したるフランス大革命は、ブルジョアジーをして支配階級の地位に座せしめたものであつた。近世的な勞働運動は、經濟的には英國の産業革命が父であるが、政治的には佛蘭西大革命が母である。

然し大革命は、結局はブルジョアジーのためのものであつて、それに參加した一般民衆は、やがて純然たるプロレタリアートへと階級化して行つた。

かくしてブルジョアジーに對するプロレタリアートの反逆が勃發し初めた。

その最初のものは、一八三〇年の七月革命であつたが、これはプロレタリアートに取つて大なる出來事ではなかつた。然し一八四八年の二月革命は、その餘波が全歐洲に及び、プロレタリアの革命と經驗に於て、重大なる意義を持つ最初のものであるとされる。マルクスには、この二月革命を論評した「フランスの階級鬪爭」なる著作がある。レニンもその著「國家と革命」中、この革命を最初に論評してる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

然し此の二月革命は、結局は失敗した。前述の如く、一八五二年十二月には、ナポレオン三世のクーデターが行はれて、帝政を見るに至つた。この事件に就いては、マルクスは『ルイ・ボナパルトの霧月十八日』なる一書を著はして、之を論評してゐる。

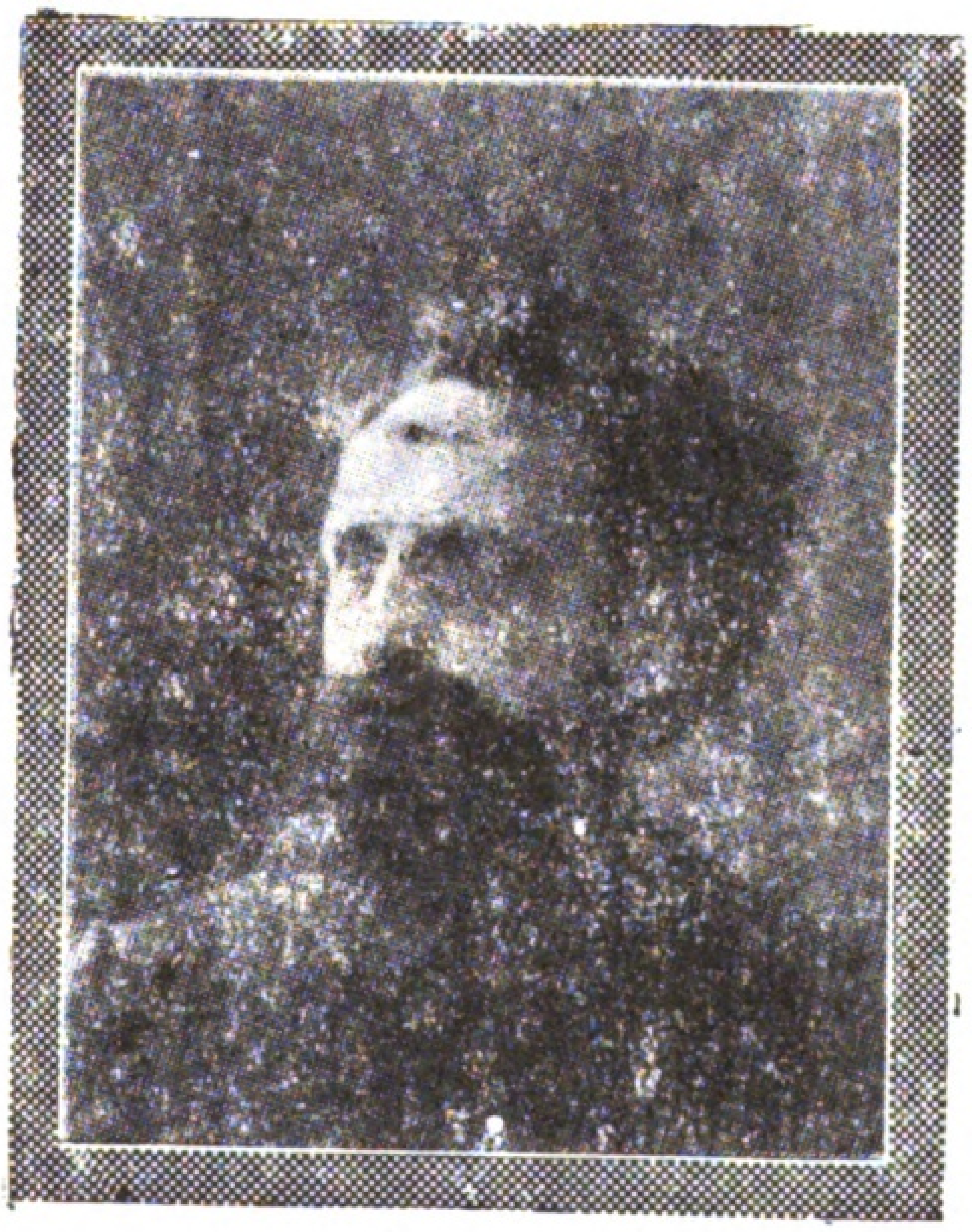
更に、一八七〇年に至つては、普佛戰爭を機緣として、かの有名な『巴里コムミュン』革命運動が勃發した。これは『近世プロレタリアの解放運動史上の一大事件であつて、後年のロシア革命は、此から多くの教訓を學んだとさへ云はれてゐる。（レニン『國家と革命』參照）。

マルクスは此の事件に就て、『フランスの內亂』（別名『巴里コムミュン』）――阿部浩氏の譯あり――を著はし、之が論評を試み、

『勞働者階級は單に出來合ひの國家機關を掌握し、そして其を自己の目的のために運用するを得ない』（一九二〇年、フオルベルツ版、八六頁）

と述べてゐる。

而して之の後の反動政治は、ナポレオンをこそ生まなかつたが、今日に至るまでのブルジョア共和國を建設せしめた。然し此の時代のフランスの運動は、全くその一擧一動が、全歐洲へ、否な全世界へと影響を及ぼし、國際的に視聽を集めたものであつた。マルクスの如きも、常にフランスに起つた諸事件に對して、之が批評を續けたのも、正に故ある哉であつたのである。



ヂユール・ゲード

二、思想界の推移

此の間、思想界は、フランス大革命の原動力たりし、ルソーの民約論を既に早く飛躍した。そしてアブリーや、モレリーの萌芽期をも過ぎ去つて、サン・シモンや、シャルル・フーリエーなどが盛んに一家の言を爲しつゝあつた時代であり、次いでカベーや、ルイ・ブランが現はれブルードンの思想の風靡した時代であつた。また此の時代の巴里は、歐洲の革命家の凡てを育てた所であつた。即ちラッサールと云はず、マルクス、エンゲルスと云はず、バクーニン、クロポトキンと云はず、此等總ての近世社會思想史上の偉人は、巴里生活の間より精錬され來つたものゝ如くであつた。

三、結社と斷壓

而して此等の社會思想家の直接、間接の影響は、當時、勃發しつゝあつた勞働大衆及び、勞働者の結社は、全國至る所に出來初めた。かくて政府は、之が斷壓のために、既に早く、一七九一年に、ル・シャプリエー法を發布して居る。この法律は一八八四年に勞働組合法が制定さるゝまで約一世紀間も存續し、勞働組合運動を壓迫したこと大なるものがあつた。ためにサンヂカリズムの如き、直接行動論が生れたのであつた。

一八七〇年の普佛戰爭の勃發は前述の如く、之に相次いで巴里コムミユンの革命運動を見た。これは近世的プロレタリア解放運動史上の、一大重要事件であつて、プロレタリア階級のために大なるシヨツクを與へたが、一八七一年のその失敗以來、却つて反動勢力に乘ぜられたる觀がないでもなかつたのである。

第三節　勞働政黨の擡頭と進展

巴里コムミユンの失敗後は、暫らくは反動時代が續いた。然し一八七九年に至り、勞働勢力は再び頭を擡げかけて來た。即ち此の年、マルセイユに於て、勞働組合會議が催され、ヂユール・ゲードのマルクス主義的綱領が採用さるゝに至つた。そして『社會勞働黨』なる名稱が用ひられた。然し同黨は、一八八一年の選擧には、不成功であつた。一八八二年の選擧では、ポール・ブルツスが可能派なる新團體を作つて、ゲード及びポール・ラフアルグの率ゆるマルクス派を逐ひ出した。

アルマーヌ

フランスの勞働政黨は、一八九〇年代まで、大略五派があつた。その中の二派は上述したものである。後の三派はアルマーヌの率ゆる第二可能派と、ブランキー（一八〇五―一八八一）の古い革命的傳統を固執するブランキー黨と、及びミルランや、ジヤン・ジョーレス（一八五九―一九一四）等の獨立黨が其れであつた。

さて、一八九三年の選擧には、四十名の代議士が、總計五十萬餘の投票數を以て、選出せられた。

ジヤン・ジョーレスは、先きに急進黨として、一八八五年に選擧されたが、一八八九年には早くも其の席を失つてゐた。

然るに一八九三年には、一社會主義者として立候補し勿

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論當選した。それ以來彼はフランスの最も重要なる首領として活躍したが、世界大戰の勃發と共に、巴里の或るカフエーで暗殺された。彼は元來、哲學教授であつたが、後ち長らく社會黨の日刊新聞『リュマニテー』の主筆をしてゐた。兎に角彼の死は甚だ悼まれた。（彼の死後、一九二四年十一月二十三日に至り、彼の遺骨はパンテオンに祭らるるに至つた。）

一八九八年には、有名なドレフエーズ事件が起つた。當時ジョーレスは、彼自身、特殊的な氣力を以て事件の渦中に飛び込むに及び社會黨員の多くは、軍國主義に抗して彼の指揮に從つた。然しゲード一派の人々は、社會主義以外の事件に社會主義者が關係することを駁撃した。

然しミルランが、ワルデック・ルッソーの招きに應じて入閣し、ヂョーレスが其の行爲に賛同した時には、諸團體間の共力は、これを最後として遂に終りを告ぐることになつた。

一九〇四年のアムステルダムに開催されたインタナショナルの會議は、主としてミルランの活動の政策を商量するために用ひられた。ジョーレスは、その同國人を率ひ、等しく獨逸のベーベルは他方を占め、彼と共に會議を運ばしめた。インタナショナルの會議の決議は、大陸の社會主義者によつて、殆んど教書の如く考へられてゐた。かくてジョーレスは裁決を受納した。かくて一九〇六年には『統一社會黨』なるものが組織された。然し各團體の固有精神は仲々に失せずして、名實共に統一黨たることは難かつた。然し此の統一黨から、一九〇六年の選擧には五四名が選出され、八七七、九九九票が投ぜられた。また一九一〇年には七六名、一、一二五、八七七票に增加した。

ジヤン・ジヨーレス

此等は、歐洲大戰前のフランスの狀態であつた。社會主義は確かに一種の原動力であつた。それは一面はサンチカリズムやアナルキズムにほかし、他面は急進主義及び共和主義に隱れてゐた。而してブリアンの如き大政治家にして社會主義者たるものがあるかと思へば、アナトール・フランスの如き文學者にして社會主義者たるものがあつた。從つて社會主義運動は、フランスの全社會面に浸潤してゐて、單に投票數のみによつて、其を測量することは出來なかつた。（カーカップ『社會主義史』三二六―三三〇頁參照）。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第四節　C・G・TとC・G・T・U

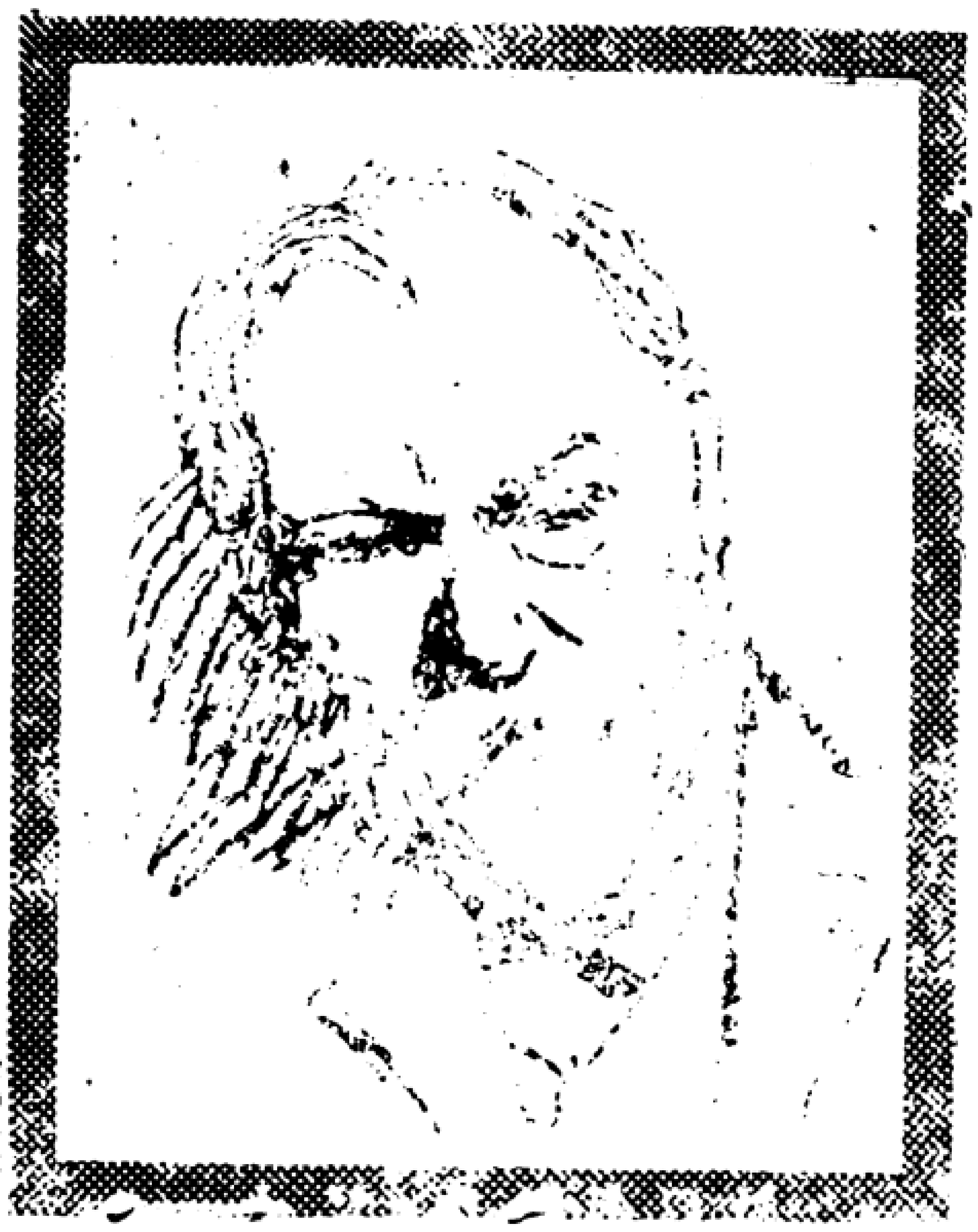
一、C・G・T

フランスに於ては、勞働議員は、勞働大衆を裏切つた。ために組合は、勞働政黨及び其の議員に對して不信任を抱くに至つた。そして其の結果、組合の中には、政黨より全く離れ、政爭に係はることなく、勞働者を經濟的に結束せんとする欲求が次第に強くなつた。既に一八八六年の勞働組合大會には、組合の「政治的中立」を主張する者があつたが、未だ大會を制するに至らなかつた。所が一八八八年の大會では、勞働者の革命的武器の善良なるものとして、總同盟罷業を推賞する決議をなした。之が當時勃興せるサンヂカリズムの反映であり、政治運動に對する大なる不信任の表はれであつたが、更に一八九三年の大會に於て組織された「總同盟罷業調査委員會」は、その決議中に、從來の議會が何等見るに足るべき事を爲さなかつたのに顧みて、立法による鬪爭を信用せざることを述べ、「勞働者の唯一の革命的武器は、只だ總同盟罷業あるのみ。」と云つてゐる。而して此を熱心に主張したのはアルマーヌ派と、ブランキー派の組合であつて、ゲード派のものは之に反對した。

次いで、一八九四年の大會では、前述の調査委員會の決議を採用すべきか否かに就て議論が分れたが、結局、大多數を以て此の原則を認めることになつた。而して少數反對者は、此時大會を脱退した。そこで多數派は、翌一八九五年九月、勞働總同盟（C・G・T）を組織した。此のC・G・Tの最初の定款は、此の問題に就て次の如く定めた。

「C・G・Tの構成分子は、何れの政黨にも關係を持つてはならぬ。但し個人としては、如何なる政黨に加入しても自由である。……」

而して爾來、C・G・Tは、終始一貫して、此の政治運動否認の原則を採用し來つてゐる。



ジョルジユ・ソレル

C・G・Tは、又、一九〇二年に至り、勞働取引所聯盟（Federation des Bourses du Travail）と提携し、大いにその勢力を加へ、佛國勞働運動の、中心勢力をなして進んだ。

而して當時サンヂカリズムは、此の運動の指導精神であり、ジョルジユ・ソレルはその理論的代表者であつた。

一九〇六年の九月、C・G・Tはアミアンに於て大會を開き、この時、有名な『アミアン憲章』なるものを決議した。この決議は、傳統的サンヂカリストの呼んで以て組合運動の聖書の如くしてゐるものである。即ち當時のフランスの政治運動の狀況に鑑み、「C・G・Tは賃金制度の撤廢のために行ふ鬪爭を自覺した總ての勞働者を、一切の政派の外に立つて結束する」と云ふC・G・Tの規約第二條を確認した決議を通過し、所謂「政治上の中立主義」を決議し、尚ほ一切の改良主義、協調主義を排して、階級鬪爭主義、革命主義を高調した。即ちアミアン大會は、次の如き綱領を決議した。

「勞働組合運動は勞働時間の短縮、賃金の値上等直接の改善を施す事によつて勞働者の地位を向上せしめる目的を以て、勞働者の努力を糾合することを日々の鬪爭に於て努めてゐるものである。然し乍ら、この努力は、勞働組合運動の使命の單に一面を示してゐるに過ぎない。勞働組合運動と云ふものは、資本家なるものを絶滅することによつてのみ實現せられ得る所の完全なる解放を準備するものである」

然るに、やがてC・G・Tの內部にも、左右兩派が發生し來り、歐洲大戰後に至つて、大きな分裂が行はるゝに至つた。

二、C・G・T・U

大戰後、C・G・Tの左翼の一派は、ロシア革命の影響を受けて、分裂して統一勞働總同盟（C・G・T・U）なる新團體を創立した。これは共産主義を奉じ、赤色勞働組合インタナショナルにも加盟して、共産黨と密接なる關係を保持した。

元來、大戰前の佛蘭西勞働組合運動は、C・G・Tの獨舞臺であつて、その標榜せる非政治的のサンヂカリズムは、各國の勞働運動に多大の影響を與へたのであつたが、ロシア革命以來、その左翼に屬する各團體は、獨立して此のC・G・T・Uを組織したのであつた。即ち一九二一年、リール大會に於てC・G・Tは分裂し、一九二二年、サン・エチエンヌの大會に於てC・G・T・Uは組織された。そして當時約一千百六十五團體が之に參加してゐたが、その大部分は共産主義に傾き、その少數派は、無政府主義者とサンヂカリストであつた。而して共産派と無政府派の鬪爭が續き、終には再び分裂を見るに至つた。共産派の云ふ所によれば、サン・エチエンヌ大會に於て、無政府サンヂカリスト派は、C・G・T・Uを以て當時伯林に創立された無政府主義インタナショナルのフランス支部ならしめんと試みたのであつたが、共産派に多勢を制せられた爲め、その目的を達せず、其後も斷えず無政府サンヂカリスト派は、C・G・T・U內の小數反對派として內訌紛爭に努力しつゝあつたとのことである。

前記サン・エチエンヌ大會に於て、C・G・T・Uは既に第三インタナショナルを承認し、赤色勞働組合インタナシ

ーナルに加盟した純然たる共產主義の勞働團體であつたので、無政府サンヂカリストの一派は、當初より不滿を抱いて居て、やがては分裂を見るに至つた。

而して此の小數派も亦、これを二派に區分することが出來た。

即ち一は、純然たる無政府主義者の一派で、勞働組合を以つての宣傳機關に過ぎずとなし、共產主義の社會化乃至無產者の獨裁を絕對に認めず、總同盟罷業によつて一擧に未來社會の實現を期せんとするものであつた。

また他の一派は、自由聯合主義的のサンヂカリストであつて、之は無政府主義、共產主義とを折衷した如きもので無產者の獨裁と社會主義國家とを絕對に否認してゐるが、而かも飽まで、自由聯合主義の組合運動を支持するものである。

即ち兩派の共通點は、反政治的なることゝ、ソビエット幹部の獨裁に反對せる點である。

かく、C・G・T・Uの內部では、共產派と無政府派とは、絕えず衝突し來つたが、遂に一九二四年十一月に至り、愈々無政府サンヂカリストの一派は、獨立して統一勞働總同盟を脫退した。

然し此の一派は、大なる發展を來さないであらう。

擲散彈

六大都市青年團第四回役員會議が、過ぐる四日、横濱國立生絲檢查所に開かれた。其の重要議案たる「全國青年團員の精神的結合を一層旺んならしむる件」（東京提案）が上提され六名の委員附託にされたとのこと。

此の精神的團結力を一層旺んならしむる事は愈々益々、支配階級的ブルジョア奴隷思想の涵養に外ならぬ。しかして此の議案の決議案（十ケ條）を見る時、吾々は彼等の頭の如何に三四の紀に迷れて居る事に驚かざるを得ない。即ち其の一項に曰く「一、全國青年團員の服膺すべき信條を速かに制定し、これが實行を期すること」「五、標準團服を制定し、これが統一をはかること」「七、青年團禮式を制定しそれが統一をはかること」等であるが、皆是れ形式一點張りの封建時代の殘骸でである。即ち是れ等は全國的青年團の統一に非ずして一律平等に同じ袴を穿せんとする劃一主義の餘弊である事は云ふ迄も無い。かくて、漸次、活動期にかける情熱的青年の思想をば[illegible]し、加ふるに青年に於ける軍國主義化を企圖するものに非ずして何であらう。六大都市の都會青年は云ふに及はず、小都市、農村等全國の先驅青年は一齊に起つて既成、官製青年團を彼等反動ブルジョアーの手先より奪還しなければならぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

一、緒　論

一、緒論　二、殖民地の定義と統治の關係　三、殖民地の意義　四、殖民の種類――A、政略的殖民　B、商業的殖民　C、農業的殖民　D、徵殖的殖民

二、殖　民　政　策

一、從屬主義　二、同化主義　三、自主主義

三、殖民政策史的概觀

一、古代――1、埃及　2、東方諸國　3、フイニシヤ　4、カルセージ　5、希臘及羅馬　二、中世史――1、アマルフイ及ピザ　2、フロレンス　3、ゼノア　4、ベニス　5、中古時代の比較研究　三、近代――1、英國　2、佛蘭西　3、和蘭　、其他の諸國

四、殖民地に於ける諸問題

一、經濟問題――1、マーカンチリシステム　2、開拓會社　3、勞働問題　4、政治問題　二、政治問題――1、法制　2、行政　3、司法　4、其他一般　三、文化問題――1、歷史敎育　2、宗敎　3、藝術　4、風俗習慣　四、思想問題――1、民族思想、2、社會思想

五、結　論

1、帝國主義批判　2　殖民地問題、歸趨　3、結論

殖民政策裏面研究（五）

――弱少民族は斯くして滅ぶ――

金　熙　明

近世史

歐洲文明の世界的發展は之を十五世紀の始に於ける諸活動の結果と見て差支ない。即ち歐洲の諸民族は當時英雄主義を尊重し冒險を好んで海洋を航破し、新大陸を發見し、もしくは遠隔の地方と通商交易をなし又は之を征服して殖民政策による國家の發展を期してゐたもので、勢ひ中世の暗黒時代は漸く終を告げて、そこに起る反動的社會の風潮は、人類の文化の起源を捲き起した。いまその尤も直接的にこの氣運に影響を與へた發明を擧ぐれば、羅針盤の發明、彈藥の發明、印刷術の發明等で、之等の發明が當時の國家發展のため弱少民族を殺戮迫害し侵略强制した最大要素となつたのはいふまでもなく一八九七年の七月バスコデガマが喜望岬を廻り一四九二年コロンブスの新大陸の發見並びに十八世紀に於ける産業革命等は遂ひに近世資本主義國家の帝國主義を胚胎する途程となつたのである。斯くの如くにして近世殖民史を詳論することは全く容易ならざる仕事である。故に私は玆に於ては簡易を主旨として特に英國殖民史のみに就て比較的詳論を試みんとする。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

英吉利

英國は近世殖民史の中、特に大書すべき諸要件を具備してゐる大帝國である。故に私は本章に於て可及的詳論を試みんとする。前章に於て已に殖民學上の分類をローマ的帝國主義系統並に英國的帝國主義系統の二種に分類して論究したが、更に英帝國の殖民制度に關する思想を觀察すれば殖民地は廣義の殖民思想及び狹義の殖民思想の見解を自ら異にし、殖民地を單に香港、新嘉坡の如きものなりと概論しあるひは單に王領殖民地と自治殖民地の二種となすものもあり、また隨處に形體方式を異にして共通の形式的原則の法度がなきものと唱へる者もある。しかし茲に於ては私は廣義の殖民制度思想を採用して間接內接に英國の國際上の帝國主義發展に手段化される諸領土を包含して論じやうとする。即ち英國皇帝がその王位を兼攝する印度をも殖民地となし、保護國若しくはアイランドの如きドミニオンの位置にあるものも國際上經濟上の方面に於ては一種の殖民地に見做すべきは勿論、特許會社の領地其他のデペンテンシーの全部に就て論及せんとするものである。この見地より英國殖民地制度を觀察するにその形體は歷史的發達の順序に依りて劃一的なるものにあらず、大凡三四十の形式があると雖も、その間また一定の通則の聯絡をみるものでそれに從ふと英帝國の殖民形式は七種の分類と見る事は可能である。即ち特許會社殖民地、王領殖民地、自治殖民地、半自治殖民地保護國從屬殖民地、特別殖民地の如きもの之である。因にいま之を項別に詳論せんとする。

一、特許會社殖民地

英國がアメリカを拓殖し、印度を開發したのは、この方法に依るもので其他の諸殖民地も多くこの制度により獲得したものである。即ち東部亞弗利加を千八百八十八年に獲得し、南亞弗利加ロデシヤ地方を千八百八十九年にこの分方法を用ひて獲得したるに依り以後殆んどこの制度を採用するのは勿論、獨逸、葡萄牙の如きも競つてこの制度を採り佛國も亦この制度を各殖民地に模倣しつゝある

二、特許會社の權利其他

英王が北米の新領地を開拓するに當り、その土地を分割してその寵臣若しくは重臣に與へて「土地を有する者は共土地に附着する人民をも支配する權あり」といふ土地と人民を兼ねて與へたために自然一個の專制封侯を生じるやうになつたが、後にこの特權は冒險者等の組織した會社に移り、政府は更に特許狀を該會社に與へて法律を制定し、租税を徵收し、人民に制令する權力を許可したが、遂ひにそれが今日の制度に及んだものである。その當初にあつて會社は貿易專有の權があつたけれども現今はたゞある程度の禁制權を與へてゐるなほ會社によつて相違はあるけれども、大要軍務警察の名の下に歐洲士官をして土人を鬼集訓練せしめて、一種の軍隊を起こす權限、貨幣を發行し、河川用砲艦を有し、法律を作り、租税を徵收する權及びそ

の選擧したる會社の社長に、政府は直ちに之を總督若しくは太守の權を行はしめ、或ひは別に駐在官もしくはコムミシヨナアを派遣して相幇助せしめたことがあるけれども會社の社員其他は官吏として會社自身が選定することが出來その會計係は大藏大臣、社員取締掛は即ち警視總監を以て任命することから推察してもこの會社が殖民省もしくは拓殖省の直接手先でなければならぬ。朝鮮に於ける東洋拓殖會社はほゞ之に類似したるものである。現今この種の著名なる殖民地はボルネオにして、ナイヂヤア會社及び東亞弗利加會社は數年前、その期限盡きて權利を政府に賣却して終りを告げ、其他は南亞弗利加會社がロデシヤにある。

三、王領殖民地

王領殖民地はまた直轄殖民地とも稱ふ。その名の示す如くその權限が王室に屬し英國の政治樣式たる議會の發言權若しくは民選議員の制度を廢し、全然王權の發動によるものである。太守若しくは總督、直接王權を代表する獨裁官にして、本國政府の他何人も之を動かすことの出來ないのが原則である。初め英國がその殖民地を開くや殖民地の太守に重權を與へるのは一つの國家の中、更に一國家を置く危險がある杞憂を以てなるべくこの權力による制度を削減し、諸官僚をして互ひに相嫉妬妨害せしめんことを主とし、加奈佗の如きは法文上太守に重權を與ふるにかゝはらず、別に監察官を置き暗に太守を牽制し、且つ私かにその擧動心事を偵察して本國に密報せしむる制度をとつたが現今は何れの殖民地も全然之を廢止して太守若しくは總督に之を一任し任務を掌るやうな新しい制度をとつてゐる。

英國は千八百八十九年の解釋法によりては英佛海峽諸島、アイル・ヲブ・マン及び印度を除く以外の領有地を以て殖民地なりと稱することに決定し、此の定義によると英國の殖民地はほゞ四十三にもなるべく、その中王領殖民地と稱せられるものはフキジー、ジヤマイカ、ツリニダツド、レーラレオン、ガミヤ、ゴールド、コースト、ラゴス、フアークランド島、ホンドラス、ジブラルタル（陸軍管轄）、セント・ヘレナ、アツセツシヨン（海軍管轄）、セーロン、マウリシヤス、海峽殖民地、香港、ラバン及びトランズバアルの十九である。

四、自治殖民地

自治殖民地はまた責任內閣制度の殖民地ともいふべきものにして政府がその土地を占領するに先だちて、英人已に茲に居住し、英人固有の風俗習慣を樹立し、人文產業の進步著るしく、その自治を認めなければならぬものにして、その人民は殖民地議會の代議士を選擧して立法行政を解決し、その殖民地の大臣は、またこの議會に對して責任を負ふて進退するものである。

選擧權

此種の殖民地に於て選擧權は一定の年齡に達する男子は悉く之を有し、ニウジランドの如きは婦人の參政權まで許してある狀態であるが、ケープ殖地民の如きはなるべく多

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

くの英人に選擧權を與へ土人に選擧權を與へざるがため一ケ年五十磅の所得を生ずる財產、もしくは之に該當する俸給賃銀を得るものを以て資格者となし、僅かに八萬六千人の選擧者を作るのみであつた。もし丁年普通選擧權によればニ十五萬人の選擧者を生じ、多くの黒色選擧人をみるべき筈であるけれども、この制限があるため土人の選擧者は極めて少數に止り從つて被選擧者の少數なるは理の當然である。

こゝに殖民地自治の重要性並びに効果は、土着民族よりも侵略民族の方に遙かに多い結論を見ることが可能である。

五、半自治殖民地

半自治殖民地はまた半責任內閣制度とも見ることが出來る。この制度は多く例を見ないものであるが王領殖民地より自治殖民地に達する途程になるものに對する所謂腰掛政策で先章に於て已に述べた日本の朝鮮統治の如きはあるひはこの制度の中に包含されるかも知らない。但し之は進化の形式のみの同一なるを意味し朝鮮に未だ參政權なきを以て本質的に相異點を持つものと云はざるを得ない。

殖民地が人文產業の進步發達により一定の時日を經過すれば必らず參政權を唱へるに至るもので英國は斯かる場合巧妙な制度を構成して土人に政權を與へず、成るべく英人にのみ與へんとするも、土人の數非常に多數なるを以て如何ともなし得ざる場合英人と土人との選擧の標準を同一にせず即ち英人と土人の選擧方法を同一にせず被選擧者の數のみ英人に優勢ならしめんとする不法的選擧權のある自治制の殖民地である。この制度に基ける殖民地はバルバドウスの外、バハマス、リーワード島、ウヰンド、ワード島、英領ギヤナ、ベルムダ、及びナタル等の殖民地がある。

六、保護國

前章に於て述べたる如く保護國はやはり一種の殖民地である。現今この制度を用ひてゐるのは亞弗利加のナイジヤア、ニウギネヤ、ヤレー半島のイショウル等の諸洲南洋のサラワク、亞弗利加のビショウナランド、ザンジバル、ソマリ・コースト等にしてその內部の制度は紛糾して同一でないマレー諸洲はシンガポール直隷殖民地に隷屬しニウギネヤは濠洲聯邦に從屬し每年二萬磅の補助金を濠洲政府より受け、ソマリ・コーストは始めは印度政府に從屬したけれども、今は外務省の直轄となり、そのコムミッショナルも中央政府より簡派し、サラワクは英人ブルックが自立して王となりしものにして、此處にはコムミッショナルもなく僅かに、英國領事があるのみであつた。英國政府の殖民政策の不文憲法として特許會社の殖民地は當然保護國として其年期の盡きたるとき、若くは之を廢罷したるときは、之を直隷殖民地としなければ即ち暫時太守治下の保護國とするのを常としたものである。

七、從屬殖民地

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

従屬殖民地とはその政治的産業的文化的の地位甚だ重要ならざるものにして、之を他の重要なる殖民地に從屬せしめるものを云ふのである。即ち、ラブラドールがニウ・フヲンドウンドは、タークス島がジャマイカに、トベゴーがツリニダッドに屬するが如きを言ふ。此種の殖民地は以上數へしもの丶外サヲス・ジョールジヤ、アデン、ペリム、ソコトラ、ロドリグス島、セエーシュル及びアミラント島チヤゴ、ヲイル島があるその中ペリムアデンは印度政府に從屬し、其駐在官は、直ちに軍隊指揮官にしてその制度極めて簡易なものである。

八、特別殖民地

特別殖民地は以上の範疇内に這入らないものを言ふ。即ち印度、サイプラス、エジプト、ザンジバル等之である。印度は政治上より見れば殖民地なれども、法律上より見れば嚴然たる一大帝國の形式を有し、英國皇帝は印度皇帝の位を兼攝するもので殖民地と云ふよりは、むしろ領有地と云ふべきものである。故に之が管轄するために印度事務大臣を置き内閣に列せしめてゐる。印度を統治する者は印度副王で總督が之を兼ね文武の重權を握る。印度事務大臣はその下に一種の評議會を置きその會員は曾て十年以上印度に在任し印度を出でてより十年以上に達せざる英國紳士より之を任命し、その任期やはり十年とし、上下院には勿論議席を有する能はざるものにしてある。如斯にして一見印度は殖民地として他のそれに較べて最も優遇されてゐるやうなものゝ、その實、政治上經濟上壓迫と搾取の程度は他と變りのないことは當然で近年印度に於ける民族的反逆運動は悉皆斯る不合理な英國の專斷的政治に基けるものと見ることが可能である。

佛蘭西

一、シムチム・ド・ラツタシユマン

佛蘭西殖民史を研究するに際し、革命以前の殖民政策は同時代の英國其他の諸國と事情を同一にし、形式を同じくしたものであるから茲に於ては之をしばらくをいて革命以後のそれについて研究せんとするものであるが研究行程中に於て之が暗示的にでも表示され得れば幸甚である。

佛蘭西は國内の紛爭が彼の大革命により一掃され自由、博愛平等の思想國内に充滿し、天下の人類を抑壓より救はんとする大願望炎として佛蘭西人の胸中に燃え從つて其壓制下に虐げられつゝある殖民地にもこの理想が展開され佛蘭西の殖民政策は一新方向を轉じて南蠻西戎を制止し一切の殖民地に佛國と同一の制度法令を布き以て文化の程度を同一域に達せしめんと努力し。之が即ちシユマンである。之は云ふまでもなく同化割一主義で、それより先き、佛蘭西はその殖民中マルチニーク、グアドルウプ、ギヤナ、ワウニオン等は英國の王領殖民地の如く、政府より總督を任命し總督は自ら行政評議會員を任命して之に政務を諮問しまた時々不規則に殖民地重議を召集して大事を評決せしめ

たこともある。當時の殖民地議會の議員を選擧する資格を有するものは十二人以上の奴隷を有するものに限ぎられたことより察してもその狀態の如何に幼稚にして、革命前の之に關すること等がほゞ窺はれるものである。しかしその結果は良好なる成績を擧げ遂ひに殖民地人民に對し佛蘭西國民議會に列席すべき代議員、元老院の議員を選出する權限と、有力なる殖民地議會を組織する權利を附與するに、至つたのは、英國の自治殖民地よりも一層有力な權利の讓渡であつたため當時佛國は政治上に一大變態を生ぜずにはゐられなかつたものである。

かくの如くして之の同化劃一主義は佛國全體の運命を左右するまでの政治上の大問題となり遂ひにこの憲法は一七九九年廢棄するに至り、凡ての殖民地は特別制度の下にをき、殖民地の代議員を國民議會に列席することを禁止したミステム、ド、ラツタシーマンはかくして失敗の經驗とならざるを得なかつたのである。

いまその後に於ける佛國の殖民地制度、即ち近時の殖民制度を見るに郡縣殖民地、保護國、總督獨裁殖民地の三つに分類することが出來る。

二、郡縣殖民地

郡縣殖民地といふのはその地理的狀態に於て殖民地であるけれども、政治上には之を佛國本國の郡縣と何等、異る處のなき制度を云ふ憲法の同一保障は勿論、選擧權國會議員選出等に於ても本國と何等變りのなきものでその主管局省も拓殖局、殖民省の如きものでなく内務省が之を直管するものである。屢々云盡された通りこの主義はやはり本國と殖民地との地理的狀況を第一條件とし、佛國に於けるアルゼリヤの如きは即ちその好例である。

三、保護國

保護國は前項イギリスの項に於けるそれと原則的に共通形を有つものである。即ちその殖民地の政治組織はその原性のまゝ存在せしめてこれに佛本國の改革を加へずたゞその外交權のみを綜攬し而して、佛國の勢力を内政に加ふるものであるけれども、たゞ舊來の組織中にその勢力を注入するに止るものである。即ちチユニジヤの如きはその舊王朝は依然存在し、其豪族は政治的社會的の榮譽を有すれども、その外交權は佛本國が之を把握して巴里政府が之を代表すると共に其内閣大臣の九人中、七人は佛人に規定したることに依つて保護國はすべて佛國の掌中に委屬するものである。

四、總督獨裁殖民地

總督獨裁殖民地は殖民地として獲得せし時期極めて近時に屬するもので佛蘭西がその國會議員選擧の權と民選地方議會選擧の權を殖民地に與へて之を治めた、同化劃一主義失敗の經驗より之を改革せしものと、その住民の狀態極めて、蒙昧にして、土地また僻遠のため佛本國人の少數なる地とがある。即ち之は從屬殖民政策に基づけるものにして日本の朝鮮臺灣にとられる政策と變りがない。（續く）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

批評感想、挑戰、辨駁

日本の無產階級運動も、政治戰線へ進出し始めてから、運動の進展に伴ふ必然性が、今日見るが如き紛糾、混亂、分裂を生むに至つた。即ち、昨日迄同志であり、朋黨であつた者が今日は主義主張乃至は、政策の相異から互に、論難し合はなければならない樣な、連絡されてゐない不統一振りを示しつゝある。此の未曾有の混亂期にある我が社會運動に關する批評、感想、挑戰、辨駁の蒐集は最も、意義あることゝ信ずる。殊に多忙なる實際運動家、學者、思想家等は事々に、長文の論說をしてゐることを許されない。即ち左に收むるが如き、ハガキ通信として寸言を記すことは、執筆者は勿論、讀者も之れを歡迎するであらう事を信ずる。

——(編輯子)——

◎ 福田德三

高畠素之氏のマルクス資本論全譯に對し、向軍治氏が誤譯だらけとの非難を日々新聞に寄せられたに對し、其の箇所の明示を高畠氏が促したに拘らず向君は一向之れに答へないのは Fair でありません、日刊新聞では迷惑でせうが、貴誌なら、其位の紙面割愛出來るでせうから、向君に誤譯の箇所の列擧を促がされては如何、向君の列擧を拜見したら私も、卑見を貴誌へ寄稿しませう。高畠君に誤譯なしとは思ひませんが、アレ丈け苦心したものを證據なしに、誤譯呼はりは、決して爲す可き事でありません。向君が答へないなら、同君より漫學の誹を免れないでせうから。此れは輕微な問題として一拋さる可きと思ひません。

◎ 中澤辨次郎

(一)此頃私共の遺憾に存じますことは主義思想が異ると云ふ單なる事情の下に徒らに中傷せんが爲めの中傷、非難せんが爲めの非難をやる、所謂農民運動者——勞働運動者の中にもあると思ひます——が多くなつたのにはアキれて物が言へない。反對なら反對で正々堂々と正面から正大の論陣を張らず裏面に廻つて、緒のない所へ緒をつけた中傷や、讒謗で最も陰險なる穽を穿つ事が流行してゐる。ソレ丈けなら未だよいがアラヌ流言蜚語迄飛ばして相手方を脅威し、アハよくば暗打ちでもし兼ねまじき言を弄して相手を威迫せんとする者まで生じて來たと云ふ事を聞きましたが、お互に解放運動の戰士として進む者は、其間に今少し「相見互ひ」の寛度を持したならば何うかと思ひます。

無產階級解放の貴い使命を荷なふて進む者は、間違つても既成政黨の泥仕合は、重ねたくないと思ひます。

(二)近頃私共の組合で組合の指導精神

進め

を破り、組合の月給に衣食して居乍ら他の組合、他の黨の仕事に狂奔して居つたと云ふので組合員から袂を分たれたものがありました。私共はさうした人々でも組合の立場からは兎も角個人としては洵に立派な人であると思ふて居たのでありますが、その人達が組合を去つて後の執つた言動を顧みますと、實に其人達の爲に惜しみても餘りある所行を敢へてしたのには驚き入りました。今迄斯した人達の口ぢや斯く云ふことは「裏切者」の非難攻撃であり「分裂を策爲する者」に對する論難でありましたが、今度は自分達が進むで分裂を策さうとしたり、裏切行爲も盛んに行ひ初めまして、其の行爲を扮飾しやうとする爲に種々の中傷や讒謗を而も無名でやり出した行爲には實にアキレもし、亦「人の爲」に遺憾に思ひます。私共は自己に多少でも非のあつた時は、首をたれてその非を問はれる丈けの虚嘘な、而して謙讓の態度を持し度いと思ひます。尠くとも自分等の言動は常に自己の人格の反映であることに顧み、目的の爲に手段を選ばぬ樣な事は避け度いと思ひます。

◙ 澤井龍之助

吾々の運動は恒に大衆を目標としてのみ運動し、且それ故許さるべきものである。然るに最近、福本とか云ふ一派が頻りと、社會運動の内面に向つて彼等一流の理論と屁理屈を以つて毒づいてゐるが、彼等は肝心の大衆それ自身を度外視し只己れ自身の理論性癖を滿足せしめ、而も社會運動其ものにもケチを附けて得々としてゐる。而して判りもしない實際運動をば「マルクス主義」とか何とかで撹亂してゐるのだ。此の一派の機關紙に「マルクス主義」てな雜誌があるが、これは社會主義宣傳雜誌よりも彼等の私慾的な賣名的な賣名雜誌の觀を呈してゐる。

彼等は口に共産主義の理をば堂々と吐いて居る樣であるが、其實は大衆を道具に使ふ彼等の憑かれた文化的野心を滿足せしめんとする手段に過ぎない。而して、イヤ、意識的組合主義だの、又は追隨的だのと、ホザキ廻つてゐるが、彼等は總て自己のセンチメンタルな利己的な文化的野心を飽喫するエゴイストの辯に過ぎないのだ。コンナ連中に限つて、イザ革命となると眞先に逃げる手合だ。兎も角同志の運動を撹亂し、中傷して賣名の手段とする、此の職業的理論屋を先づ革命の前の血祭としなければならぬ。全國の同志よ起つて職業的理論屋を葬れ！彼れ福本一派の所謂福本イズムは、ドイツの反動學者の學説から割出した、反無産階級的なものであるのだ。

◙ 細迫兼光

あまた出來た眞偽とりまぜの無産政黨の眞物か偽物かを識別するには其の綱領政策を檢討するよりも尚ほ手取り早い方法は相手方の態度を見るのが一番だ。政府よ、ブルジョアにとつて最も恐ろしい物に最も激しい彈壓を加へるからだ。而してブルジョアの最も恐れる物は無産階級にとつては最も親しむべく最も信頼すべき物であるからだ

▣ 奥平生

A「問題は現在の日本農民の特殊性と云ふものに對する考へ方にかゝつてるんだ」

B「特殊性なんてものは、今日ではありませんよ又あつてはならぬ。」

A「じや、何故――例へばだね――杉山氏に今日迄喰ひ下つて來る樣なことをやつたのだ。今更ら（杉山氏の日本農民組合ぢやない）もなからうぢやないか。」

B「それは本部乘つ取りの準備期間中はその必要があつたまでさ。」

A「又しても「利用」沙汰かい――だが、特殊性が、なくなつたと云ふことは少くとも農民のイニシエチーヴがなくなつたといふことぢやないだらう。」

B「全日本農民組合はどうだ？」

A「分裂したアトの農民組合はどうだと問ふ方が自然な出方だよ。」

B「すると、君は「特殊性」をイニシエチーヴに、置きかえやうつてわけだね」

A「それでもいゝ。」

――三月一日――

▣ 今村等

最近の九州の無産階級運動は北から南に移つ來つゝある然かも九州が八幡を中心としてゐたのであるが共産黨の手先どもが、福岡縣に大いに力を入れて策動して如何に社會運動は共産黨の專賣かの如くやつて見たが九州では共産黨の手先共の如き青色無力、口先ばかりの腰拔共では暴力團にかゝつては、ピク／＼して逃げ出すから、勞働者も一般無産大衆も相ひ手にせぬ樣になつて看板だけブラさげて幹部と稱する連中が住居がなくて西へ東へと飛び歩いて、人樣の家に厄介になつてるそれも普通の人樣の內なら兎角、反動團の親方とやらの家なんかで小使などして社會運動共産派なんて、威張つてるるから共産黨も大分下落すればするものである。共産黨の大王堺とか山川などと云ふ連中は大いに指令を出し共産派の體面を維持する事に努めるのが急務である。然し、九州にはもう少し社會運動者らしい奴が派遣せぬと駄目だ先頃日本勞農黨の九州宣傳で麻生始め僕達か、大牟田の公會堂で演說會を開く事になつてゐたので全部の共産派がやつて來て立會演說を申込んで來たので應じたら逃げて行つた。そして手を合せて御斷り申上ますと。この共産黨のヘコたれと苦笑せざるを得なかつた。

▣ 津田光造

現在、內地在住の朝鮮人、支那人、及印度人等被征服者的立場にある東洋人に對して、日本人は特に實生活上の便宜を圖り、友誼を厚くし、親交を旨とする事、就中、資本主義社會における無産階級は、同じく被征服者の立場からして、宜しく他の被征服者的東洋民族との協同親善を圖り、東洋の大資源を資本主義白色人種の蹂躙から解放すべきである。是れ日本無産階級解放の一大要件也。

▣ 奥田貴太郎

天下周知の事であつても一般的に知らないのは軍隊内の事だらう。私は公用が私用當番に早りしてゐる事を一言したい、今日の當番は將校の下男下女の二役を八九分まで勤めてゐる。週に一、二回より宅に出向ふ必要はないと思ふに二日（休日）でも出て二、三時間は費して、夏なれば汗にせめられ、冬は寒氣に虐げられ乍ら靴、劍は申すに及ばず、風呂の水汲みから風呂沸、買物の小使から野菜物作りの作男から子守等、少尉等の妻帯者とき ては米洗ひ、飯たき、洗濯の下女仕事迄するものもあるとの事。これが七八十圓からの月給を取る軍人商賣が一年十ケ月もお國の爲と辛い中を小遣まで持つて行つてゐる兵卒に要求してゐる事だ。是は一小部分だが、矛盾の點は、山程あるのに一考もせず、隊内の風紀の紊れんとするのを嘆いてゐる將校連は、先づ第一に自分達の事から、反省して兵卒にも要求すべきだ。現在の儘では迚も横暴過ぎて話にもならぬ位である。

▣ 原信行

日本農民黨は其後相かはらず無産階級を詐る様なことばかりしてゐるが、過日新潟に於いて開いた演説會には、御大平野力三を始め其他の取まき連中數名來て、農民を丸で生佛の様に崇め、日本農民黨を唯一無二の農民の代表政黨だと云ふ様な事を並べてゐたのは、全く呆きれて物が云へない位であつた。平野を始め其他所謂委員だとか幹部だとか書記だとかの奴等は、凡べて、ブルジョアの道樂息子の様な服裝をしてゐるのを見ても、如何に彼等が曖昧な金を××から引出して運動をやつてゐるかゞ判かる。試に、彼の黨の本部へ行つて見ると、正面には日本農民黨と云ふ商店の廣告看板見た様なデカイ立看板をしてある。あの看板で農民を釣ろうなどゝは、彼等は餘程低級な頭を持つてゐると見える。過日行つた時は日の丸の國旗を立てゝゐた。

要するに彼等は農民を如何にして詐りドル箱××より如何にして金を貰ふべきかゞ彼等の苦心してゐる所である。農民の解放などは、何處を吹く風かとばかり空うそぶいてゐる。須貝快天等と云ふ下らない爺擔ぎ上げて、厚顔しくも農民運動等と云ふ破廉恥漢！日本農民黨を葬れ！

▣ 佐根泰夫

帝國主義が山間僻地の隅々まで行き渡るにつれて、又都會思想も伴つて浸潤して行きます、都會に搾取文化が華かに咲き亂れて、その半面に社會運動が熾烈である様に、特權階級が横暴を逞うする處に、又それ丈、反抗する正義の熱血は渦まいて居ます。現に我等の故郷四國山脈の雄を見せて海拔四千尺の高地に汗を流してゐる慘めな農村に迄、魔の手は伸びて來ました。用捨なくブル文化は襲つて來てもうどうにもこうにもやりくりが取れなくなつて來た。青年は村を離れ、田地は荒れ、家は空き都會の誘惑に會つて居る。此の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

不景氣では益々烈しくなるばかりです養蠶家の破産は製絲家の破産より一層恐ろしい結果となります。これは吾等に「勤儉力行」を説く當局爲政者達には判らない相です。農村が疲弊する共下から燃へ上る者を！僕達は靜かに一人より一人へと英氣を養つて行つて居ます。

——二月二十日——

■ 尾崎敬止

先頃某社が何とか全集を刊行する砌文士と云ふ文士が（但し相當に名を賣つてゐる）がいゝ氣になつてその全集のチヨーチン持をしたのは滑稽を通り越して全く悲慘の極であると云はざるを得ない。

■ 久米萬平

小生大正十五年六月、警官番犬の盲動に遇ひ新聞紙法違反として罰金七十圓に處せられ、勞役場へ留置中大赦の恩典に浴し出獄、今又治安警察法によりて三ケ月下獄す、ブルの番犬の暴狀、言語同斷。下獄に當り同人諸氏及び全國の支局同志諸君の健鬪を遙かの別莊より祈る。

■ 須藤三郎平

右だ左だと騷いで居る中に世の中はどん／＼進む、右も惡いだらう。左も惡いだらう、中立は尚惡い。皆んな同じ道を同じ足並をもつて行く可き人達ではないでせうか。右もなく左もなく唯私達の行く可き道を堂々と進むべきではないでせうか。

■ 淺野研眞

一、「進め」が五周年を迎へるに至つたかと感慨無量なものがあります。

二、最近の理論鬪爭の進展により、所謂「復式」の大家(?)が次第に押込められて行くのも、感慨無量です。

三、此頃教壇の人が、プロレタリア戰線の各方面に入り込んで行く傾向の增へたのは、誠に喜ばしいことです。但し、其中何人か果して最後まで踏止まり得るかを懸念せざるを得ません。多き感激は、空想家的である！

■ 張龍俊

□俺は何時迄も考へてをられぬ。
□俺は敵を撲滅せねばならぬ。
□奴等の爲めに癪でならない。
□番犬の撲殺時期は迫つた。
□番犬殺しに出掛けよ。

■ 春田勝彥

私は此頃の無產政黨の幹部連中は、なつて居ないと思ひます、同じ無產階級の爲めに生れた政黨が自己陣營內に於て互に爭ひをすることは、一つは無產大衆を撹亂し、一つはブルジョアの苦笑を買ふものであります。私は少なくとも無產政黨として無產階級を標傍して生れて來た以上は必らずその創立精神に向つて猛進すべきものであつて決して相互の鬪爭が創立精神ではないと思ひます。現今の日本無產階級に取つて不幸も此上ない社會と云へませう私は、茲に、各無產政黨の眞實なる、純正な幹部諸氏に鬪爭の矛を納めて全無產階級の爲め、社會改造の爲め、互

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の感情的病患より癒へて一大同盟を組織せられん事を望みます。

■ 加藤勘十

貴社同人諸君の御健闘に對し心から敬意を表します。私は次から次へと展開される鑛山の爭議に沒頭いたしてゐまして殆んど暇なきを憾みと致します。唯何處に行つても痛切に感ぜられることは、資本の積極的攻勢を前にして我が無産階級陣營の分裂策を定義的――觀念的獨斷に基く――に運動しつゝある一派を整理せなければならないと云ふことであります。終りに再び貴社同人諸氏の健闘を切望して止みません。

■ 森本信一

四月倍大號に批評、感想、挑戰、辯駁等を書けとの事ですが、私の樣な者には分りませんが、現在の無産階級運動には、餘りに多士濟々であるためか戰線の如何を考へず、自己の野心を充すのみを目的とでもしてゐる樣に惡罵中傷分裂等、悉く吾等陣營の不利な行動してゐる人が多いのを悲しみます。もつと眞實に社會主義者としての行動を望みます、尚農村にも主義の宣傳が必要であると思ひます、都會に比べると非常な懸隔があります、貴社に於かれても此點に留意せられて今後努力せられん事を望む。

■ 大谷久治

日に月に「進め」が大發展しつゝある事は我社會運動の爲、賀すべき事と喜んで居ります。私は半歳餘りも病魔との戰で一進一退の有樣でありますから現時の問題は解り兼ねますが社會運動家の多數が、獨りよがりのドロ合戰に夢中らしい、それを止めてほしい。

「寒月や盲人の行く霜の道」

■ 山崎一雄

無産階級運動には無限の曠野が目前に展開されてゐる。泥合戰に時間を空費しては居れぬ、爲すべき事は餘りに多いのだ。

■ 金煕明

民族自決、國家分立の自由權獲得運動、即ち殖民地解放運動のため決戰すべきはプロレタリアの最大任務と思ひます、プルードンの樣な自由共産主義を捨てゝ、マルクス主義に基けるそれでなければならないと思ひます。カウツキーのとつた殖民地政策論はプロレタリアを欺瞞するに帝國主義より以上の害毒を流したではありませんか。プロレタリア(ブルジョア國家の)の自重を祈ります。被壓迫民族自決、國家分立の自由權獲得運動のため。

■ 島津一郎

勞働組合が政黨運動に加はることは有害無益だと常に主張し來た吾々は、最近無産政黨の續出によつて之に參加し、若くは支持した勞働組合間の內部混亂分裂等の事實を見せつけられて殊更に吾等の主張の確實なる事を認めたそれは單に戰術上の問題でなく、勞働組合と政黨との本質が全く相容れない

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

からだ。自由聯合主義の主張が如何に勞働者階級の正しき味方であり、切實に勞働者が要求であるかは我が全國勞働組合自由聯合會の劃時代的發展ぶりが之を裏書してゐる。モットー、スローガン等の羊頭を掲げて、廻れ右から墮落への狗肉を賣る職業的運動家や野心的指導者共の如何に多い事か。今迄永い間ダマされてゐた勞働者は自己の解放を他人に頼もうとしない、自分自身で解決する組織自主自治の精神に基いた勞働組合を欲してゐる。「笛吹けども民衆躍らず」の現象は勞働者階級の個人的自覺を示す悦ぶべき現象であると思ひます。

——三月三日——

■ 加藤今一郎

黨人の生活を始めた吾輩は、新しく無産階級の政治戰線に馳驅せねばならぬの[illegible]が、解放運動に於ける凡ての行動を透して男性的である。往年自由民權論者が一死以て進めば何ものか生まると の惑念は吾輩の心頭を支配する。矢張り新しき運動は宗教的信念を以て終始すべきだと吾輩は確信して止まぬものである。

■ 山内房吉

日本の資本主義は既に帝國主義の段階に到達した。と云ふこと全く議論の餘地もないやうに斷定されて、今では、一つの常識のやうになつてゐる。ところが最近高橋龜吉氏はその該博な實際的知識と統計とを示して、日本の資本主義はまだ帝國主義まで行つてゐないと、いふことを論證したさうである。これは一つの異論であるが、理論は常に實際を基礎とし實際と一致するものが最も正しくなければならぬ。此意味に於て高橋氏の論證は觀念論者への警鐘である。

■ 村松信太郎

現在日本の無産階級が資本主義社會への對峙は經濟的にも政治的にも成可進出してゐるけれども一たび無産大衆の陣營を見るとき其處には思想的に彩られたる分野がある。力の分散してゐる事を知る。從つて如斯、情勢は未組織の大衆を組織づけるに困難であるばかりでなく、大衆を反動化せしめる怖れがある。無産階級の解放は觀念的理論病者の主張で達成さるものでない事を知る必要があり、現實を取入れるだけの大人氣がなければならぬ。

■ 行村義雄

馬の糞と一緒くたにへしがれてもへしがれても。
春が來るとのびて行く芽。
娘達が××××にならずに都へ行くと喧しく言ふ。
出て行くやうに誰がするのか。

□

××の代價へ黴病のお土産をもらひにいくにん娘達が行つてゐることか

□

どろまみれになつて鍬を握る百姓は目覺めた。
頁の塗りかへだ、あぶない地主よ。

□

きれいな女と紅い酒を吞む人よ、足

元がぐらついてゐる。「最後のポンペイ」の序幕があいた

■ 傘木幸盛

我が「進め」の五周年記念の倍大號に何か書かうと思つたが水呑百姓には一寸書けない。何時も虐げられて居る者は農民です。賤民に民衆の爲め、農民の爲めを思つてくれるなら左、右、中、何もかもないはずです。唯團結行るのみではないでせうか。左、右、中、此んな事は皆んな幹部連の暇潰し策ではないでせうか。終りに「進め」の發展を祈ります。

——三月三日——

■ 北野秋鳥

何處迄も苦しめられて苦しめられて紅涙を呑んで唖黙つて居る農民の苦衷は享樂主義の多くの都會の奴等には夫れが解らないだらうと思ふ。若し此儘にして現在の農村を救はなかつたならば軈て我日本の農村にも××××××××××××××××××亦當然の歸趨であると云はねばならぬ。如何

に日本人は名聞の民とは云ひ乍ら飢餓と困窮の線上に立つて生活に惡戰苦鬪せなければならない運命が來れば、恥だの外聞だの、恩だの義理だの、其麼事を考へる暇もなく醜い鬪爭心を抱くやうになることは無理ならぬ當然の行くべき所であると云はねばなりません。

——三月五日——

■ 今村サノ

「進め」が益々發展して九州でも大分縣讀者が増加して來まして結構であると思ひます。私も夫の今村等が社會運動をやつてゐるので幾分の助けにでもなると思つて進め社の支局を長崎でやつてゐます。主人は元炭坑の納屋頭であつた關係で暴力的な人でした、否九州に現存してゐる暴力團の仲間に籍する人でしたが社會運動をやる様になつてから人間ががらりとかはりまして喜んでゐます、それも一番の友人である麻生久、加藤勘十、山名義鶴、棚橋小虎氏等の指導が與つて力あると思ひます元は鈴木文治氏とは非常に心安くし

てゐましたが現在では分裂して對立關係であるのです。進め社の同人も御指導と御鞭撻を御願ひします。

■ 戸野元

一、社會主義の觀念程、色々間違つて鵜呑みにされてゐるものはありません。しかも智識階級に案外多い様です。私の知つてゐる某女學校長は社會主義を一種の空想的理論としそれを捧持する者は餘のよいユートピアンだと申してゐます。それも色々研究思考の結果ならいざ知らず、一寸話して見たら、社會主義の概念さへ掴んでゐない事がわかりました。尤も彼は純ブルジョアーの代表的教育者なのですが。

二、こうしたド偉い[illegible]を持つてゐる方が新聞や雜誌へ（唯物史觀の片鱗だに觸れてゐない癖に）「社會主義なんてとんでもない謬論です、あれはもの好きの變態人がいぢくる事です」などゝ堂々と發表される無智な、（或は無智になつて）善男善女が「ご尤も」と呑信して了ふので最初に述べた様な變

な矛盾を來たす事が往々あります。

——三月七日——

■ 高島米峰

國民の精神生活に重大なる係を有する宗教法案を國民の大多數の意向に問ふ事なくして決定せんとするは不都合なり。

■ 茅野琢也

水平社が遂に四分した。一はアナキズムな・解放聯盟、二は純部落解放の青年運動・三はロシア共產黨の出店たる日本共產黨の下働をなしつゝあるダラ幹、泥棒、臨機應變主義者とその一味、四は一月五日旗上げした、日本水平社總本部の南梅吉氏一派である。此の内「一」と「二」に或程度迄共通點を有して盛に活躍してゐる。三と四は、犬猿も只ならざる狀態。ところで三のダラ幹共と臨機應變主義者等の（それは青年水平社無產者同盟勞農黨の支持聯盟）今日迄、横暴跳上り的獨裁病患者、小兒病共の空宣傳も部落大衆からその正體を看破されて漸次苦境に陷りつゝある。やがて一網打盡的に閉塞せしめられ、大衆から見離されて終ふのも近い事であらう。それに代るのは一、二であり四の最的活躍運動の華々しい時機が來るであらう。

■ 北澤新次郎

近頃自分が最も不快とする處は我國に於ける無產政黨が相互に個人攻擊的な泥試合をやつて居る事です。こんな愚劣な事をやつて居る間は資本家は安心して居られます。

■ 倉本晃南

「進め」誌も愈々茲に五周年を迎へることを得たのは此の上もない喜びであります。過去の感想としては内容と云ひ、編輯と云ひ只管敬服して居ますが年數に發賣禁止と來ては如何に官憲の壓迫とは云へ感心しませんから今後は發賣禁止をせられん樣に願ひ度いと思ひます。尚「進め」を益々大にして縱横無盡に、戰鬪氣分を横溢せしめて、進め社を社會運動の中心にして貰ひ度いと吾等同志は希望して居る。

■ 鈴木楯夫

名古屋に於ける主要なる勞働團體たる名古屋向上會と製陶同盟が、中部日本の、最大な民組合である中部日本農民組合と相談して、東京の無產政黨のいづれにも關係せず地方政黨である勞農民衆黨を組織したのは第一、東京の幹部諸君とは御付合で喧嘩をするのみがいやだのと、第二に經濟的の組合關係から別々の政治行動をとるとすると勢力を二分して資本階級へ對抗する力を、弱からしむるがためである。しかるに、向ふ見ずの勞農黨名古屋支部の諸君は、地方黨を攻撃するのは、實情を顧みぬ、愚だと思ふ。彼れが本當に單一の政黨を希望するならば、先づ多數を占むる黨に參加すべきでないか。徒に他を攻撃して獨り快を味づてはならぬ。地方のことだが進め誌上を借用して一言かくの如し。

——三月八日——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

■ 吉田源蔵

此頃共產主義の本家本元で「吾々グループを稱して極左派とか、共產黨とか謂ふから、今後保護色を被せる必要がある」てな事が論議せられて居るそうだが、此の間の請願運動は、此保護色の被り初めらしい。あまり二度も三度も出直して居ると、肝心の行き先きを忘れはせぬか。共產主義者は、其主義政見を隱蔽する事を恥とし、ブルジョアをして共產主義の前に戰慄せしむるものではなかつたか。そんじよ其處らの一手販賣の共產屋諸君、一體全體何時頃から大衆の中へ戾つて來るつもりですかね。

—三月六日—

■ 澁川國雄

■資本家共の足並は揃つた彼等は攻勢的態度を以つて一歩一歩と勞働大衆へと肉薄して來た。然し顧つて我無產運動を見るに其處には自己滿足の爲或は一組合の爲に醜惡なる闘爭のみを續けて居る。我等は此等に對し痛切に嫌惡を感ず。

■同志よ最早現在の相互闘爭は止め一致團結して戰線を張り、ブルに對し無產大衆の切實なる要求の下に行動せよ。己の組合や小感情に捉はれず、大衆の爲めに闘爭を開始せよ。

■今後は地方に於ける悲慘な狀態にある勞働者幾百萬の未組織者をして組織せしめる事が現下の最も急務なりと思ふ。

■ 大和久雄

近來、地方青年の間に雄辯熱が澎湃として漲つて來ました。之は善い傾向と思ひますが、然し官僚的の臭味と國主義的の奉仕體讃は餘り感心しません。青年訓練所はいろ／＼な意味に於てカラキシ評判が惡く、當局は辯明に努めて居りますが効果は一階から目藥の態度なんです。地方青年の自覺は除々として階級的に自己を知りつゝあるは嬉しい氣持です。壓迫はなか〱激しく購讀い雜誌や新聞を調査して何か夕ネにする積なのでせう。

■ 三和一男

農民團結の力の偉大なことは今更ら申すまでもありません。が既に農業經營の參與權を獲得せる地主階級は、案外農民組合の威力の前には脆いものです。次の表は爭議の前と前後の地主の所得（一反に對する）の變遷を示したもので、約九〇、七〇減、剩す所幾何もありません。（山梨縣常永村組合調査）

年度	小作料收入	公租公課	差引純收入
大正九年爭議前	三八、五〇円	九、〇〇円	二九、五〇円
大正十三年	三四、六四	三、〇〇	三一、六四
大正十四年	一五、一〇	三、〇〇	一二、一〇
大正十五年	一五、四〇	三、四二	一一、九八

■ 倉澤康男

不景氣の底に蠢いてゐる地方農民に對して、全く二千有餘の肥料工場は我劣らじと不良な物を製造中だそうです。一番大切な土の養分を粗製濫造する惡商の不正手段も、農民に味方した取

締法と農民の多少では科學的智識により培かれてゐたなら完全に防止出來ると信じます、然し現在の屈從精神養成のブルジョア教育型に鑄込まれて其日の衣食に營々たる農民の少なく無い農村と民衆を離れた醜黨政治の社會では出來さうも無い相談です。それを改造して農村生活が平等な經濟的不安の無いものに迄高めて行くべき責務の重大さを感じてゐます。

―二月二十六日―

◙ 藤松義雄

親一人、子一人の私の母は今胃癌で僅かに靜脈注射と牛乳灌腸によつて生命を繋いでゐる。私は此重病人を看護人に依賴して僅かの賃金を得る爲め、工場に働きに出てゐる。

恩愛――愛着――貧乏――工場――賃銀勞働者――社會組織――と私の頭の中はガン〳〵鳴る。

此事實！此事實だ。私の頭を支配してゐるのは涙も出ぬこの慘虐事あゝもつと人間味溢るゝ世の中はないか。

二月二十四日午前一時半のかすかなる呼吸を伺ひつゝ

◙ 國部龍英

福本和夫は例の辨證的論法を振り廻して盛んに社會運動界を攪亂してゐるが、彼は去る日、甚だ芳ばしからぬ事を某新聞に發表された。爾來如何なつてゐるか判らぬが、マルクス主義二月號には氏の弟子、水野某の名前が消滅してゐる。氏もマルクス主義を退いたのであるか。あれ程猛烈に內面的に曝露されては、流石の辨證法の徒も些か手應がしただらう。第二島清は少し非道いが、實際は、人格者ではないそうである。

◙ 永島德次

支那の革命騷ぎを見てゐると、全く往年の戰國時代にホウフツたるものがある。然し、今度の國民革命軍は、無產階級解放を旗幟としてゐると云ふからは今迄の戰爭と些か異つてゐる所がある。蔣介石は盛んに氣焰を擧げてゐるが、吾々は彼に今一段の社會主義的色彩を與へたい。彼若し眞の社會主義者たらば、支那の將來――を論ずる事は痴人の夢かも知れないが――誠に刮目すべきものがあらう。戴天仇は日本へ來て、ブルジョア政治家と交遊してゐるが、氏の爲め惜しまざるを得ないものである。

◙ 濱口文美

改造は十萬部增刷したと宣傳してゐるが、どうやら宣傳だけではなく、眞物らしい。假りに二十萬刷つてゐるとした所で今の定價で恐らく損であらう。改造社は何を感じて損までして斯くするのであらうか。些か諒解に苦しむが、安くなつて一般プロレタリアにも讀める樣になつたのは有難い。面喰つたのは中央公論、解放あたりであらう。然し三月號等見ると內容は大したものではない。所謂安原稿のみ集めてゐる。

◙ 室伏高信

無產政黨の大合同を望む。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

▣ 池田久

政府が又亦勞働組合法案を議會に提出した。今期議會も多分通過はしないであらうが、然し斯くも每年々々提出してゐると來年邊りは通過するかも知れない。吾々勞働階級は此の惡法案粉碎の爲めに全國的運動を起さねばならぬ。全國の組合は惡法反對同盟を組織して猛烈なる彈劾の矢を放て！

▣ 水島三郎

近頃豫約出版物の續出することには驚く。第一に日本文學、第二に世界文學、第三に世界思想家、第四に戲曲等々々。よくも此れ丈け出すものと思はれる。何れも民衆には一寸手の出せない程の高價なものばかりである。此の現狀を見ても日本の出版業は未だ〳〵ブルジョア相手の仕事ばかりしてゐる尤もプロレタリアを相手にした所で、儲かりツこはないのだが。プロレタリアの全集も最近少し出た事は出たが、矢張り彼等ブルジョア出版屋のやつてゐる事とは、同一に話す譯には行かない。彼等は一つの原稿を雜誌へ載せて單行本として、全集として、その又全集として同じ原稿を四回も五回も別な體裁によつて行つてゐるのだ。日本の無產者よ！彼等に欺さる勿れ。

▣ 柴野吉次郎

社會運動をする者は常に大衆の模範とならねばならぬ。大衆を自らの人格によつて引張つて行かねばならぬものである、私は最近社會運動家にこうした人格を重ずる人の稀になつた事を嘆かはしく思ふ。××××は人格では出來ないと云へばそれ迄だが或る程度迄は人格を重じなくてはならぬ。

▣ 笹川健治

「進め」は第五周年記念號を發行すると聞いて我輩は我が事の樣に喜ばしい。從來、社會主義の雜誌で五年以上も繼續してゐるのは今では一つとしてない。社會思想はも少し古いが此れは以前は一部の人達の同人雜誌であつたのだから、先づ五年續いた雜誌は「進め」を置いて他に無からう。

▣ 坪井正巳

早稻田大學の最近に於ける學生壓迫事件は、實に俊然である。吾々は過日大山氏の留任運動を行つた處、何を血迷つたか學校當局は數名の者を退校處分にした。幸か不幸か僕は辛うじて退學だけは免がれたが、頑迷なる學校當局に依つて、血涙を揮つて學校を去らざるを得ざるに至つた友人に對して哀心より同情する。然し、友よ！人類の聖戰への良き門出をさして呉れたと思つて學問を諦めて呉れ。而して在校當時より以上、勇敢に、より積極的に、愈々解放運動の本舞臺へ上つて呉れ給へ！僕は其れを諸君への餞として諸君と別れる。僕等は學校に留つて、學問の自由の爲めに戰ふ。

▣ 杉山元次郎

沈默を守つて自己の信ずる處へ邁進致しませう。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

本年勞働代表 隨員問題紛糾の內實

長尾桃郎

海軍聯盟呉海工會が在來の慣例を破つて對外的には右翼友誼團體の、對內的には海聯加盟各組合間の、各々諒解を求めるのを怠り、昨年十二月十五日の委員會に於て、突如海工會會長久能寅夫氏を勞働代表候補に推薦したといふ手續上の缺陷(尤も同委員會が表面健康保險問題對策を中心として召集されたものであつたに拘らず、動議として久能氏の推薦問題が提出されたに就ては、是が仕組まれた腹案であり、所謂『自薦推擧』の理由ある點でもあるが、暫くこの海工會自體を焦點とする對內的問題に關しては、玆に觸れない。)が、はしなくも、問題の導火線となつて、海聯各加盟組合內に於ける自薦顧問、乃至隨員病者の思惑運動から生れる相互利害の衝突と、錯綜せる關係を有つ右翼各團體間の、自派を有利なる地歩に展開せしめんとする一種の獵員運動と、糅て加へて右翼連衡の堅壘を衝かんとする中間派の策動との交錯等、內部的暗鬪と外部的攻略とに終始し、而して僅かに『海軍聯盟の統制と、組合信義を尊重せざる可らざる結果』として、久能氏の本意なき引退と交換に、總同盟會長鈴木文治氏が三度の當選を見た本年の勞働代表選出問題程、從來その比を見ざる程の醜き組合野心を露骨に表白したものは蓋し稀であつた。

筆者は、この問題のぎこちなき解決を以つて、將來必ずや、一 海軍聯盟加盟各組合間に於ける融和、一、海聯と他右翼團體間に於ける友誼等に、一抹の暗影を投じたものであらうとの觀測を、主宰する『社會時事通信』に發表したのは、既に一月下旬であつた。二月末日社會局から、國際勞働會議に出席すべき本年度勞資代表の正式發表を見て僅かに一週日、早くも內に潛在したこの暗雲は、隨員問題を端緒として外部に曝露するに至つた。

即ち三月六日大朝紙は、呉電話を以つて「隨員問題に端を發し總同盟の不信を憤る」の見出しの下に、總同盟が勞働代表

投票の際に於ける内約を蹂躙して、當然海聯工僚木下志津雄氏に振當てらるべき筈の随員を、總同盟大阪聯合會主事山内鐵吉氏に與へやうとしてゐる不道義に就き、海聯としての限りなき忿懣の意を傳へた。
筆者は事茲に至つた内部事情に就き、解剖のメスを掘り下げて見やうと思ふ。

。　。　。

二月二十日、佐世保に於ける海聯大會は、表面久能氏を勞代第一候補に、鈴木文治氏を第二候補に推したのは、一つには久能氏を推擧した呉海工會の立場を守ると共に、海聯の體面を保持せんがため、一つにはこの問題が焦點として内紛を重ねた海聯内體の彌縫的統制のため、世間態を繕つたものであつた。

何故なら海聯中央委員會の申合せたる「この決議の交渉に就て、他友誼團體中、一團體にもせよ、之に賛同を表せざる團體の存在する限り、久能氏は引退すべきもの」との一札に、各加盟組合長は悉く署名し、以つて決議尊重を誓つてゐたからである。言ふまでもなく、當時久能氏を勞代たらしむるに就て、總同盟、海聯組合、海員協會、官業勞働者各友誼團體は、何れも當問題に對する直接的利害、影響に於てこそ差異あれ、鈴木氏を推擧せざる可らざる立場に於ては全く軌を一にしてゐた。從つて上記海聯中央委員會の申合せは、單に久能氏の氣休めのため爲された空手形に過ぎなかつたことは、署名者自らが觀取してゐたところだつたでもあらう。

されぱこそ海聯の投票權行使の委任者にして選ばれた島田（舞鶴）、柏原（横須賀）兩氏は、他友誼團體との交捗の結果海聯の所有する四十三票を總同盟に投じたのであつた。

だが、その投票に先ち、海聯内部に於いて海工會説伏の代償として、古賀德一氏（佐廠勞愛會）を顧問に、木下志津雄氏（廣廠工僚會を）随員たらしめることを條件として海聯の内部事情から、上記兩氏は、大阪に於ける總同盟政治部長西尾末廣氏との交渉に際してこの條件の完全なる履行を求め、西尾氏も亦之を誓つた。しかし冷透にして明敏寸毫も間隙を許さないとの定評ある氏は、氏並に氏を通じての總同盟の立場を顧慮し、その條件の成否共に有利なる地歩の拓かるべき餘地を殘すのを忘れなかつた。氏の言ふところは斯うである。

「随員の選出は前例上代表の採量に一任さるべき性質のものである。但し本年度に於ける海聯、並に總同盟の立場に深甚の考慮を拂ひ、海聯の意志を生かすべく、總同盟内部の意嚮を纏めるであらう。然し斷じて代表と随員とを交換問題とするのではない。」と

。　。　。

諾否何れとも解し得べき内容を持つこの返答を、海聯代表者が、自身に好都合なる解釋を施し、以つて海聯に復命したでもあらうことは、前後の事情から推して、容易に想像されることである。

從つて當然隨員の椅子が天降るべく豫期した木下氏が、二月中旬、柏原氏を通じて鈴木氏に逢ひ、更に松岡駒吉（總同盟關東代表）から「內諾」を確め、外遊――正しく外遊である――の準備にも忙殺されつゝあつたので、亦自然であらう。（此說にして眞なりとすれば、氏は既に、送別會を催し、胸裡に溢るゝ歡喜を、秘かに同志と共に頒つたところである。）

○　○　○

前例を破つて代表選出團體以外に之を求めやうとする隨員問題の交渉は、しかし、西尾氏にとつても苦手だつたに違ひない。さればこそ氏は直ちに官業川村氏と共に、神戸の海員組合代表米窪氏と會見、海員組合の意嚮を訊した。鈴木氏を勞代たらしむまでには、氏を勞代たらしむべく慫慂した發頭人たる責任感もあり、更に他の經緯もあつた海員組合ではあつたにもせよ、既に勞代の決定を見た以上、而して本年勞代問題は直接的利害關係を有たぬだけに、その態度は極めて月並であり寧ろこの問題に就き、更に深き交渉を避けんと欲するものゝやうであつた。即ち「隨員は代表の採量に在るもの、從つて總同盟の對內的事情を考察して、海聯と折衝さるべきであらう」と。

○　○　○

勞代問題擡頭以來、鈴木氏が久能氏を破つ「當選するに於ては、前年松岡氏を送つた總同盟として、本年の隨員は當然總同盟大阪聯合會に一任さるべきことは、他友誼團體とも既に諒解濟みの献立案であつた。故に大阪聯合會が秘かに隨員の物色に色めき立つてゐたのも無理からぬ。

この大阪聯合會の期待を海聯との上記の交渉の故に、直ちに無碍に見殺し兼ねた苦境に立つ西尾氏は、其後同聯合會委員會席上に於て、海聯の申出でが恰も官業勞働を通じて爲されたものゝ如く裝ふべく、その役目を川村保太郎（官業主事）氏に振當て、川村氏も亦完全にその振役を果した。正直な、而して西尾氏を支持するに切な大阪聯合會は、据膳された御馳走の、香ばしき匂を匂がされたゞけで慾らうとした。それだのに――

○　○　○

「吾等は一度久能會長を推薦するや、四團體（總同盟、海員組合　海員協會、官業勞働）を除く他の全組合は、期せずして吾等の趣旨に共鳴し全國的にこれが支持を受け、勝算明かなりしも、聯盟の統制と、組合信義を尊重せざる可らざる結果、誠意と理解ある全國的支持に副ふ能はず、斷然辭退する。」（海工會の久能氏勞代辭退に關する聲明書の一節）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

當選可能の確信を自誇し、自らを潔く飾るに可成勇敢にして、而も右翼諸團體に對し滿腔の憤怨の不平を注ぎ、言外に一種の抗議を抱藏するとさへ見え兼ねないこの聲明に對し、最先きに激發したのは大阪聯合會である。時恰も、關西の牛耳者西尾氏が、社會民衆黨の擴張運動に忙殺され、不在勝ちだつた虚を利用してか、同聯合會は金正米吉氏を急據獨斷で上京せしめ、本部を脅すに「同聯合會の總同盟脫退」を以つてし、飽くまで隨伴振ての妥當性を固守せしめた。尤も同聯合會の急激をして、しかく挑戰せしめた原因の一つは、本問題を中心として總同盟と海聯の一部との間に內展した機微——例へば鈴木文治氏の勞代當選が一時危殆に瀕したと思惟された當時相共に利害相一致する脈絡から、總同盟は昨年の勞代問題以降特に、緊密な關係を結ぶに至つた横廠工友會（會長川島不二男氏、松岡氏と共に前にゼネバの地を踏んだ。）を切に動して久能氏を斷念に導くべく、搦手から牽制を試みさせた事情——や、後述するが如き內交渉に就いて、知るところの薄かつた點、換言すれば海聯の內部構成に就き、十二分の理解を有しなかつた點にもあつたやうであるが、更に他の一つは、總同盟の會員と、阪本孝三郎氏の率ゐる組合總聯合關西聯合會の會員とが交在する大阪某工場內に於て「總同盟は代表を得んがために顧問を買つた」との宣傳が流布されつゝあつた一事が、甚しく大阪聯合會の自尊心を傷け、神經を焦慮させるに役立つたといふ感情問題の存在をも見逃してはならぬ。

。　。　。

總同盟關東側は關西側の信望を無視して、鈴木氏を守るがために、既に海聯に內諾を與へた。然るに總同盟の米櫃の一である關西側からは如上の如き逆襲を喰つた。茲に總同盟本部は、隨員問題で全く暗礁に乘り上げて了つた。

二月中旬、鈴木、松岡、西尾の三主腦者は横須賀に駕を枉げ、柏原氏を訪問、更に木下氏の隨員斷念を懇望した。横廠はしかし穩かに頭を縱には振るべくもなかつた。「曰くそいつあ約束が違ふ。」と。

工友會が、總同盟の可成虫のいゝ要望を拒んだ理由は、勿論破約に對する不滿の故でもあるが、曩には吳海工會の占斷的處置に就きそゞろの反感も交つて、久能氏の勞代斷念運動の急先鋒となり、そのため海聯の內部に感情の暗礁を築いてまで海工會屈伏を牢固として主張した工友會であつたゞけに、さなくとも總同盟との因果關係が、對內的に累を及ぼさうとしつゝあるに際し、而も勞代投票委任者の一人としての重責を持つ身として、總同盟の希望を容れるに於ては、それこそ海工會から總同盟の傀儡視される惧れが十二分にあつたのみならず、その重責を汚すを虞れるが爲たつたでもあらう。

柏原氏は、しかし、この急變を島田氏に寓し、一應は木下氏說伏の役目にも立つた。この報を得て內心穩かならぬ氏は、兩氏と共に三月四日海員組合を訪れた。同組合を此際せめても自派の援護者たらしめ、以て所謂「總同盟の不信」をなぢる

べく、强硬性を増さんが意圖だつたことは、苦しまずして考へられるところである。

以下事實の展開の跡を辿り、素材の儘に報じて、讀者の自由なる判斷に委せやう。

三月五日、島田、木下、柏原、赤崎、米窪、川村、都竹（海員協會）、西尾、金正の七氏大阪に會合、大阪聯合會の慰撫に努めた。然るに六日の大朝紙上記の記事は、いたく大阪聯合會の態度を硬化させ、形勢は逆轉した。『山内鐵吉氏を隨員たらしめるか、然らずんば、鈴木會長自ら辭任すべきである。』と云ふのが大阪聯合會の主張となつた。

同七日、木下氏の上京に促されて來阪した鈴木、松岡兩氏が、憤激する家の子を慰撫すべく、殆ど徹宵を必要とした。この一事によつても大聯合の態度の强硬さを推知することが出來る。

同八日、仲裁役の海員組合は、米窪氏を大阪に派し「鈴木氏の勞代は單に總同盟の勞代たるに非ずして少くとも推薦全體の代表たる以上、濫りに辭退さるべき筋合のものたらざること、既に松岡、西尾兩氏によつて、海聯に内諾が與へられた限り、總同盟内部事情は、之を犧牲に供するの妥當なること」等を説いて大阪聯合會の同意を求めたに對し、納り兼ねた大聯からは、「代表と隨員とは交換されたるものに非ざる」旨の聲明を海聯に要望したものゝ、かくては中間派並に左翼に對し、却つて逆宣傳の材料を提供する迂愚なる結果を招來するでもあらう、と說く海員組合の仲裁に、大阪聯合會もその要望を撤回したと傳へられる。

隨員問題は、かくて茲にとゞめを刺されたものゝ如く、從がつて隨員は、凡らく、大阪聯合會の白眼裡にあつて海聯木下氏が起ち、代表等に共にゼネバの地を踏むに至るであらう。

。　。　。

海軍聯盟を中心として、右翼對中間派の爭覇戰裡に進展した本年の勞働代表選出問題は、隨員問題の一波亂を『後曲』と して、ともかく結着を見るものゝやうである。しかし、いつも乍ら組合界に繋爭の禍根を胎す本問題の、本年右翼諸團體間に植え付けた種子が、必しも是を以てその發芽を絶つたものとは、斷言の限りではない。

一、海聯海工會内部に於けるアンチ久能、山本氏の、同問題に對する四百圓の運動費（會費消費問題）

二、海工會對海聯加盟各組合、別けても横濱工友會との關係

などゝ、同問題が新に生んだ派生問題たる可能性を潜在せしめてゐるのみならず、大阪聯合會が總同盟本部を威嚇した態度は、必しも微笑を殊更に鬼面に覆ふ技巧的夫婦喧嘩とのみ、單純に觀過するには、稍々深刻な内實の存在を思はせるものある時『不肖文治が責任を以つて解決に當る』といふ鈴木會長の常套語の中に、將して今後永久にこの問題を解決する秘鑰が含まれてゐるや否やに至つては、殘された問題であらねばならぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無産階級法律問答

布施辰治

□

「進め」は、過去五ケ年の歳月に、社會運動を進出した丈け、其の間の惡戰苦鬪、動搖、混亂、分裂、抗爭に、一進一退、夫れ夫れの異見批評もあらう。

が、しかしながら、彼れ丈けに、動搖、混亂、分裂、鬪爭を騷がれた、「進め」が、發禁に次ぐ發禁の彈壓を突破して、ここに、五周年を迎へる事は、夫れ自らの運動進展であり、鬪爭の白熱である、此の間、微力ながらの論陣に一つ筆の參加を任じて來た私は、「進め」二萬の讀者と、同人と、滿腔の祝意を表明する。

□

私は、其の祝意を一文に綴つて寄せるつもりで居たが、いつもの多忙よりも、特に多忙を加へた、臺灣行準備の爲に、其の意を果し得ない、が、私は、此の際、私の目に見へる平生の多忙の外に、目に見へない多忙を努力する無産階級法律問答を、私の處へ全國諸方面から相談して來る問題に對し、常に、如何なる解答をして居るかの實例を公開し、私の平生が、如何に多忙だかといふ事と、私が、無産階級運動にどんな態度を執つて居るかを諒として貰ひ度い

鑛山勞働者の納税組合問題

（問）私の方の炭山で、納税本金組合と云ふものを作り、事務所で、各鑛山勞働者から、一ケ月一圓乃至一圓四十錢位づゝを、即ち、一年十二圓乃至、十七八圓を積立させて居ります、所で、事務所の納める納税は、一人分に付き一ケ年八圓位から十一二圓位ですから五六圓宛は餘るのですが一向返して呉れません依つて伺ひますが

（一）之れはどうしても積立なければならんものでせうか

（二）餘つた金は返して貰ふ事は出來ないでせうか

（三）組合を退けて他に轉住する爲めに組合を退けたいと思ふものは退けられんでせうか

（答）御手紙の中越丈けでは、あなたの炭山で納税基本金組合を作つて居る其の納税名目や、種類の何であるかゞ判りません、從つて納税の名目や種類及其の徴收に關する縣令其の他との關係が明かにしないとハツキリした解答が出來ません。

其れは、先年足尾銅山で鑛山勞働者から入坑税とも稱すべきものを縣税取り立てゝ居た際、縣税徴收規則中に鑛山の雇主が、被納税鑛山勞働者に代つて一括徴收の出來る樣な規則を設けて居た事があります。

左樣した規則の有効無効は、相當議論の餘地のある事で、私は、假令徴税者其の徴收方法の便宜の爲に、縣會其の他市町村會等、所謂、徴税者の徴税權能を作用する機

・關參與の手續を經て、之れを實施した處で、全然被徵税者の意思を蹂躙し、且つ、徵税方法の徵税義務者公の原則を蹂躙した規則は無効と信じて居ます。けれども、假令結局の解釋決定に於て無効なりとするも左樣した規則でもあつて之に應ずる爲め納税基本金組合が出來て、勞働者から毎月一圓乃至一圓四十錢積立をさせるのであれば、其の積立金と從來の納税關係を單なる代理關係だとは云はれ無い事に爲つて、別問題は聊か面倒になりますけれども、御申越の質問が、別に其れ程面倒な問題を伏在させざるものとし、只、單に、勞働者から納入すべき納税に就て、被徵税者の納税成績を良くする便宜の爲、一種の取扱機關として、納税基本金組合といふものが出來て居り、其處へ勞働者から月々一圓乃至一圓四十錢積立てゝ置く積立金は、納税組合が其の積立者である、被徵税者に代つて納税する迄は、之を預つて置く事になるのであります、だから、假りに、被徵税者に對する義務が縣令其の他の事由に依つて廢止せられた場合には（實例のあつた事です）取戻す事が出來ます。從つて、質問の事例通り勞働者からは、納税の爲に一年十二圓乃至十七圓の積立をさせて置き乍ら組合では年一度七圓乃至八圓五十錢位の納税をするのみで、其の殘金が組合に保存せられて居るとすれば、其れは、當然積立者のものとして積立過剰金の返還を求めて宜しい譯です。それから、積立者が他へ轉居した爲に、徵税區域の變更があれば、矢張り、取り戻して宜しい譯です、最後に左樣した組合が組合員の便宜の爲に出來て居るのであるとすれば、之れを解散する事は組合員の意見次第で出來ます、と同時に、解散後の清算に依る積立金は組合員に分配せらるべきものです、但し組合員が途中で無斷退社した場合に、積立金の拂戻しをしないといふ規則があると其れが罰則的な場合には無効ですが、組合事務遂行の爲に、必要な費用負擔として脫退の時迄にかゝつた費用を清算して負擔させられるといふ意味であれば、其の費用負擔の限度に於て有効です、つまりは無斷退社者に何んでもかんでも只積立金を返さぬといふ規則は無效です。

以上の解答に依つて大體質問の問題に關する意見態度は決定せらるゝでせうから、シツカリやつて御覽なさい。

右回答迄

內妻の姦通問題

（問）私は、內緣の妻と同棲十年の苦勞を共にして、さゝやかな商賣を營んで來たものですが、今度或る男の爲めに妻は、私を捨てゝ家出しました、そして、その男と一緒に暮して居ります、私の家庭は全然破壞されて商賣も潰れて終ひました、是非姦通の告訴して、仇を打ちたいのですが――出來ますまいか、亦、損害計りでも取り度いのですが、取れませうか、「生命」懸けですから、どうか許して私の執る可き方針を敎へて下さい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（答）能く考へて見ると、現代社會の男女結合同棲生活に關する制度程不思議で不徹底なものはありません、不思議な緣で結ばれる、見ず知らずの男女……知つて居ると云ふても、洞査したと云ふても、所謂、媒介人見合か？豫備交際に過ぎない理解で、一生を具にする夫婦生活が出來て行くのが不思議です。

だから、其れが、時に、合せものは離れものの、離婚沙汰が幾多の悲劇を演出するのも寔に餘儀ない事ですが、其の悲劇をどう取扱つてどう救濟するかに關する法律制度も裁判手續もあるにはありますが、男女結合夫婦關係の（前述した樣に）不思議なものである丈け不徹底なものであります、私はあなたのお手紙の爲に斯うして前文を書いた譯ではありませんが、あなたが同棲生活十年の妻に對する今度の問題を契機として、苦い體驗から此の問題を直視し、延いては現行諸制度に對する直感の抗爭的な態度を進出して貰ひ度いと思つて、以上の數言を献ずるのです。

扨て、本問題の質疑に係る逃け出した女の不埒と、之を迎へた男の不都合とを責める刑事手續は許されません、其れは刑事手續で責める姦通罪の告訴にはあなたと逃けた女とは正式の結婚手續がある事を必要とします、結婚手續の屆出さへしてあれば、事實上同棲して居なくとも、姦通の告訴が出來ますが、戸籍上の結婚手續を屆出て屆かないと事實上何年何十年同棲して居ても、姦通の告訴は出せないといふ形式主義になつて居るからです、あなたは此の回答に就て何といふ不都合な非實際的な刑法であるかを彈劾せずには居られないでせうが、現代社會の、現行法律制度は、皆、斯うした、非實際的な形式一點張りで、總ての問題を取扱つて居る政治が──多いので、此處に私共實際生活に即した生活本位な無産階級運動があるのです。

が、然しながら、あなたの問題に就ては、近時、幾らか權力的な形式主義の刑事裁判よりは、社會的の實際生活に順應しやうとして居る民事裁判は、戸籍上の結婚手續が屆出でなくとも事實上の結婚儀禮が整ふて居れば、其れが婚姻の豫約と認め、夫婦貞操義務の保護と、堅守とを規律する事に爲つて居る判例も出來て居ります、其れに依ると、あなたの事件に就て、全然あなたが十年同棲した内縁の妻に、逃け出された不正も、不都合も無く、逃げ出した妻が悪いのであると云ふ事と、それを知り乍ら其の妻を新しく迎へた男が、あなたの苦痛とあなたの損害とを豫見して居る事實が立證せられれば、内縁の夫として、夫權に基く慰藉料を請求する事が出來ます。

之れは先年内縁の夫婦關係を結んだばかりの夫、即ち男が、入營して居る間に内縁の妻が再び他所に結婚した塲合に、入營中なりし内縁の夫から損害賠償を請求して、容認せられた事例がある事に依つて心強く、あなたの慰藉料を請求し得ると信じます。

「生存權の主張」

星村龍

吾々は地上に生きる一個の人間である。人間は生きるためにその死へまでの過程に於ける生は、誰れに限らず等しく生きるべき權利をもつ。

然らば人間生活の、その生きるべき權利を、その完全を期するために、社會は當然、人間を生かすべき義務をもたなければならない事は必然である。そして當然である。

だが果して現在の社會が、地上に生きる、すべての人間にとつて果して、その完全なる義務を遂行してゐるであらうか。

此處に吾々は社會に對して、必然的に、あらゆる猜疑の眼をもつて見なければならなくされる。

諸種の主義運動の起る根本理由は、この猜疑の深まるにつれて動かすべからざる、現實力となつて、芽ばえてゆかなければならない。

社會が、吾々をして、完全なる生そのものを、肯定せしめて與れない病理は、そのうちに育まれた、資本主義經濟組織の、膨大な發達に阻害されてゐる事に因する。

この病患こそは、社會の永年の痼疾である。

この痼疾を、徹底的に廢せんがために、全癒せしめるために起つた醫師こそ、プロレタリアートの團結である。

一人の醫師が、對象の病患に面した時、その徹底的全癒を期するためには、その及ぶ限り、如何なる手段を以てしても、その全治に力を致さなければならない。病患によつて、注射をし、或は又、切開し、或は切捨てなければならない部分があるかも知れない。假に是非共切取つて終はなければならない部分があつて、さうしなければならないとする。それは、肉體尊重の意味から、或は普通道義から見れば、見る眼によつて、甚だしく慘酷に見え、そして間違つたものに見える。切開したり、切取つたりする事は、舊式な田舍のおぢいさん、おばあさんから見れば、手もとに見られない事實である。大抵ならそんな事はしない様にと云ふ。

しかし此の場合醫師は患者の全生命を尊重する爲めに、その人間の未來あらしむるためにむしろ、ヒロイックな氣持と、患者自身の全生命の責任感とによつて、何等の懸念なく、もつとも勇敢にメスを振ふであらう。

それは、最も賞讃すべき行爲であり、最も人道的意義あるものでなくてはならない。

吾々は現在のプロレタリアートの團結の、資本階級との對立は、恰度これと等しい意義を感ずる。生きんがためにそしてそれは全人類的完成の立場から最も有意義的なものである。

然るに、斯る全人類的有意義の立場をもつプロレタリアに極力反對し、極力彈壓するものは、斯る社會は、いかに資本主義組織に、碎かれたものが多いかを知る反證である。此れは又、いかに資本主義のもつ魅力が強いかを物語るものでなければならない。

プロレタリアの資本主義に反抗する力は強くなればなるだけ、そして、さうした團結が多くなればなるだけ、それだけ資本主義の禍は多きいと云はなければならない。止むなき必然に起りくるさうした事實は、どれだけ壓迫されようとも、どれだけ二葉のうちに、つみ取られようとも、之に降した根は深い。それは益々、その根を深く張らせる事にのみしか役立たない。植物の精髓は根にある。その根が地上に、すき間なく張りつめられた時、吾々は本當の生命を感じ、眞に生きるよろこびを感じるだらう。

吾々はすべて、等しく生きる權利をもつと云ふ提言の前に、今、資本階級とプロレタリアートを比較して見やう。

そこには又、あまりに懸隔の多い、あまりにもギヤップの榮華生活の矛盾を發見する。生きるべき道の、あまりにも相違する事を見出す。

資本家は、懐手のまゝ、煙草をふかす數分のうちに、數百、もしくは數千の金を所得する。慘めなる勞働者は、一日中働いて、尚、現實の直面せるパンが、稀々と彼を虐げる。老いたる父母を、餓えたる妻子を、血と汗を出し切つて干からびた彼を。

人間は食はねば生きて行かれない。何よりも、食ふ事は人間生活の動かすべからざるレベルである。

遊んで食へる資本階級の權利を認めるなら、血と汗にまみれて働く勞働者には、尚それ以上の、食ふための權利がなくてはならない。

生きるために、食ふために、そしてそのために勞働者はどれ丈け、資本階級を羨望の眼で見る事か。生きる權利は、そこに根強く感じられなければならないのはもつとも必然である。

されど資本家は云ふであらう。「目的の生産のために吾々はどれ丈け多くの資本の犧牲を拂つてゐる事か」と。

然し、一つの生産をなすためには、資本家のみによつては得られない。そのためには、資本家と勞働者とは、どちらも等しいだけの力によつて盡してゐるのである。勞働者

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

は、生産のために勞力を提供してゐる。

然らば生産によつて得る利潤は、資本家も勞働者も同じく一致をもつものでなくてはならない。然るに、現實の矛盾は、生活の相違は、生きる權利の相違は、かく迄も、資本家と勞働者との差違のために、人間てふものに異れる何物もないのに、それだのにあまりに變らなければならないのであるか。だが、人間は正當に生きるためにその權利をもつものであるために、斯る階級的な生活相違は、何處にも認められない筈である。

正當な權利を主張するためには、どれ丈けそれに對する巧妙な阻害があらうとも、終に結局は歡喜すべき貫徹が期待されなければならない。

生きる權利の主張は、人道的なる正義の主張である。正義の主張は、正義を求むる意志である。

その正義を求むる意志が、何故に危險視され、何故に抑壓されなければならないのであるか。

吾々は、此處に資本主義の巧妙なる阻害を感じる。正しき人道的立場から批判すれば、阻害さるべき、若くは抑壓さるべき惡そのものはプロレタリアには無くてむしろ無形に暴力を逞ましくする彼等資本階級にあるのである。彼等の無形な暴力とは何であるか、曰く搾取、曰く利潤の不當利得、曰く等々、彼等の暴力はあげて數ふるにいとまない。

吾々が資本階級への挑戰は、單に爭鬪的な、單に反抗的なそれではない。その裏面には苦悶と悲痛に虐げられ、打のめされたその血みどろの姿の尙生きんとする悲しい呼びであり、慘めな努力である事を知つてでなくてはならない。生きる安心！ それは今、吾々がいかに渇仰し、いかに讃美をもつて、望んでゐる事であらうか。

然し現在の社會狀態は、未だ吾々に、その安心を少しでも與えては呉れない。換言すれば、現在尙資本主義跋扈の時代である。

正義人道の光は、ごれ丈け黑雲に閉さるゝとも、いつかは必ず全人類に、その恩惠を施すに違ひない。だが、その黑雲を取拂ふべき責任をもつものは吾々以外の誰れでもない。

だが、現在に於て未だ、資本家と勞働者との一個人的な對立としては、到底勞働者は資本家の敵でない。その個人的な對立は、あまりに勞働者が弱は過ぎる。

此處に於て、團結と同盟とは最もその弱きものにとつて必然でなければならない。一すじの藁は容易に切れても、一本の繩となつた時、容易にそれは切る事ができない。

弱き正義の藁は、繩となる事によつてのみ、强き惡を束縛するを得る。

繩なるかな！ 繩なるかな！

弱き權利の主張者よ、弱さ正義を求むるものよ。吾々はたゞ、繩となる事に於てのみ、確實に生命の實在となる喜びと、そして安心とを感ずる。

そして、そこに人間至上の幸福境を見出すだらう。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最後の手段を採れ

北野秋鳥

曰く農村振興、農村の改善、農村教育の改善、今日の農村を根本的に改めなければ日本の國は救へない、日本民族は助からぬ。斷乎たる小作制度の制定は目下の急務にして之に依りて雙方主張の論據を明に致さなければ農村の平和は永遠に齎らされない。農村振興の根本策は副業を措いて他になし、農村疲弊を救ふのには利益の多い養鶏、養魚牧畜・園藝、蔬菜の栽培等にあり、猶農具の改良又何に……

諸君如何に大きく叫んでも駄目です。都會に遠い交通の不便な山村に於ては、百羽養鶏五百羽養鶏と如何に大養鶏をやつても、鶏卵や肉用鶏の賣場に困難する。蔬菜を栽培しても數十里遠方の都會に送らねば金に成らない。養魚牧畜亦然り。唯矢鱈に農具の改良と叫んでも大農式である米國の電動力機械農具を採用したり、亦之を勸誘したりする様な農會は絶體に考究せなければならぬ。米國には米國獨特の農具が必要であり、日本には日本獨特の小農式の農具が必要である。日本の農業は部落組織や地勢其他土地の狭小である關係上小農式で經營せなければならぬ自然の運命にある。改良さるゝ農具は絶對に小農式を基礎としたものであらねばならぬ。公正なる小作料と云つてもどの位が地主耕作者兩者の何れにも偏せざる公正なる小作料であるか。誰が最大限度の理論的徹底的に萬人の妥當と認めらるべき小作料額の標準を算出して小作爭議の根本的解決をつける者があるか。次に日本の教育は何うか。其内容を調べれば全く形式に過ぎない。日本の教育は除りに長過ぎる。其上近頃教育は馬鹿に金が掛る。農村には中等程度以上の學校はない。故に高い教育を受けんとする人は都會に行かなければならない。換言すれば農村の金が外へ出ると云ふことになる、即ち夫れは農村疲弊の原因の一つになるのである、夫して日本は試驗制度を採用して居る故か非常に頭が弱る、よく之等を考へて貰ひたい。人生の半ばを學校生活に費し、莫大な學費を使ひ、而かも頭の弱る程使ひ、出來た人間に碌な奴があるか。長へ間學校で苦しめられた、反動とも云ふか、多くのものは勞働を嫌ひ、眞に精神的に得るものが少く、徒らに物質的に流れ、享樂主義の奴が多く出來て來る。恁んな奴が幾ら出來ても日本の農村を救ふ事は出來ないのである。

諸君行詰つた耕地問題を講究したり、大農式の機械力を應用したり、農民に矢鱈に高い教育を奬勵したり、其麼事で到底農村の改善は出來得べきものではないと思ふ。もつと現實の力ある方法を考へなければならぬと信ずる。今や政府は農村振興費を三百二十萬圓を投ずる事になつた。而し唯無暗に莫大な金を投じたからとて根本的に農村の改善之を實現せなかつたならば日本の農村は救へない。丁抹の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

農村が一時危くなつた時教育の改善で助かつた。日本の農村を救ふのには先づ教育の根本的改善から急務が必要であると思ふ。

今日日本の農村は誠に情けない現狀にある。

「農村を救へ」

我々に從ひ行詰つた農村の安寧秩序を維持せんが爲に警察や村長等が幾多の危險を冒して叫んで來た。然し何等の効果も實現しない。

諸君如何に大きく叫ぶとも駄目です。時は徒らに過ぎ行くばかりです。

諸君此儘にして置かば我々農民は飢餓と困窮の線上に立つて、戰はなければならない運命が來るに相違無い。

諸君今や最後の手段を採るべき時機は來た。雨降つて地かたまるの譬へあり。平和は必ず戰の後に來る。今や行詰つた國家の現狀を打破して明るい幸福の國を造り上げねばならぬ時代だ。奮闘努力せよ。感奮興起の時代だ。縣會議員は何んだ。名譽職にして名譽職に有らざる國會議員、知事、大臣、等々、彼等は何んだ。彼等は農村の爲に怎麼仕事を成したか。彼等は日本に怎麼必要が有るのだ。農村を無視した彼等の行動に對しては、我々は飽までも反對せなければならぬ。言論で解らぬ奴は最後の手段を以つて、斷乎として彼等の無能を糺彈すべし。而して彼等に對抗せよ。

諸君口に云つても解らぬ奴は最後の手段として戰ふより外一道は無いのである。戰はずして平和は來らず。平和は必ず戰の後に來る。彼等と堂々と戰つて最後の勝利を得るか。彼等に服從して死を待つか。此二つより外に道は無いのである。人間にして死を待つと云ふ程の情けない哀れさは無い。飽まで戰ふ、勝利を得よう。最期戰はう。是れ人間の本性の現である。總ては或階級の人々と或階級の人々との爭ひ起るに相違無い。政府が下層民の自由を認めなかつた佛蘭西國は遂に大革命を起した。

諸君此儘にして現在の農村を救はなかつたならば總ては×××××××××××××××起ることは××××××××乍らも亦當然の歸趨であると云はねばならぬ。

宣傳雜誌提供

雜誌は、未組織大衆に、社會主義の何たるかを知らしむるに最も、至上の宣傳機關である。此の意味に於いて吾が社は既刊の『進め』を拾部以上一部一錢の割にて提供する。各支局及び組合、一般讀者諸君は至急申込まれたし。尚、『進め』合本も近日作るつもりである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

教訓歌の變遷

鈴木楯夫

一

先日貰つたふくさに「稼ぐ人貧之神に見はなされ」と歌が染め抜いてあるのを見てフトこうした教訓歌が時代の變遷とともに、その價値を失ふものであるといふことを感じて、そうして、時代の精神にあはぬときはその教訓がこつけいに感ぜられるばかりでなく、ときには人の幸福をきづゝけるものであると思ふた。

二

貧乏人の不平をおさへるために稼がぬから貧乏する、稼ぎさえすれば貧乏せぬ、稼げ稼げ！と敎へ訓すこうした歌や諺は昔からかなり澤山ある。いまこゝろみに二三を擧ぐると

稼ぐに追付く貧乏なし。

身のほどをしりからけして稼ぎなば、貧乏神のつくひまもなし。

身をつとめ精出す人は福の神、いのらずとても守りたまわん

貧は世界の福の神、

前の三つは、いづれも、稼ぎさへすれば貧乏せぬといふことを敎へ、後の一つは、稼ぎさへすれば、留める身分になれるから、貧乏して居ることは福の神を迎へる原因ゝなるから、現在貧乏はむしろ幸福だといふ意味であるらしい。なるほど、稼げば貧乏せぬ時代もあつたであらうたとへば原始共產制の行はれたときのように、けれども、これらの教歌なり諺は、もう、それよりずつと末の時代に作られたもので、貧之人の不平をおさへることをその目的として作られたものにちがいない。こういふ目的で、佛敎方面から作られたのに、

貧は菩提の種、富は輪廻の絆

といふのがある貧乏人はこの世に執着がない、佛になり易いが、富貴の人はあるにまかせて酒よ女と日々に惡業を作つて佛になることはできぬ。だから、富める身分より貧乏人の方が幸福だといふのである。佛道の盛んな時代にはまことに貧乏人の不平をおさへるによい諺であるといはねばならぬ。ながいあいだ死後の極樂を夢みて、貧乏に堪へたわれらの先祖を思ふとたまらなく淚がでゝ。

三

こふした「稼ぎさへすれば貧乏せぬ、貧乏するのは精出して稼がぬからだ」と敎へる歌のあるときに、これとは正反對に

はたらけど

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

はたらけど猶わが生活楽にならざりぢつと手を見る

故石川啄木氏

といふのがある。これは稼いでも〳〵とても生活が楽にならぬといふので、これが前の教訓歌と同じような教訓的のものか、知らぬがこれが、時代の、生み苦をよくいゝ現はしたものとして、世間にひろく傳へられ、有名なものであることは、前の歌や諺に對照して、注意すべきことである。稼げば食ふに困らぬか、稼いでも〳〵、食ふことに困難を感ずるか、事實は、いふまでもなく後者である。そうすれば、稼げば貧乏せぬといふ前の教訓歌は、いまの世の中では、事實に反するもので、これを信じて、なにほど稼いでも決めて富める身分になることのできぬものといはなければならぬ。したがつて、時代の變遷とゝもに教訓歌もだん〳〵變つて行きその價値がなくなるものであるから、昔からあるものだからといふてたゞちに信ずることはできぬ。といふことになる。

四

反對する人はいふかも知れぬ。今の世の中でも一生懸命に精出して働けば、大金持にはなれぬかも知れぬが、どうにかこうにか、食ふことは、できるものである。だから昔の教訓歌がまるつきり價値のないものといふことはできぬと。なるほど、なまけているよりは、せいだして働くに越したことはない、働かないでゐるよりは食ふ事がらくであるにちがいない、しかし、それは、たんに、人間らしくない生活をするといふにとゞまつて、稼げば、貧乏せぬといふていどのものではない。だからなにほど稼いでも、たんに勞働するだけでは、現在の文化をかり入れた生活のできるものでない、かりに、反對者のいふことをよいとしても失業した場合はどうするか、こふいふ場合は、前の教訓歌はまるつきりその價値が失ふ者といはねばならぬ、稼ぐにも稼ぐ仕事がないときに、どうして前の教訓歌を適用することができるか、今日の日本には、少なくとも六七十萬人の失業者があるといふではないか、この失業者から見れば前の歌は全然價値を失つたものであるといふことは少しもまちがいのないことである。

五

全人口の九割五分を占むる貧乏人がその貧乏生活から免がれることは、たゞ、その原因をよく承知して、そこに改革の斧を下すことによりてのみ達せられることである。しかるに、もし昔のまゝの教訓歌や諺をそのまゝ信じていつまでもうつむいて汗をたらしてのみいるならば、得るものはひろうと死のみで、決して幸福はない、そうして、それはとりもなほさず、人類全體の不幸であるといはねばならぬ、教訓歌も諺も、時代とゝもにうつりかわるものであるから、よくぎんみして味はねばならぬと思ふ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

左翼妄動者の流言に對する聲明書

中部日本農民組合

我が中部日本農民組合は昨年の三月五名の極右分子を除名し次いで同十二月四名の極左分子を除名して初めて組合の思想的立場と行動の中正を保持し得るやうになつた、然し被除名者の社會的立場を考慮して強いて之れが發表を謹んで居たが、其の爲め世上にはアトマツタ宣傳が行はれ、眞相をハヅレた流言が飛んで居るらしいから左にその一般を知らせやう。

聲明書

近頃我が中部日本農民組合に對し、頻りに悪意の中傷を檄にし組合の動揺延いては分裂を策し全組合員をして其の去就に迷はしめ、其の間に乘じ一擧に組合を乘り取らんとする野望を抱懐せる輩が策動して一種の陰謀を企てゝ居つた。しかるに聰敏なる組合員はよく之れを事前に觀破して彼等に寸毫も策動の餘地を與へず正義と鐵石の如き結束力とを以て之れに對し、不正の矢は悉く、之れが中途にもぎ去り以て組合の本壘を堅めた 其の結果彼等一派の陰謀は徹頭徹尾大失敗に歸した。

其處で彼等は矢も盾も堪らず今まで隠し切つて居つた化面の正體を日本農民組合岐阜縣聯合會なる馬脚に依て暴露するに到つた。否な日本農民組合の一部左翼派に組合員を賣り付けて其の口を拭ふ口實を捏造するに到つた。性懲りもなく彼等が我が組合に對し緒のない所へ緒をスグて誹謗中傷を縦横するのは主として此の理由に基くのである。我が組合本部は斯様な朦朧團に對して相手となるのも大人氣ない、と信じて居たから、今日まで何等應酬をなさず殆んど默殺して居つた。其の一面の理由には勿論彼等と雖も何時かは前非を悔いて悔悟反省する日があらうと推定して居たからである。若しも彼等に此の兆候が見えるなら、此の際彼等自身の將來の爲めに寛容い大度を示してやらうとまでして居た。然るに彼等は親心子知らずとでも言ふ可きか、本部の斯くの如き寛仁大度に附け入つて飽くまでも虚構の言辭を弄し農民の利害を裏切つてまで野望 遂行に狂奔し、目的の爲めに手段を擇ばぬ言動の繼續をなして居るから、此處に聊か事の眞相を廣く社會に發表しやう、事の起りとは極めて簡單である。

過き頃我が中部日本農民組合から不都合の廉ありて辭職されたる二名の分子及び之れに加ふるにそれ以外の二名が既に再三警告を與へられて居るにも拘らず、我が組合の碌を食みながら我が組合を裏切つて我が組合の指導精神と相容れぬ某團體の命を帶び其の密命に狂奔せるに依り斷然除名處分に附した。すると此の一派と個人的に腐れ縁を持ち、且つ愚にも付かない理由で組合本部に一種の不平を有する一派とが野合し名を革新同盟に借り全然彼等の陰謀には與つて居ないと言明して居る法律顧問名まで利用して事を企んだが、大義名分なき斯様な陰謀は如何にて成就しやう。（中略）殊に滑稽に感ずるのは支部員が少しも關意して居ないにも拘らず一二支部幹部の名を以て何々支部脱退の聲明が出されることである。斯る徒が如何に血迷ふて笛を吹いた所で一般組合員は踊り出さないから、軈て本組合の威力の下に鎧袖一觸の憂き目を見るに到るであらう況んや彼等が演ずる猿芝居は結果に於て意識的に地主と共同戰線を張るのヂレンマに陷つて居る以上、日ならずして賢明なる農民階級 蹶起に依り刄を下さずして自滅作用を起こすの日あるは期して待つ可きものがある。依つて本組合は掃き溜りに集つた斯くの如き不正分子の行動を暫く傍觀するものである

右聲明す ―昭和二年二月―

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大山郁夫氏の泣言

鈴川二郎

一

「改造」三月號に載せられた大山郁夫氏の

「早稲田の學徒に與ふ」

を讀む。それは十七頁に渉る一大長廣舌である。そして其は、その末尾にもある如く、同氏の去る二月十日の早大に於ける告別演說の趣旨を書き改められたるものである。

吾々は玆にこの一文が如何に御目出度きものであるかを暴露して置かうと思ふ。

二

氏は先づ云ふ——「私が早稲田に容られなくなつたのは、私の日頃の理論のためであり、その理論に基礎づけられた私の主張のためであり、更に又、その主張の具現としての私の實踐であると云ふより外に途のないものである」（一四頁）と。

吾々は云はふ——唯だ單に其れは、資本主義發展段階に於ける歴史的必要たるに過ぎない、と。

從つて「單純なる一片の感情問題から來てゐるものでない」（一四頁）と斷ること其自體が、返つて其れが感情であることの反證でさへあり得る。センチメンタルな大山氏、自稱「氣の弱い」大山氏は、學校の非常なる反動化（今更ら云ふまでもない。然るに氏は未だヒイキ目で見てゐる。即ち早稲田學園は自由主義の立場にあり、最も自由なる學園であると！）にも拘らず、「常に陰になり日向になつて、私を庇護してくれた人」たる「老高田總長」（老に注意せよ！）を向ふに廻して挑戰するが如きことは、私には情誼上なすに忍びない」（二八頁）ほどの感情の人であるのだ。感情家、大山氏、萬歲！

何たる明理論であることよ！

この筆法で行けば、吾々は資本家の工場で世話になつてゐるのだから、老資本家を向ふに廻してストライキすることは、なすに忍びない。（餓えて死ね！ これが大山氏の而かも明快なる理の歸結だ！）

如何にそれが小ブルジョア的であり、日和見主義であつたことよ！

三

所謂「兩立論」も、結局は御都合主義以外の何物でもない。勞農黨が中央委員長としての執務を多くさせないやうにするからとの下に交渉したからとて、それが兩立論の何んの理由にもならない。

またブルジョア大學で政治學の教授たるものが、その理論の實踐のためにプロ黨に行くと云ふことが、反對されて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

はならないことだと云ふのか。何たる御坊ちやん的思考法であることよ。何たるおどなさよ！

四

吾々は氏の立場の根本的に小ブルジョア的であることを認める。それは『我が早稲田こそは』とのショービニスチックな小ブルジョア的母校愛に基調を置く。それは正しくインタナショナルに於て同志を裏切つたカウツキイ式口吻である。今日の大學がブルジョアの支配下にあること（氏は尙ほ安部さしか云つて居ない！）が、今更らわからないのか？　否な大山氏の小ブルジョア的意識と情誼とは、それを認め、それを暴露するを欲しなかつたのであつたのだ！

ブルジョアの子弟、乃至は小ブルジョアの子弟にのみ門戸を開いてゐる今日の大學――それが、何んだ。

五

水鳥の羽音に驚いて辭表を提出したことは、そこにも此の氣の弱さを具現してゐる。然し其に怪俄の功名とでも云ふべき種類のものだ！　吾々は氏が、下手に『外部から支持應援の手を……さし延べん』とする如き小ブルジョア的感傷性を去つて、永遠の『早稲田よ！　さらば！』の下に直ちにプロレタリア學園の確立のためにこそ努力せんことを望む。泣言を止めよ！　くり言を止めよ!!　而して、まつしぐらに進め!!

「根を絶つて葉を枯らせ」

吉田源藏

「どうも世の中が不景氣で困る此の分で行つたら食へんやうになつて仕舞ふ、早く景氣が良くなつて貰い度いものだ」これは常に吾々が市井の貧乏に苦んで居る人達から聞くところであつて、又自からもお互に言ふところである。ところで不景氣と云ふものを斯んな工合に何處からか飛んでゞも來るように考へてよいものだらうか。

世の中とは一體何だッ！世の中は社會ではないか、社會なら人間の共同生活をするところではないか。世の中が社會で、社會が人間の共同生活をするところなら、世の中の不景氣だと云ふのは、共同生活をして居る人間の不景氣だと云ふ譯だ。ところで不景氣と云ふことが、正月が來ても下駄も買へず盂蘭盆が來ても帽子も買ふ事が出來んと云ふ事である限り、世の中の不景氣と云ふ事は、結局人間の貧乏だと云ふ事である。

人間の貧乏が世の中の不景氣になるのだから、必ず一人や二人の人間の貧乏ではない、大多數の人間が貧乏して居るのに違ひない斯ふなつて來るど貧乏して居る大多數の人

間と云ふのは一體誰々だと云ふ事になつて來る。

此處迄考へて來ると吃驚するではないか、世の中の不景氣と云ふ化物の正體が、お互吾々の貧乏と云ふ事なんだ。不景氣風と云ふ生臭い、氣味の惡い風は化物でもなければ、又それの鼻息でも何でもないので、實は吾々勞働者や、俺達小作人等の貧乏と云ふ事が、不景氣の正體なのである。不景氣と云ふ化物が世の中へ現れて人間が貧乏するのでなく、人間の大多數人が貧乏して、それで此の貧乏したところの人間が大多數集つて居る世の中が不景氣と云ふ事になるのである。だから世の中の不景氣を無くしようとするのには、大多數の人間を貧乏せしめないようにしたらよい譯である。そこで大多數の貧乏人は、吾々プロレタリアーなんだから、吾々プロレタリアーが貧乏をしないようになつたら、不景氣と云ふ厭な生臭い風は吹かんようになるのである。

ところが中には斯ふ云ふ事を云ふ人達がある。『成る程不景氣は大多數の勞働者や小作人の貧乏から來るものであるかも知れないが、それなら日常勞働者や小作人の消費するのだけが賣れない理屈だが、一度び不景氣になると平素勞働者や小作人の生活に關係のないピアノも賣れないし、ホテルも、待合も、カフエーも、三越も白木屋も打撃を受け、妾だつて失業するではないか、プロレタリアーが妾を置いたり、待合通いは出來ない筈ではないか、だからプロレタリアーの貧乏……即ち勞働者や小作人等の消費力の無くなつたと云ふ事は、不景氣の原因の全部だと云ふ事は出來ない』、と一應尤もな理屈だ、此んな事を云ふ人達は、大方勞働者の貧乏は資本家の貧乏だ。資本家の利益は勞働者の利益だ、ブルジョアーとプロレタリアーは持ちつ持たれつだ。などと云ふ所謂協調主義と云ふ過激思想に被ぶれた連中である。が然し、お氣の毒にも、資本家があつて勞働者は行つてゆけるのだと云ふブルジョアー擁護理屈は、資本家は勞働者を搾取……勞働者の上前へも刎ねなければ妾も圍へず、細君にも三越へ行れず、娘にピアノを買つてやる事も出來ず、待合泊りも出來ないと云ふ事を雄辯に物語つて居るではないか。

彼等はプロレタリアーを搾取して貧困せしめ、そうして消費力を吾々から奪つて仕舞ふ、其の結果彼等は自分等の所有する生産機關を動かす事を止める。そうして勞働者を失業せしめるから上前を取る事が出來ない。

社會生活と云ふ往來の邪魔立てをするものは、搾取と云ふ大木から延びて居る貧乏と云ふ枝葉である。此の邪魔物を取り除くには、救濟だ、慈善だ、憐愍だ等云ふところの、只枝葉を切り取つて見たところで到底も駄目だ。又自然に延びて出て直ぐに邪魔になる、貧乏と云ふ枝葉の延びる搾取と云ふ大木にはブルジョアーと云ふ根が張つて居る、昔の人が言つて居る、『根を絶つて葉を枯らせ』と、そうだ此の根を打ち切つて仕舞ふことだ。

そうしたら幹も、枝葉も枯て仕舞ふ、不景氣なんて生臭い風も吹くまい。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ゴシップ

或幹部と一黨員

中村高一

「無産政黨が現在いくつあるか、其名を云つて見給へ」
「エー農民勞働……」
「それはとつくの昔に解散だ」
「ア、間違ひました、逆さてした」
「其の次は」
「日本勞働農民……」
「そんな長い名でない、日本がつく時は勞農黨と云ふのだ」
「民衆黨とか云ふのもありますね」
「頭に社會がつくんだ、まだ日本農民黨と云ふのもあるし、地方に行く、社會とか勞働とか農民とか民衆とか云ふのを上につけたり、下につけたりしたのがあるから、よく間違へないようにしろ」
「ヘイ」
「それではお前の屬して居る政黨は其の中のどれだね」
「元は……黨でしたが、今は…………」
「元の事が、此の次の事ぢあない、今は何黨だと云ふのだ」
「…………」
「政黨の區別がつくかい」
「區別？と云ふと、ア、ダラ幹とか、日和見とか、小兒病とか云ふやつですかい」
「ウフ…………」
「ドノ政黨にも此れ支持する組合があるが農民組合について聞く事にしやう、組合の名がわかるかね、ドノ組合がドノ政黨に屬するか云つて見給へ」
「エー日本農民組合、此の頃堅實なのと不堅實なのと割れたそうですれ、アレは勞働農民黨でしたね、ソレカラ日本農民組合同盟、組合總同盟、組合聯盟、全日本……：ドレがドレだかわりません」

革命家の卵

藤原政二

Kは動物園の檻と殆んど同じ感じをうける留置場の外圍の中へぢつと眺めてゐた。

俺達の理想國に到達する迄は、貧乏と留置場はつきものだと、覺悟にしてゐるが、さていよいよほりこまれるとなると、妙に落ちつきを失つてしまつた。

頑丈な鐵扉や、大きい錠前などがいやに革命家の卵を威脅する。

Kがそこへ押し込まれるなり、背後で大きい鐵錠をしめる冷酷な音がした。それが腦天から足の爪先きまで、びりびりと細い弦線をふるわす樣にひびいた。

と突然、警察の裏口あたりで、四五人のはげしくののしる聲と、亂れた足音とサーベルの音とがからみ合つて聞えてきた。

ああ確かにAの聲だ――あの連中も引つぱられてきたのか――

Kは急に強い反抗的な心持がむくれ上つてきて、生命にかへても入るのを爭つて見なかつたのが、悔まれてきた。

Kはどう考へても、此の中には呼吸の通ふ生物が棲めるとは思はれなかつた。これこそ生物が生物として取扱はれない、而も社會人の手で作られた一種の格納庫である。中は洞窟の樣に眞暗であつた。そして嬰兒のオムツから放つ臭氣と同一の臭氣が、アンモニヤガスと共に彼の鼻を刺し貫く。

革命、演說會、中止、解散、テーブル、コップ、革命歌。此れで俺も社會運動家としての、洗禮のスタンプを押されるのか。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全土戰報

目覺めた青年

農民運動や青年運動に就て理解に乏しく悲觀しつゝあつた我が地方一帶も此處一兩年の間に頗る長足の進歩をなして來た。勿論都會方面の運動に比すれば遠く及ばないが最近になつて目覺めた青年が出現して來た事を喜ぶ。今迄社會運動に從事した青年の多くは官憲の壓迫や地主及資本階級の横暴な迫害を受けつゝあつたが最近に至つて是等の青年が迫害や飢餓に打勝つて目醒しき運動をしつゝある事を見る。我が支局所在地の農民無產青年諸氏は社會運動に獻身する一つの武器として最近青年圖書館を設立し且つ毎月一回以上會合の辯論會の開催式を兼ね青年辯論會を擧行し大いに氣勢を擧げ今後は總ての運動に進展する意氣込みで活動して居る。【岡山縣　倉本晃南】

渦巻く戰塵

我が島根縣小作聯合會は今度新らしく生れた全日本農民組合に參加する事に決して、去る一月三日大阪天王寺公會堂で開催された創立大會に十四名の代表を送つた。山崎豐定君を初めとして、山陰の若き思想家たる山根敬、安達巖君等が、當日盛んに活動した。島根縣小作聯合會は正に本組合の中堅組合たる勇氣に滿ちてゐる事は、當日集つた一般人士の等しく認める所であつた。

古い島根縣小作聯合會は殆んど全日本農民組合に所屬し、全國的共同戰線の一翼たる新しい島根縣小作聯合會は生れた。吾々は今後益々爭鬪を續ける。來る四月上旬には、新しき我が組合の最初の大會を開き、大會日は大演說會を催して氣勢を上げる考へだ。又、萬國のプロレタリアの祝祭日たる五月一日は全農民總動員して、松江市を中心とする示威運動を試みブルジョアの出鼻を挫き、一般未組織プロレタリアの組織の爲めに奮鬪する。全日本の「進め」讀者諸兄共に勇敢に戰はうではないか。【島根縣　T・S生】

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

反動思想を葬れ

近來我國民の中に帝國主義とか云ふものを唱へて、危險思想を排斥せよ、そして健全思想を持てよと云つてゐる者がある。併乍ら危險思想とは一體何れを指して云つてゐるのか、社會主義か、さうとしてもどちらが危險思想なるかよく〳〵考へて見よ。

其の帝國主義の提唱する所はこうなのである。我帝國の將來は我帝國青年の雙肩に據つてゐるにも係らず、其の青年が西洋より流れ込んだる新思想に心醉して、反動思想を葬れ」と云ふが如き勞働運動社會運動を起して國家の平和を攪亂するので困ると。

尚其の上に彼奴等は社會主義は一種のユーモアに過ぎない等と實にひどい事を吹聽して居る

併し乍ら彼奴等が如何程帝國主義を高唱する共、現資本主義經濟組織の下に社會主義運動が起るのは必然であるし、隨つて資本主義の崩壞も免れるものではないが、然し斯の如き反動思想が社會に存在するだけ社會の進化も阻害せられるし、それのみならず、吾等の幸福も、破壞せられるのであるから、斯の如き思想の撲滅に努力せられん事を諸君に訴へてやまないのである。【大阪 三木田好美】

斯かる輩を倒せ

二月號青年教員に檄すを讀み我村の一教員を見る時俺の血潮は逆流するを覺える。

彼は廿歲の青年教員だそして昨日迄俺の友人であつた。然るに彼は昨日その教場に於て六年生に、社會主義は恐ろしいもの私の友に一人恐ろしい人がある。私共の今日生きてゐるのは×××××××××××××。それで皆さんは……等々約一時間にわたつて、社會主義の恐ろしさを繰り返し、此の俺をこき卸したそうだ。俺はさつそく絕交狀をたゝきつけてやつた。社會主義は恐ろしいと吐かす彼には、ブルが何でありプロが何でなるかさへわからないのだ。

勿論我等プロの悲壯なる叫びは彼には全然聞えないのだ、即ち彼の社會主義に關する智識は單にブルの經營下にある新聞紙を通じてのみである。社會主義と云へば爆彈を聯想する低の人間だ、然し俺は無智な奴らと笑つてすませない事を痛感する。何んとなれば彼は天眞無垢の兒童を教育する人間だ。ブル教育の代辯者であるからだ。諸君、思ひ見よ、彼によつて流される害毒は實にブルにも劣らないものがある。吾等の周圍にはかゝる輩が、教員で候とすましてゐるのだ。そして天使の如き兒童を虛僞の世界に落し入れつゝある。おゝ！是が戰慄すべき事でなくて何んであらう。

諸君、我等はブルを滅亡さすと同時に斯ゝる輩を徹底的にやつつける必要がある。再び云ふ彼等は小學兒童を教育する人間であるからだ。【北海道・北村陽之助】

田吾作の辨（續）

山間僻地の我が農村へも都會同樣に所謂名士なるものゝ講演が流行して居ます。

御愛嬌にもお寺の坊さんは唯心論をふりまき社會改造はお寺へお賽錢を多く投げ込むにありとか町の醫院ドクトル君は食物を選び着物は着かへ過勞をたしなめと所謂衛生のお話をやります。帝國農會とか云う處の技師さんは機械を使用せよ改良農法に依るワケはないと白いお手を振つて迷論をお吐になります。そのどれもが皆一樣に百姓の職は一番宜敷いと、例の十八番で私等をかつぎます。

肥料の一つも握つたことのない農會の技師さん生活苦を知らない別世界に死人相手にお經に生きて居る坊さん、病人の金を搾ることゝ婦女子に戯れることを人生の如く思つて居るお醫者樣のお話を、村役場の歷々が多額の費用を使つて月に二回も三回もおやりになるのです。一家一名は必ず出席する樣つておふれが村へ出ます。流石に迷士丈けあつて迷論卓絶ソノ云う處說く處搾取の手が餘りに露骨に見へすくのでお笑しくてなりません。

農村振興とは？都會商店から商品をドッサリ購買組合の手で卸すこと。お寺の釣鐘堂へ寄附すること、銀行へ貯金をすること。こんなにしか私等の耳朶へは響きません。お寺の和尚は金借して銀行は何時でも―帳簿整理―の紙片をはります。お役人や村役場の歷々共は私等を丸で芝居の樂屋か、カフエーの隅の卓上の如く思つて居る相です。

殊に面白いのは警察の奉公です思想善導は宗教の力を借りるにありと力で盛んにお寺や神社へお賽錢を投げ込むことを奬勵して居ます。最近派出所からお越しになつて、君宗教を研究して呉れないかそしてそんな本は止めて村田の大平さんとか云う人の「使命」を讀んで呉れ給へ誌代は僕が拂ひ込む是非つて迷言を並べます。

滑稽にも「冰歌會」と云う奴をこさへて十七八歳の青年女子と婆さん爺さん連中を集めて浪花節みたいな唄を教へて居ます。―善導―したかの如く思つて居ます。私共はこんな當局の愚策を嘲笑すると共に涙が湧きます。相手が餘りなのでやつつける心が鈍ります。それよりか私共は靜かに潜行運動を取つて青年の反省を求めて力を養つて奴等を嚴重に監視して居ます。全國の同志農村青年諸兄姉状況を知せて下さいませ今農村は新しい力に刺戟され傳統的因襲の殼を破らんと

して居ます土佐の山間に官憲の壓迫と間斷なき社會搾取に抗しつゝ

【高知縣　佐根泰郎】

鬪爭の戰線へ

曰く農村を救へ、曰く農村の改善、曰く農村教育の改善、猶農具の改良等々。………親愛なる勞働農民諸君如何に大きく叫ぶとも之を實行せなかつたら駄目だ。

勞働農民諸君此儘にして置けば我々勞働農民は飢餓と困窮の線上に立つて生活に惡戰苦鬪せなければならない運命が來るに相違無い

勞働農民諸君今や最後の手段を採るべき時機だ。雨降つて地かたまるの譬へあり、平和は必ず戰の後に來る　奮鬪努力せよ、感奮興起の時代だ。

勞働農民諸君斷乎たる最後の手段として耕作料不納同盟を起せ[illegible]。土は自然のものだ吾等全人類のものだ。野獸の如く使はれて働いて働いた汗と油の結晶を地主に吸はれる必要はない。耕作料は食つて餘つたら吳れて遣れ、小言を云ふ者が有つたら一粒も遣るべからずだ。

彼等の彈壓を見よ

【石川縣　北野秋鳥】

土地を剝奪し、幾萬の人を殺し幾億の人の血と汗を搾り取つて作り上げた、公盜――大盜棒の張本吸血漢三井は有數の大工場と大生産機關を縱橫に專有してゐる。

彼奴等一族は惡運強く益々其の魔手を延ばさんとしてゐる、今又茲に我農村に彼奴の毒手が迫つて來た。眠れる村民は天下の三井さんの御光來だ、いや文明文化が訪づれて來たのだ。我村も愈々發展して來るのだ、など盛んに有難がつてゐる、これ皆彼奴等の魔醉に掛つてゐるのだ。何と恐ろしい事だらう。

眠れる農民は數十町歩の命と賴む田畑を僅かの黄金の魔藥に依つて難なく剝奪されてしまつた。幾萬の朝鮮の兄弟は搾取會社の建設の奴隷となつて酷使されてゐるのだ。あゝ何たる矛盾だ、人間冒瀆だ、冒險だ、早く早く――農民も鮮民も目覺めよ。勞働者の血肉搾取場東洋レーヨン會社滋賀工場は斯して多くの土地を掠奪し、勞働者の肉を烈き血を流して、完成に近づいた。吸血鬼は內臟舌出し微笑んでゐるであらう。吾等は全く彼奴等の肉を食つても飽きたらぬ程だ。

斯る事實を目撃し憤怒に燃えし同志伊藤誠一君太田增夫君の二人は共產黨事件以來あらゆる迫害壓迫を受けて失業の悲境に落込んでゐる。活路如何せん。悲憤と忍從を持つて此の搾取會社に應募したのだ、所が失業者の多數に附け込み、官憲の擁護の下に勝手振舞な

職工の人選採用をしてやがるんだ同志太田君は第一發に彼奴等の槍玉に上げられ體よく斷られたのだ伊藤君は、辛じて入社出來た。勇敢　彼等二人は固く手を握つて奮鬪してゐるのだ、さすが進めの同志だ。

去る二月二十日吉田兄の主催で「彦根共産黨事件眞相發表官憲糺彈大演說會」が行はれた。同志伊藤誠一君は雙手を上げて參加して大熱血の叫びと頑迷なるブルジョア官憲の不法を糺彈したのだ。之が因?二月二十七日突如(豫告モナク)解雇されたのだ「外國人技師に氣が入らないから」との、こんな理由なんだ。入社したのが二月十九日だから僅に九日間働いた切りだ丸で大根でも切るようにた易く行りやがつたのだ。此の裏面にも官憲の中傷的行動があつた事は確だ。

太田君も伊藤君も復職運動を行つて見たが全く駄目だつたそれで膳所支局同志一同は額を集めて前後策を考究してゐる。各方面から東洋レーヨン會社の職工採用行動に附いて相當非難を受けてゐるから何れ官憲と會社の不法政策の確證を聚めて近く大糺彈演說會を開く可く準備中である。

彼奴等の彈壓位に斷じて屈服するものか、吾等は常に覺悟してゐる。多くの行路は眞暗だ鬪ふ以外何物もないのだ。進め同志にへこたれる様な弱虫は一人も居ないはずだ。

御蔭でブルジョア集團の江州に我々プロレタリアの勢力が日を追ふて進展して行くんだ八日市に第三支局同志(川副寅藏君)が生れたのも共の一端だ。進め!進め!!

【滋賀縣　木下正】

官憲糺彈の叫び

二月二十日吉田源藏兄司會の下に彦根町金龜會館に於て「彦根共産黨事件眞相發表官憲行動批判大演說會」を開催した。定刻午後六時迄には會場の内は早くも溢れる聽衆ばかりの大入滿員となつて、聽衆は場の外に溢れんばかりの大混雜を呈した。

後援の本部より山本、大路、神庭兄それに組合同盟の渡邊、吉田兄等何れも千軍萬馬を往來した粒撰りの勇士ばかりだ。

先づ吉田兄の司會者としての挨拶有りて兄特有の大熱辨に入つてざわめき渡る無慮千餘の大聽衆は一時に静まり返つて、愈々以つて資本主義牙城に肉迫した、白熱化した大雄辯、突、眞、熱血の叫び悲噴又悲噴、大熱血は溢れ、悲憤は絶した。突如「中止つ」兄何ぞ知らで眞に奔馬の如し「中止つ」「中止つ」連發益々強し「司會者吉田源藏君の、言論を一切中止します。直ちに退場を命じます」熱血の士吉田兄は憤恨を殘して空しく降壇した。聽衆は盛んに「官憲橫

暴」「辯士續行」と連發する、玆に置いて吉田兄に代つて山本辰興兄司會者に任ぜらる。

續いて少壯勇者渡邊氏吉川氏勇を鼓して出るは出るは何れも特有の大雄辯唯聽衆は、醉ふのみ。聽衆より彦根町の町會議員うぢ虫、谷口某なる者飛出し愚論々々と辯す生意氣にも吉田兄に對し駁論を試みたれど賢士山本兄に依いて、彼の駁論は見ん事殺へされた、彼奴赤面の體にてコソコソと逃出したり。當夜の一餘興、實に痛快だつた。僕の番が來た、躊躇していたが思切つて飛上つた。

斯して大演說會は大効を奏して十一時閉會した最後に無産者萬歲を提唱されたが小心者の官憲の泣事にめんじて止してやつた。おしい事には同志太田君が出席出來なかつた事は返す返すも殘念だ、それも官憲と家庭の壓迫に依つてである、もつと詳報したかつたが事情で出來ないのを御斷りする。最後に同志諸君に告ぐ僕が此の演說に臨んだので二月二十七日突然勤めてゐる、東洋レーヨン株式會社（三井系）滋賀工場から不法無理由で追出されてしまつた。何しろ彼奴等ブルジョアーの前には決して屈伏なんかするものか、目の黑い間は絕えずブルジョアーをギュウーと睨らんでやるんだのろつてやるんだ。進め！進め!!親愛なる兄弟姉妹よ、永久に手を繼ごうよ。

【滋賀縣　伊藤誠一】

戰線雜報

全土戰報の頁をかりて運動中の二三の感想研究資料を、久し振りで公開する。

（イ）わからず屋

せめて論理的な反動の思想をでも持つてゐて呉れる反動者ならば張合があつて頼母しいけれど何が何やら譯の解らぬ地方の小作人、新聞を讀まぬこと雜誌を見ぬことを得々として自慢してゐる無智さ可減に先づあきれる。それでゐて何だか聞きかぢりの半可通な資本主義を振り廻す、よく吟味すれば社會連帶責任も何もない個人主義者だ、非科學的な利己主義者なのだ、團結の力を利用することを排斥する川かが植え付けた親鸞主義淨土眞宗の誤信から來る傳統的な亡國的錯覺に甘んずる無自覺者諸君だ。遺憾ながら現代の國民は批判の力を持つてるませぬと云ふ政友會の牧野良三君の演說に抗議を申込む事の出來ぬ人、私の云ふわからずや。「進め」を買ふ可能性のない、特權者から見るとこれが良民だと云ふ（警官の中には彼等よりも物の解るのがゐます。）こんな人達に與へられた普選は泣くであらう。立憲政治の運用などは一場の夢だ。

（ロ）農民？時代？

日本農民黨の連中は、無産階級の政黨ではない、そうだが、農民

の擡頭は「時の力である時勢である」此機を外さず進め！行けだと道理で時が來ればその勢で政友會あたへ須貝がいてんするそらう。他の運動は眞理なるが故に不明暗愚の大衆、舉つて非をたゞとも我往かん、進め！進んで××××××・

（ハ）他山の石

他山の石は珍らしい。富山縣下の農民顧問、萩原作精君の有名なる珍説を全國三拾六萬の進め讀者諸君に紹介する。萩原君は當年七十三四歳の老人である眞面目にこれを讀んで次號の進めの戰報で何とか批評をして欲しい。（敵か味方かは分けること）。

一　小作權ノ確認セシムル利益

小作權ヲ永久ニ確認セシムル時ハ小作ハ其業ニ安ンシ土地ヲ愛スル念慮愈々深ク可及的土地ヲ改良スルカ故ニ生産ノ增加ヲ得ル其効果甚ダ多シ之レ個人的ニモ國家的ニモ有益ニシテ最善ノ施設ナリ

二　小作權ヲ債權トシテ賣買シ得ルヲ以テ一種ノ財産トナリテ社會ノ信用ヲ得ルカ故ニ肥料代ノ借リ入レ其他農業經營ニ要スル資金ノ融通ヲ得ル便利ヲ有ス

三　小作權ヲ小作者ノ財産ト認メ相當價格ニ見積リ其町村ニ於ケル縣税村税ヲ賦課シ以テ地主ノ負擔ノ輕減シ其賦課ヲ調節シ得ルヲ以テ地主ヲモ利益スルナリ

四　土地所有セサル小農小作者ニ金貸スル場合産業組合其他銀行ニテハ財界ノ變動ニ際シ往々貸倒レノ失敗ヲ招キ缺損ヲ生スルコトアリ然レ共小作權ヲ資産ニ認ムル爲メ其損害ヲ蒙ルコトナシ但小作權ヲ擔保的金融ヲ貸與スル時豫メ地主ノ承認ヲ必要トスル場合アリ

五　小作者ハ自己ノ耕作地ヲ永久ノモノト心得畦畔ノ屈曲ヲ直シ又ハ埋ミ田堀リ田等個人々々ノ耕地整理ヲ爲シ土地肥沃ナラシメ面積モ亦擴大ス其費用ハ勿論小作自身ニ支辨ス之レ素ヨリ生産ノ增加ヲ得ルカ故ナリ

六　小作農業者カ負債ノ爲メ債權者ヨリ所有財産ノ差押ヘ等ノ運命ニ遭遇スル場合ト雖トモ小作權ハ相當價格ヲ有シナカラ其責ヲ免カルルコトヲ得ルヲ以テ一時ニ破産ノ境遇ニ陷ルコトナキカ故ニ生活安全ナリ

七　地主ハ、小作權ヲ確實ニ認ムルトモ、何等ノ損害ヲ受クルコトナシ却テ土地ノ生産能率ヲ增加スル丈ケ土地ノ價格向上セシメ凶作ノ年ト雖トモ年貢米ノ未納者ヲ生セサルカ如キ大ナル利益アリ

八　小作權賣買ノ時ハ價格ノ百分ノ五乃至十ヲ名義書換料トシテ地主ヘ納付スルコトトスルカ故ニ小作地ノ移動アル毎ニ地主ハ臨時ノ收入ヲ得ル利益アリ以上

【富山縣　村山銀次郎】

月給取の本懐

世の中に一番御目出度ものは、プロで有り乍らブル氣取になつてブルの肩を持つ人間位い御目出度い人間が有ろうか。搾取されておつて搾取する人間に味方するなんて馬鹿げた事が有ろうか。

僕は營利會社の安月給取であるが古參の奴等は皆此、御目出度いブル黨ばかりだからいやになる。彼等は重役からはごんな扱をされても當然の様な顔をして益々氣嫌を取り、まるで月給を只でゞも貰つて居る様な態度だ。彼等は勞働を賣つて居る丈でなく心まで賣つて居るのだ。そのくせ下の者には意張る〳〵一寸した用事でも他人を使ひたがり自分に直接事をなすと體面にでも關すると思つて居るのだ。

こんな人間らしくも無い人間に使はれて居なければならない我々は何と云ふ苦界だらう。昔しの娼妓の境遇を苦界と云ふが、僕等は娼妓以上の苦界だ、彼等には年期がある。僕等は終身だ彼等は客を振ることもあるが僕等が振つたら首が飛ぶ。

僕等はこんな生活してまでも生きて行かねばならんだろうか？餓死しても良いから現在の境遇から脱し様か？世の中と云ふは皆こんな様なものであらうか？然し此の煩悶に餘りに現在社會を動かすべからざる絶對のものと見た爲であつた。太陽だつて變化する地球だつて絶えず變化して居る。まして人間の造つた人間社會の組織こんなものが絶對のものであつてたまるか變化するのは當然過ぎる程當然だ。

現在社會組織を以て滿足し現在地位にこべり付いて居たい人間は僕の眞の友ではない。僕は諸君の熱有り血有り意氣有る戰鬪氣分に接しうれしくてたまらん。もうじつとしては居られない。どんな犧牲もいとはん。我等の主張は正義である。我等の目的は自由と平等であるこんなに男らしいこんなに希望に滿ちたこんな愉快な事が他にあろうか死して後已む男子の本懐ならずや。

【名古屋　淺井正美】

電球の爆破

俺の工場には、資本没落行く程の道化役を、忠實に勇敢に努める様泡沫の様な、手淫的と特權と、宗敎的陶醉を催す待遇を與へられて自己を忘却した社員といふ奴が、各部に六七名宛カガシの様に陳列されてゐる。

俺達の慘な生活を、慘な上にも慘にするものは、實にこの社員なる名稱を有する、ほんの少しばかりの特權を與へられて、悪組織のかけから優越面を覗かせて、さし迫つた生活に去勢されて抵抗力を

パンの爲めに押へつけられてゐるのをいゝ事にして、哀れむべき虚榮心を滿さんとする彼奴等の狂態にする事がどんなに多い事だらう
　俺の仕事場の一部（煉瓦を傳つて）通りぬける事は、（創立以來通行路になつてゐた）各々の仕事場へ行くのに、路の利を得て、又寒い風や雨に晒される患ひもなし、第一手を延したら達きそうな所へ行くのに、遠い歩きにくい路を廻る、忌まいましい感情を、一日の仕事前に抱かないといふ事はほんとうによい事（？）の樣であつた。
　その日、春立つてから一ケ月、氣候が氣狂になつたかと思はれる程寒い日であつた。
　六時前になつて夜業の仲間達が肉を、血を、魂を、削り取られに仕事場へ、貧乏の二字に引張られて通りかけた、その時主任の奴は新任の敏腕（？）を示す爲か、或は彼の神經が凍りついてゐたのか、部下に命じて一方の入口に鍵をかけさせた。
　俺はその時、電球のきれたのを取換へてゐたが、切れた電球をつかんで梯子の上から、奴をにらみつけてゐた。
　――何故通行を止める必要があるのだ、よし通行を禁ずるにしても、もう一歩進めば通りぬけられる所までもわざわざ追ひこむ必要はない筈だ、もつと合理的な方法が俺の平凡な頭で考へてもありそうに思へる。まして彼は、高等工業出の新進氣鋭の技術家を以て自任してゐると、高言したではないか――
　新任以來、末稍神經を興奮せしめて、せめて少しなりとも保つてゐた、俺達の人間的自由（？）をも自己を資本家により高價に賣り込まんが爲めの自家の廣告材料に奪ひ取らんとする監督振りに培はれてゐた俺の、憤怒と反抗の焰は一時にもへ上つた。そして奴が火消壺の樣な顔に微笑を浮べて、入口の方へ行くべく梯子の下を通りかゝつた時、手にした電球を力一ぱいなげつけてやつた。

【兵庫縣　秋葉一夫】

番犬征伐

全無産者の味方であり唯一の言論機關である『進め』は、創刊以來暴逆極りなき官憲の壓迫を受けながら日に月に發展し今、五周年紀念號を出す事の如何に喜ばしき事よ。
　番犬の暴狀それは今さら事新しく云ふまでもないが、茨城縣久慈郡賀美村に最近起つた一つの重大問題がある。それは去る一月下旬のある日東部電燈株式會社茨城營業所の集金人が貳百何圓とかを遺失したので、蒼くなり、賀美村巡査駐在所に屆け出でたのが事の起りである。之れよりさき同所に土工事をしてゐる某と云ふ土工が、右の金を見付たのでその金を持つ

て來た。後から集金屋が來て金を拾はなかつたであらうかと聞いたので正直な土工は俺が拾つてあるから返へさうと云つて返へしてゐる處へ、平野と云ふ巡査が來て無言のまゝ土工をなぐり付けた上、貴樣は本當にずるい奴であると、尚も十幾つかをなぐりつけ東電の集金員が金を拾つてもらつた禮金を出そうとするや、平野はその金を自分が奪ひ取り此んな奴に金等やる必要がないと散々惡口をたゝいて右の金を持つて立ち去つたと云ふので同地方では今や[illegible]平野に對し、[illegible]りをたさんと地方は極度に憤慨してゐる。

全國の兄弟よ我達は今この暴逆極りなき[illegible]を葬る可く目下運動を開始しました。そしてそれを……、……りとすべく、近く……りの大演說會を開く筈である。その時は、本部から誰かに來ていたゞく考であります。終りに望み先輩諸氏並に同志諸君の健康を祈り愈々增々番犬征伐の爲めに戰ふことを諸君に告ぐ。

【茨城縣　川田紅葉】

此の慘虐

俺の村（太田古屋に）貪慾なる小地主がある。

第一に[illegible]にあげる奴は松影の石崎某である、此奴なか〳〵横着の奴だ。俺達の村で一番田地の惡い處の「山二分」は一段一石一斗も强制的に取るのである（一段の取上高は二石乃至は一石八斗である）近年は耕地整理の爲に凸凹があり何十となく無駄な勞働が費されてゐるのである。（去年は近年にない不作であつた）少し年貢を減してくれとでも願ふものなら、田は内で作るからと云つて、忽ちに取上るのだ。現在五段も草で荒して其の日暮しの小作人を地獄の底に蹴落してゐるのだ。自分は（石崎）田植などに運動かた〴〵腰に酒をさげて來るのである。苗の植た跡などはまるで三尺、四尺ぐらい間があるのだ。夏になると草で茫々してゐる。秋になると稻も刈らずに其のまゝ來年の春まで御丁寧に人間の命の親玉を田の中に步かさせて置くのである。現在奴ら（石崎）の爲に××村では一家破滅した者さへあるのだ、どれ程奴の爲に苦しめられてゐるか言葉に現はす事は出來ないのである。

次に紹介するのは町會議員であり村にも一、二を爭ふ水戶平七と云ふ、非人道の奴である。

俺達の村より三丁程に福島潟と云ふ湖水がある。村の貧乏人は此の湖水より魚を取て生活をしてるのである。

福島潟り魚獲の最も「日拔」なる上古居と云ふ所は今迄葛塚の山二と云ふブルの所有であつたのであるが贅澤三昧の末破產となり、やがて俺達の命の綱である上古居も賣り飛ばして了ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

になつたのである。これより先横暴非道なる水戸平七は山二と提携して上古居を俺達魚夫に何等の挨拶もせずに買取したのである。今迄俺達魚夫の生命の綱であつた。然るに水戸平七は、此の上古居を（道徑半里）金綱でカクイ魚夫の命の綱を切斷したのである、魚夫一同は中村氏を代表として上古居を買つてくれと願つたのであるが、然るに非道なる水戸は俺の金で買た物を俺が自由にするのに何んの不思議があるかと、一も二もなく願をはねつけたのである。嗚呼此の横暴は、俺達は貧乏人であるばかりに彼に強く反抗する事は出來なかつたのである。

又、鬼の水戸平七は元貴族院議員、であつた越後一の地主越島の「名代」をしてゐるのである。俺達小作人よりも搾り取つた年貢米を横領して今では何十萬の（不動產も入れて）財產をつくつたと人に噂されてゐるのである。木崎村小作爭議の時などは一せいに起つて彼水戸の横暴を叫んだのである。

呪ひは、やがて反逆となりて爆發する。全國の無產者よ此の非人道横暴なる石崎、水戸を葬れ！

【新潟縣　島野國造】

小百姓に與ふ

全越中の農民──小作農よ！諸君は何故、商人と俗吏との爲にしぼられるに過ぎぬ米穀檢査制度の不合理を改廢しないのか、實際運動の緒はいくらでもあるではないか。

意氣地なしの百姓よ！君たちは何故電氣會社の横暴に對抗する事が、出來ないのか、攻擊の材料は山はどあるではないか。

礪波の百姓よ！小作人諸君よ！新川の氷見の御百姓よ、何故農民組合を作つて健實なる自治の社會を作らないのだ。その爲の知識を備へることの、讀書を何故恐れてゐるのだ。

お前達はいつまでも下げつけた安い頭を、振り廻して、日稼人の群へ割り込む事を廢めないのだ。生活に難があるからか、お前達は、芝居を見たり、キネマをのぞいたりする同胞の×××××××××××××。呪はれたる農民よお百姓よ。愚なる者は未組織地方のお百姓達である。

【越中　桝本國治】

地主を煮て食へ

資本家のお伴自動車が尻から臭い煙を吐いて走り廻る、或る日、勞働者の子供が轢き殺された。そんな事は何うでもいゝ、彼は妾のところへ行けばいゝ、のである。やれ夜會だトツカピンだと遊び廻つた暇には、落ち込む樣なソファーに座つて葉卷を吹かし乍らなほこの上に何んな具合ひに儲けやらうかと考へる。

その反面には工場を追ひ出されて妻や子供をかゝへあしたは何うして胃の腑を充たさうかと思ひ惱んでゐる失業勞働者の悲慘な家族があるのである。

農村でもさうである。堅實なる自作農は日に々々減んで耕地は凡て少數地主の手に集まり多くの農民は小作民となつてゐるのである

つまり今日の社會には人を搾つて遊んでゐる有産階級と働らいても〳〵食ふに困る樣な無産者階級の二つの分れがある。

若しも我々が眞面目に人生の事を考へてみるならば、そんな有樣が目につく筈であるそしてこういふことは確に社會の不正であることに氣が付く筈である。而してこの不正の根本を取り去つて住み心地のいゝ理想の社會を建設しやうとする熱情に燃ゆる筈である。時世の成り行きだ仕方がないなどと意氣地のない諦めをしてはならない。必ず成し得るのである、我等プロレタリアの大衆の團結の力がそれを成し得るのである。

我等は國家の公民であつて決して資本家の飼犬でもなければ地主の飼牛でもないのである。人は皆ブルでなければプロである。味方でなければ敵である。我等の敵は資本家である地主である、彼等は我等の生きてゆくことをさへじゆうりんせんとしてゐる、我等は當然與へられてゐる權利を主張し自由を擁護して我等を苦しむる者にはむかはねばならぬ、今既にその時である、戰ひの時である。

【大分縣　伊藤己人】

鐵道從業員の活躍

無産階級戰鬪士諸君よ。聊か潛越の至りでありますが、此の貴重なる進めの紙面を拜借して國有鐵道從業員中にも有閑階級から虐使せられつゝ大いなる希望のもとに活躍せんとしつゝある有爲なる青年の有る事を御知らせします。

吾等の兄弟より鐵道從業員は眠れる豚だ目覺めざる無産者だと談じられてゐるのだ。如何にも、的中して居るけれども官吏と云ふ二字が深く腦中に浸み込んでゐる、現場の所長の横暴なる壓迫の爲に今日迄忍從不拔の精神にて轗軻困憊として過ごして來たのです、只一言たりともプロとかブルとか主義思想等を使つたならば、忽にして赤化してゐるとか不良分子とかに見られ此はなかなか都會へ二度出ることの出來ない破目に落ち其の上物質的に精神的に迫害を加へられ幽閉同樣にされて轉勤を命ぜられてしまふのです。そして、最後には鐵道を退かねばならない樣に仕出かされてしまふのです。然し涙を飲んで隱忍してゐる時代は早や過ぎた。遲れ走せ乍らにも當鐵局官内に全國鐵道從業員組合が組織されました。

【京都　岡地雅孝】

隨筆

忘れられた日記

吉田金重

大正八年八月三十一日。岡山市の西口、三門の下宿を出た私は、妙傳寺裏の墓地を通り抜け、萬成坂に出た。焦げつくやうな暑熱、土埃の深い道路——しかし、私はなるべく、忘れられた過去の印象を辿るかのやう、人通りの少い畔路なぞ傳つた。私は咽喉が渇いた、私は西楢津の中程に、井戸のあることを思ひ浮かべた。果たして、私はその前に來た。私は向ふから來る、水田子に釣瓶を提げた女を待つた。女は親切にも、水を汲み上げてくれた。私は冷い泉を、ガブガブ腹一ぱい呑んだ。私は心から禮をいつた。

道路傍に、見馴れない家並がつゞく。まつたく、私がこゝを通るのは五年振りだもの。五年振りに歸郷——ではない、郷里の近くに友達を頼つて來た私は、今日はじめて郷里——ではない生家を訪れ、墓參する途すがらだ。家並を離れると、兩側は稲田だ。風のあたらない、日あたりの好い稲田を所有する百姓は幸福だ。

私は生家のある村——芳賀の入口まで來ると、にわかに臆せられた。なぜ？こんな身窄らしい身裝りで、しかも土産物一つもたないで。故郷に錦——なぞ疾くに失せた私の頭の中にも、傳統的な何物かを殘してゐる、いや、本能的なプライドともいふべきか？私はさうした煩ひを避けるため、友達を頼り、友達の兄が經營する工場に働きながら、機會を待つてゐたのだ。その機會も朝六時から夕の六時まで、そして五十錢の日給と十錢の手當とでは——いや、兄の選擧法違反に連累した？友達の姿をくらました今、永久に望むべくもなかつたのだ。窮迫の末、いつ故郷の近くをさへ去らなければならない私はせめ、今のうちに墓參して置かなければ、またと再び？なぞ、强いて志したのだ。

豊穣な野は、緑なす山に押しつゝまれてゐる。以前に田圃があつたところには、新しい家が建つて居り、以前に家のあつたところは、畑になつてゐる。それとゝもに、見る人ごとの顔も變つてゐる。私は生家へ辿り着く前に、私の父や次兄を葬

ってある、田地の墓地に頻りと眼をやる。そこにはいつの間にか、見馴れない新しい墓碑が並んでゐる。右は父と異母の墓碑に違ひないが、それより一層新しさうな、白く大きな墓碑は誰のだらう？それ共嫂の墓碑か？それにしてももう一個の墓碑は？――しかし、私はそれを深く穿鑿する前に、その前あたりの田圃の畔を、鍬を擔いで彷徨する百姓を見た。紺の襯衣に股引といつたやうな身裝りといひ、麥藁帽の冠り工合といひ、すべてがまがふ方ない長兄そつくりだ。いや長兄に違ひない、なぜなら長兄そつくりな百姓の彷徨する田圃には、里芋を堀つてゐる私の姿があるもの。それかあらぬか、長兄そつくりな百姓は、いつしか私の方へチラ〳〵眼をそゝぎだしたらしい。もつとも人通りのない田舍路に、見馴れない姿が現れると人眼を曳くものではあるが。だが、私は人眼にかゝることが怖ろしい、いや、色んな憶測をもつて見られるといふことが怖ろしいのだ。

私、這入つた、それは大きな藁屋の棟に煙り出しをつけ、大瓦を伏せた懐しい家だ。入口脇の牛屋の中には、赤い大きな牛が一匹、輪のやうに横はつてねりを嚙んでゐる。

「今日は……」と、私は鳥打帽子をぬぎながらしよんぼり佇んだ。そこへ訝しさうに出て來たのは二十一二にもなる、赭ら顔の大きな女だ。姪だ、叔父である私が、あちらこちらと放浪生活をつゞけてゐる間に、二人の子供の母親となつてゐる姪は、著しく變つてゐるではないか。

「まア、久し振りぢやのう、好うお出でんさつた、まあお上んなさい。」

「ちよつと、墓參りをして來やうか……」

私は閼伽を入れる土瓶と、線香をといつたが、姪はとにかく座敷へ上れと強いた。そこへ先刻、田の畔をうろ〳〵してゐた長兄が、それと知つてかにこ〳〵歸つて來た。私が子供の頃、炒つたそら豆を一升もカリ〳〵喰つたといふ、さすが丈夫な長兄の前歯は二三枚も缺けて、ものいふ聲さへもれるやうだ。

中の間には三四歳にもなる子供が、腕や足に繃帶されながら顰め面で、ぢつと私の方を見てゐたが、いつの程にかしくしく泣き出した。私は子供の土産物を買つて來なかつたことを、見得や誇りではなく痛切に感じた。

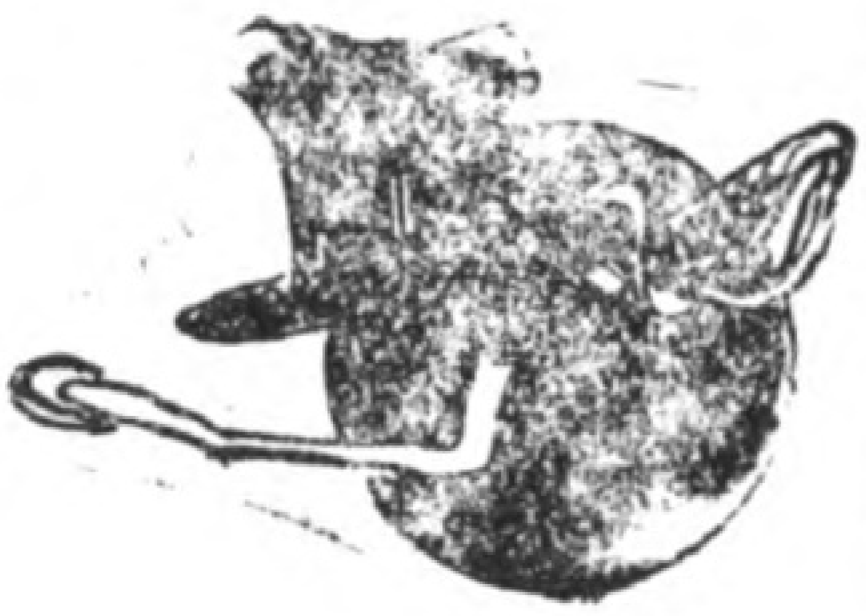
「この子は知らん人が來ると、ぢき自分の腫物をつぶしに來るやうに思ふて怖れるの……」と姪はいつた。この時私の頭には、小姪に出來た腫物の膿を長兄に押し絞られながら、キヤー〳〵と泣き叫びつゝあつた、姪の幼時が浮かんだ。長兄は公土場の前に腰を下しながら、

「ごうぢやつた、東京の方へ行つても思はしいこともなからうが……」と、私は五年間に踏んで來た經歴や、現在の生活な

ぞを訊いた。しかし、私はみづから進んで、それに答へるだけの勇氣がなかつた。さうだ過去の國家的日蓮主義者が、××的△△主義者になるまでの經歷を、そしてそれによる現在の生活を、自分の田畑を自分で耕して食ひ、そしてそれを中心にすべてを考へる單純な生活者に故更說明して何にならう？

私は墓參りした。墓地は一たいに靜寂だ。苔蒸した墓碑、雨晒しになつた墓碑――赤や紫の斑點を帶びた幾つもの自然石は無興味に並んでゐる。觀月院妙諦信女、本覺院諦定居士と列んだ新しい墓碑は死んだ嫂と、現在の長兄の法名だ。その隣りにはやゝ黑づんだ、常照院落悅信士と刻んだ父の墓碑がある。それからやゝ距たつた彼方に、平たい自然石をドッカリ据へ、その上にやゝ小さい墓碑形の自然石を載せ、顯孝院正道日心信士と書いた白木の位牌をもたせかけたのは、約三ケ月ばかり前に流行感冒にかゝり、心臟痲痺を起して死んだ次兄の墓標だ。私の今日の墓參も實は、この次兄の生前の悲しみ、懷しい追憶にほかならないのだ。少年時代に家出し、生家の財產なぞには眼もくれず、一石工として働きに、働き通して來た次兄は、長兄と嫂に虐待された父母、十二歳にして生家を放逐された私をかばひ、如何に眼をかけてくれたことであらう。自分の身につながる老幼をいたはる次兄は同時に、同業者の間にはなくてはならぬ人間であつたとか。墓地の背後の小松林も、いつしかすく／＼と伸び上つてゐる。茅とか柴朶なぞの雜草は、樹木の間から洩れる日光と、そよ／＼吹く微風とになまめかしい彩りを見せる。前の谷川にはダブ／＼、シャー／＼と絶え間ない水の音がつゞく。蟬の斷末魔の聲はミーン／＼、シヤン／＼と懶さを加へ

墓參りから歸つて來た私に中の間に上り、姪の切つてくれた西瓜を旨く食つた。そこに姪の婿も歸つて來て挨拶をした。隣りのお松婆さんが遊びに來た。お松婆さんはその甥で、かねて臺灣巡査をしてゐた男が、久し振りにこちらへ歸り、新妻を迎へて再び赴任するや、ひよつくり死んだことを話した。お松婆さんはその甥と、私の次兄とを體質の上から較べながら、いづれも頑健らしいのにもかゝはらず、どうして若い者がかうも死ぬるのか？ひとり訝しがつた。妻が死んでから、すつかり氣が弱くなり、信仰の道さへ辿りだした長兄は、佛教經典の中の文句を引き出して唯心的、乃至は神祕的に解釋したが、それを信じるべく私はあまりひねくれ過ぎてゐた。まつたく長兄は日蓮主義者として、今は一村ばかりではなく、遠くの人達にまで知れ渡つてゐたから、そして尊敬さへされてゐたから。私は長兄の顏を冷やかに眺めながら、皮肉ともつかずに、「田舍の百姓はのん氣ですね。」といつた。「何がのん氣なものかの……」遮つたのは、お松婆さんだ。まつたくお松婆さんの家は、永い間の小作農であつたから。私は、私とあまり年が違ふべく思はれない姪の婿に、それとなく色んな問題を提出したが、通じるべくも思はれなかつた。私が亡兄の家に嫂や、母を訪ふべく生家を出たのは、その日も夕方である。



失業者の熟睡

吉田婦美

救世主が現れた、そして聲を限りに叫んだ。「生活難、過激思想、國際問題等々と、國の内外を問はず矛盾反對を以て滿たされて居るから、是等の矛盾反對を轉化し、反つて眞善美を發生さす資料とし、更に是等を以つて眞善美それ自身としなければならぬ。それには徒らに眼前の手近い事柄のみに拘泥沒頭しては居られない。常に一切の事項の背後に作りて是等を融合調和せしめて、是等に其の處を與へて是等を善美化するところの建國の大精神を反省して之を顯揚せなければならぬ。此の建國の大精神は國の肇りのときより彌々發揚せられつゝありしが、近くは明治天皇御踐祚の始めに臣民を率ひられて、天地神明に誓はせ給ひし、彼の五ケ條の御誓文に明瞭に表はれてゐる。我々は此の五ケ條の御誓文を奉誦することによつて壯麗なる氣分にうたれ、感奮措く能はざるものがある。

我々は此の御誓文を拜誦し、感銘することによつてのみ此の矛盾反對の社會から解放せられる。此の御誓文を奉錄した柱でも全國に建設して、そして國民追進の根本精神を實修しやう、斯くする事によつて生活難、過激思想、國際問題、其他何々等々の一切の矛盾反對は解決する。此の柱を建てる事によつて腹の空いて居るものも腹が滿たされる。社會主義者も、無政府主義者も消へてなくなる、寒い者も暖くなる、病んで居る者も忽ちにして癒ゆるであらう。此の柱を建てやう、此の柱を建てる事は、實に救世の只一つの道だ。」

斯ふ云つて、此の柱を東京灣建設しやうとて國民警鐘を亂打した、理事官と云ふ偉い役人が神奈川縣と云所にあつた。ところがこれに對する一般世人の態度はごんなであつたらうか、其は實に此の救世主に對しては氣の毒な程冷淡なものであつた。

「なんだ、御祭文柱を建てる、そして何にするのだ、何！生活問題、過激思想、國際問題を解決する、フン、それは御苦労様なことだ。だが試みに石地藏を以つて、威嚇せんとして見給へ、それはまだ夜の明けないうちに於てのみ有効だよ。彼の御祭文は明治初年の當時のやうに、其の正體が未だ濃霧に包まれて居た時代には御利益は靈驗であつたかも知れないが、金と兵力に困り切つた時の明治政府の××××であつたことを知つて居る今日の大衆は……イヤ夜が明けて仕舞つては石地藏樣では駄目だよ」と云ふやうな鹽梅で救世主の此の世界的大計畫には一顧だも與へるものがなかつた。

ところが、それから約二年程經つて突如江洲のある町に、此の結構な柱が建つ事になつた、それは日本の役人の内でも一番溫厚な、民衆に最も親切な警察官と云ふ人達によつて爲されたのであつた。彼の救世主は此の江洲と云ふ國でのサーベルの一番親方に其の時は成つて居たのである。そうして此の柱に寄進した民衆の内率先して浮財を寄附したのは、藝妓、娼妓、貸座敷業者、古物商、屑物商、人力車夫、料理屋、宿屋、飲食店、理髮營業者、女髮結、賭博犯起訴猶豫者、新規營業許可願出人、各種興行營業者等であつて、是等の人達は平素特に警察官には親切に御世話になつて居る關係からであつたそうだ。

斯くして此の御柱と云ふ救世の權化は江洲の琵琶湖の多景島と云ふ所に建設せられたのである。そし愈々其の御柱の除幕式の當日となつた。此の御柱の建設地の多景島が其の地先であると云ふ關係から、舊徳川幕府の大老樣の三十五萬石の城下では、御柱の除幕式を祝福する爲め大騒ぎである。それで向ふ十日間も煙火を打ち揚げて、祝ふのだとかで全町に渉つて滿艦飾を施して踊れ、舞へ、飲めや、唄へと、宛然全町民が狂氣したかと疑はれる程の亂痴氣騒ぎである。

ところが、この歡樂境を他所にして今しも犬上郡の簡易保險係の窓口で、凝つと俯向て、係員から懇ろに何か諭されてる色蒼褪めた男がある、係員は尚詳しく説明す可く語り續ける。

「……で、貴方も將來の爲めに折角御加入なさつたので、然かも四十ケ月から掛金をお拂込みになつたのでありますし、今御解約なさつても還附金は御拂込み金の半額にも當りませぬ、政府もこれは何も金儲けにやつて居るのではなく、多くは農村振興等に此の金を當てますので、第一貴方も將來の御計畫の爲めになるのでありますから折角御繼續なさる事をお奬め致します」

今迄默つて聞いて居た彼の男は、其の一の字に結んで居た赤黑い脣を神經的に震はせて、

「よく分つて居ります、簡易保險に加入する當初そうゆうお話を承りました、然し私は今將來どころか今日を如何に過ごす可きかゞ問題になつて居ります、私には今は明日がないのです、況んや地主の地價保全や、自作農創設の爲めの利益なんか考へて居られませぬ」。

彼は遂に保險解約書に署名捺印して係員の居る窓口に放り込んだ、係員は、これだけ言つて聞かせても分らん奴だ、とぶ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

つく〲言ひながら受付けのスタムプをポン〱と押捺するときには、彼の姿は何處にも見へなかつた。

それから一週間ほど過ぎて彼の茅屋に一通の郵便……それは切手の貼つてない『通信事務』としてあるもの……が配達せられた彼はこれを披いて見て、アタフタと何處やらへ出掛て行つた、彼が出掛けてから三、四時間經つと彼の家に、米とか、炭とか云ふものが若干宛配達せられた、其の內彼は夕方燈の點く頃歸つて來た。そして妹のたつ子に何やら手渡しすると、たつ子は何處かへ使に行つた、軈てたつ子は、『家賃之通』と云ふものを持つて歸つて來た。彼は二人の妹と久方振りで風呂に行つた、湯から戻つた三人の兄妹は直ぐに食卓に着いた。一番末の妹のゆみ子が「兄さん明日もお天氣のやうですね、そら彼の御柱のお祝の煙火が揚りました」

「アハ……俺達にも明日が話せるときがあるのだね、然し俺はあの煙火が揚る度びに折角膨れた腹が減るやうな氣がするよ」と云つて又大きな口を開いてアハ……と蒼白い盥のやうな相形を崩して笑つた、然かし彼の相形の崩れた笑顏も、直ぐ舊との蒼白い顏に戻つた、そして以前とは一層暗い顏になつた。

彼等兄妹三人はそれから暫くたつて寢床に這入つた、寢床に這入つてから色々と過ぎ越し方や、將來を語り合つた。一昨年の暮れに鯉の刺身を食べ度いと言ひながら、遂々食ふ事が貧乏である爲めに出來ないで死んだ母の事や、十八年此方行く方知れずの父親の事や、遠い亞米利加に出稼ぎに行つた弟の事等を夜の更けるも知らずに話し合つた。しばらく話が途切れたので、彼は枕元のパンフレットを讀み始めた、向側の活動の演題觸れに歩く東西屋の柱時計が一時を打つた、其の時は彼の妹等は既に寢入つたものか、輕い、低い鼾で夜着の襟を靜かに上下させてゐた。彼はパンフレットを讀みさして妹等の寢入つたのを凝つと見つめてゐた、そして彼はこんな事を考へた。

『滿腹と熟睡』そうして彼の頰には何故か熱い涙がつたはつてゐた。それからもの〻二時間もたつたと思ふ頃、何處かの寺の鐘がなつた、そして間なしに牛乳屋らしい車が通り過ぎた、その時彼の枕下でパタリと云ふ音がした、それは彼が讀んで居た『コンミユンマニフエスト』とか云ふパンフレットが、彼の手から離れて疊の上に落ちた音であつた。

彼にしてもやはり熟睡に必要なものは滿腹であつた。

「をはり」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戯曲

断末魔（一幕）

行村義雄

人——

男A
男B
男C

舞臺——

闇い坑道に夥しい岩石が前後に崩壊してゐる。僅かに舞臺中央部に、數人を容れ得べき餘裕を保つてゐる。

天井から絶へず水が落ちてゐる。

男AとB、破れたシャツ一枚で、鶴嘴を持つたまゝ、左側の岩石の前へへたばつてゐる。男Cは、右側の石に力なくもたれてゐる。

彼等は、地下數百尺の闇黒の中に、百餘時間食をたゝれ、既に生命を奪はれんとしてゐる。肉はおち、皮は破れ、蒼白な顔面には絶望的な影が流れてゐる。だが、彼等は諦め切れないのだ。生への執着の哀しいあせり。

彼等は既に疲れ切つてゐる。彼等には、もうこれ以上自分で坑道を切りひらいて出て行く努力は望めなくなつてゐる。

Cの男の足元には、數個の男女の死體が重なつてゐる。

Cの男は堪えられない饑飢のために、ゴム足袋をかぢり出す。

その時、どこかで、大きい地鳴がする。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Aの男。(驚ろいて立ち上る)アーッ。水！どこかゞ破れたのだ！

Bの男。(鶴嘴を持ってあせり氣味で石を起しかける)此處だつていつ落ちてくるか判らないのだ！　俺達は死ぬる人だ！　へたばるんだ！

Cの男。(二人の男の方へ行かうとして立ち上るが、すぐ倒れる)　俺達は百時間もあせつたんだ！　だが、俺達はもう生きる望みを絕たれて了つた。

Aの男。(恐怖に戰き乍ら天井を眺める)　天井から落ちる水がだん〳〵ふえて來た。もう幾時間のうちに俺達はへたばるんだ。

Cの男。飢えてる事は死よりも苦しいのだ。ゴム足袋が腹へ入つたつてどうなるのだ！

Aの男。俺達はとう〳〵最後までパンをうばわれ通しにされたんだ！

Bの男。(段々、鶴嘴を持つ手が疲れてくる)　あゝ、俺になぜこれ以上の力が出てくれないのか！　俺だつて人間だ！　生きたいのだ！

Aの男。(鶴嘴を持ってBに力を貸そうとするあせつて倒れかゝる)　俺達には生きる權利があるんだ！　俺達はもぐらもち程のねうちもないと思つてゐやがるのか？　社長は俺達を見殺しにするのか？

Bの男。いまあいつが俺達を救ふのは義務ぢやないか？　社長は俺達を殺したんだ？　生き埋めにしてしまやがつたんだ！

Cの男。(立ち上ろうとしてあせるが、何度でも倒れる。やつきとなるが、彼にはすでに二人の男の側に行く氣力がないのだ)あいつは俺達を欺しやがつたんだ！　こんな破れた坑道へ追いこんで殺してしまふんだ！

Aの男。畜生！　俺達がストライキをやつたつて、あいつに殺される理窟はないのだ！　俺は人間だ！　同じい人間だ！　俺達にだつて生きる權利があるんだ！　俺達は人間じやないか！　どこに俺達を殺す權利があるのだ！

Bの男。俺達を救え！　俺達は死にかゝつてるんだ！　人間だ！　生きたいのだ！　生きたいのだ！

Cの男。俺達は、あいつに不當な要求はしないのだ！　俺達は、俺達の生きるための？　パンを要求したのだ！　あたりまえだ！　俺達は殺される理窟はないのだ！

Aの男。(遂ひにへたばりこむ)俺達をなぜ救はないのだ！　俺達のパンをどれ丈搾りとつたのだ！　俺達を救ひ出してくれる事は義務じやないか！　俺達はなぜ殺されるんだ。

Bの男。俺達を救え！　俺達は飢えてるんだ精力はからつぼになつたんだ！　俺はもう一度太陽が見たい！

――突然、右側の奥の一部(空洞の五分の一)崩壞する。Cの男、危ふく逃れる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Cの男。アーッ。崩れた！ 死ぬるんだ！
Bの男。……。（恐怖のために言葉が出ない）
Aの男。駄目だ。俺達はとう〱やられたんだ！
Cの男。（やつと、腹這ひで左手へ行く）諦めだ！ 情けない！ 俺達は一生涯、不幸な目に遭ふために生きて來たんだ！
Aの男。（或る落ちつきを持つて）もう俺達は再び人間として生れる機會を失ふのだ。
Bの男。（彼丈は諦め切れない様に、亦、鶴嘴を揮る。然し、大きい岩石は、彼の疲れた腕に何ともこたえない彼は苛あせる）生きたい！生きたい！もう一度太陽を見たい！
Cの男。（次第に落ちついて）駄目だもうすべての望みをうばわれたんだ！

――更に大きく崩壊する。今までの凡そ、半分位の空洞を殘す。死體は殆んど埋められてしまふ。

Bの男。アーッ！また破れた！俺達は逃け場を奪われて了つた。もう最後なのか？情けない。情けない。何と言ふ俺達は、こんな不幸な目に遭ふんだろう………。（呆然と天井を眺める）
Aの男。あと、五分だ！
Cの男。眼をつぶれ！俺達はめちや〱になるんだ！
Bの男。生きたい！生きたい！せめて、一時間丈でも。俺は生きてゐたい！

――更に天井が落ちる。殘つた空洞の半分を埋めるAとCの男、互に抱き合ふ。Bの男は、岩へしがみつく。そして恐怖に身震ひする。

Bの男。アツ……天井が動く……アツ……アツ……駄目だ！落ちるんだ！
Cの男。（なかば狂的に）地球が陥落するんだ……世界はめちやくちやになるんだ！あいつらの最後だ！
Aの男。（両手をさしのばして狂ひ出す）そうだ！地球はひつくりかえつたんだ！ビルデイングも……工場も……機關車も。大都會は燒け出したんだ！占領だ！燒け！占領だ！
Cの男。地球は戰爭だ！正義の戰ひだ！倒せ！倒せ！倒せ！俺達はくたばつても、やがて眞上は、理想社會の新領土だ！戰え！倒せ！正義の戰爭だ！
Aの男。占領しろ！ 俺達の世界を占領しろ！

――靜に、幕、おりる。――

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

戯曲

ストライキ（四幕九場）

下山利基智

時。大正十四年秋。

場所。東北の或る小さな村に起りしストライキ。

登場人物。製絲工場重役。職工（男女工）。重役の娘お妙。警察署長。巡査。小使。其他。

第一幕　第一場

舞臺――村の警察署の巡査溜場、正面に小さな机、中央に大きな木製の火鉢、周圍の壁に日本地圖、衛生に關する統計ポスター數種を掲げてあり（すこぶる殺風景なるもの）。

巡査十人計りどや〱と登場す。

巡査一「いや――寒いね……」

ポケットに兩手をつゝこみ乍ら同僚をかへり見る。

巡査二「ウム――（呻くが如く）全く寒いね。

同　三「やッ？火がない！火鉢に。

同　四「えッ――未だ火も――之の寒いのに。

同　五「小使は――小使はどうしたんだッ――小使は。

同　六「小使ッ――（堪りかねた樣に大きな聲を立てる）

返事なし、一同寒さに振へ乍ら室中を歩き廻る漸くして遠く靴の音す。

同　二「署長ぢやないか。

同　一「そうかも知れんね、(首をかしげ乍ら)。

靴の音次第に近づき入口の近くで「えへん」とせき拂ひをし乍ら片手に火鉢をかゝへて小使登場す。

小　使「(一同を見廻し乍ら)お早ふ御座います。

ペコリと頭を下げて火を移す。

巡査一「――(案外な面持にて)署長は未だかね――

小　使「署長さん？未だお出でになりませんよ(耳の近くに行き首を左右に見廻し乍ら)昨晩ね――十一時頃あの製絲會社の浦杉社長さんが急に署長さんに面會したいつてねそれで何か話合つて十二時半頃歸へられたんですもの――署長さんもお眠いでせうや」

小使室を出んとす。

巡査一「爺さん――閣下と社長の話――ちよつとも聞かなかつたかえ。

小　使(ためらい乍ら)ちつとも知りませんでしたよ。

小使退場す。室内一寸静かになる一同火鉢の周圍に腰を掛けて暖を取る。

巡査二「(くつたく相な顔をして)何だらうね、今頃殊に夜おそく會社の重役が訪ねて來るなんて――おかしいね。

同　三「――盗難でもあつたんだらうか。

同　四「(考へ込み)――さればさ――それとも何か別な問題が起きたのぢやないかしら。

同　六「――あッ　それで思ひ付いたよ、――ね、此の間さ、僕の二階に居るあの工場の火夫君――今度の會計が新くなつてから賃銀の配當が不公平だつて話してゐたつけ。

同　七「ウム――僕もそう云へば氣に當るよ――實はね内のお絹がさ――此の間四五日休んだんだよ――そして今も休んで居るんだね僕が何故休むかつて聞いても返事が要領を得ないんだよ――

同　八「(一同を見比べ乍ら)ウム――ではあの――ストライキ？(一同緊張した面持にて異口同音に「ストライキ？」)

同　九「只事ぢやないね。

同　十「すると――昨晩の重役の來訪はストライキの警戒かね。(今まで默念として考へ込んで居つた智識の少しある巡査やをら聞き直つて)

智識のある巡査「どうだね――諸君！我々も少し彼等のストライキに付いて研究して見たら――(微笑をもらし乍ら)随分意外な事態を

發見するかも知らんぜ——

巡査一「面白い事に出會すかも知れんね。

同　二「一體ストライキとは何時頃の世紀より發したんだらうね。

　　智識のある巡査得意な顏をし語り出す。

「つまり僕が色々の雜誌や諸新聞等に依つて見るに彼等の行ふストライキとは資本家に對する挑戰的正統防衞なんだね、それが彼等には唯一の武器なんだね、又之れに反して資本家より考へれば之のストライキは毒刃に當るんだね資本家の最も恐れて居るのは之のストライキの樣だね、——それがパンの糧に消え失せるのだ（彼の顏は異樣に振へ眼は太陽をも射らんばかりにかゞやく）榮譽——そんなものは不必要である——彼等多くの職工達には病人も居よう——妻子もあらう——彼等は常に〳〵眞理に依つて居るのだ而して內的には夕のパンに追はれて居るのだ——正義は必ず彼等に味方するであらう但し天下の金は何時も彼等のサイフの中に止まつて居る事は出來ないのだ彼等の正義を求め乍ら貧乏して居るのは——諸君！氣の毒な樣だ——悲慘の極みだ（一同を見廻し）我々が少くとも彼等を慰めてやる餘容が出來なからうか？それは出來ない我々は政府の御飯を載いて居るものである然し乍ら我々は假へ政府の命令署長の命令とは云へども正義に反逆の旗をひるがえす事は出來ない我々が官服を付け彼の街頭に立ちて公衆の前に民衆保護と云ふ看板——美名の下に正義を踏みにじり眞理の裏の步道を步まんとする人々は今の中に巡査なんと云ふ職業は止して了へ——諸君よ！我々の月末に載く月給袋の中に幾ら入つて居る——十圓紙幣三枚と半（靜かに一同を見廻して太息吐く一同靜かに日をつむる漸くにして一巡査ヒゲを一すナデ乍ら）
「どうだらう——諸君我々も此の際彼等に同情して彼等の爲めに有ゆる犧牲を拂つて便宜を與へたら。

巡査二「我々もストライキを？

同　三「職も何もかも打捨てゝ——やらう〳〵。

　　やがて何か小さくサヽヤキ合つて一同うなづく。

　時計丁度其の時八時を打つ一同時計を見上げて「もう八時だ——」一同事務室の方へ退場す。

　　第一幕　一場の幕下りる。

一場了り　二場次號へ續く。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

編輯室より

□茲に五周年紀念號として、體裁を菊判に改め、本文百拾二頁の堂々たる雄姿を以って諸君に見ゆる。前號に於いて四六倍判六拾四頁にする旨を豫告して置いたが、此の紀念號を機會として菊判に改め、今度引續き此の體裁を執ることにした。定價は依然從來通りの拾錢である。元來、日本に於ける社會主義雜誌は、凡べて高價に失する。本誌は此の弊を破り而して、全無産階級誰一人として『進め』を讀まざる者なき樣計り、今後も此の定價を以って、諸君に提供し、日本に於ける無産階級唯一の而も最も戰闘的な無産階級の戰闘雜誌たらんことを期する。

□吾等は出所不明の黃金に依って雜誌を作ってゐるものではない。斯かる低廉な雜誌を讀者に提供し得るのは、實に吾社同人一同の懸命的努力の結果に外ならない。故に讀者諸君の中に、若し誌代の停滞してゐる者があったなれば、今後發送を停止する。社會運動に忠實なる諸君は發送を停止されない前に誌代を拂込まれたい。

□吾が社の編輯室の壁に左の一軸、端然として掲げられてある。曰く

辛酸亦入佳境
降る雪よ
やみかたなくば
積もれかし
我は踏たて
蹴立行かなん

□之れ田中正造翁六十七才の時に執筆せしものである。翁は明治年間の農民運動者にして自由民權の爲め、投獄さるゝ事數回、議會に、街頭、鑛毒問題を絶叫した。吾が社編輯同人一同日夜之れを眺めて鞭韃さるゝこと大なるものがある。翁の如く、名を忘れ、財を棄て身命を賭して戰ふ眞に之れ革命男兒の本領たり全日本の同志諸君！特に山雨至らんとするの時、須らく健闘せよ!!

社告

誌代十ヶ月分拂込讀者に、マルクス大寫眞を無代で贈呈する。

定價

一部	五部	拾部
拾錢	五拾錢	一圓
郵税 一錢	郵税 五錢	郵税 拾錢

無産階級戰闘雜誌　進め　毎月一回一日發行

□誌代は總て前金拂込の事
□成る可く振替で送金の事
□郵券代用必ず一割増の事
□住所姓名は明瞭に書く事
□支局は十日迄に拂込む事

東京市外大井町鈴ヶ森海岸一八九〇
發行所　進め社本部
振替東京六九八五三番

發行兼編輯印刷人　福田狂二

大阪市北區茶屋町四一
大阪營業所

廣告料

一等	二等	三等	四等
三百圓	二百圓	百五十圓	百圓

大賣捌

東京　東京堂　東海堂　北隆館
大東館　參文社　盛社

殖民地解放運動

月刊
新朝鮮

一部十錢
一年一圓

發行所
東京市麹町區麹町九ノ九
新朝鮮社
振替東京四五五九九番

農民自治會全國聯合機關誌

月刊
農民自治

一部五錢
送料二錢

發行所
東京市芝區三田四國町二ノ四
農民自治會全國聯合
振替東京七三四五一番

無産階級政治新聞

月刊
春秋新報

一部拾錢
一年一圓

發行所
愛知縣半田町荒古二〇五
春秋新報社
振替名古屋一二二二三番

島根縣小作聯合機關紙

月刊
島根大衆新聞

一部五錢
一年六拾錢

發行所
島根縣安來町
島根大衆新聞社
振替大阪七六九九二番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

慶大教授 向軍治先生著

定價 壹圓

前編

ローマ字書き 國を亡ぼす教育

著者は多年漢字使用に依る誤れる教育は國を亡ぼす因として之れが廢止を叫び、ローマ字の普及宣傳に努力せらる。漢字制限の聲天下に滿つ今日、何人と雖、讀まざるべからざる書である。

後篇―近刊

東京府下下澁谷一四五六

發行所 三土社

振替東京四八九五八番

社會問題パンフレットを備へよ！

マルクス 哲學の貧困

定價送料共 一部三十錢

マルクスの初期の名著「哲學の貧困」の要領よき抄譯。一讀その大要を知悉し得る便利なもの。

社會文献 何を讀むべきか

定價送料共 一部三十錢

社會問題に關する主要な日本の文献を網羅したもので、初心者にも學徒にも極めて必要なもの。

東京市麹町區麹町九ノ九

發行所 社會問題研究會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

京都市烏丸三條

日本活動寫眞株式會社關西支店

支店長　杜重直輔

大阪市內直營館

芦邊劇場（千日前）
映畫俱樂部（千日前）
玉造座（玉造）
老松座（北區老松町）
いろは座（新世界）

帝國キネマ演藝株式會社

大阪市南區塩町通四丁目

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大阪代表名物

有効金牌

大黒
粟おこし
福おこし
大黒

御贈答必適品

店主 小林林之助

婦人良薬
喜谷實母散

産前、産後、血の道、引風、冷込等に特効有

▲全國到る處に販賣す

本舖
東京京橋區中橋大鋸町
喜谷市郎右衛門
電話京橋五五番 五六番

商品券

受けて重寶！
贈るに便利！

東京、大阪、神戸の本支店各出張店共通

安く賣る店 買ひよき店

大阪 白木屋 堺筋

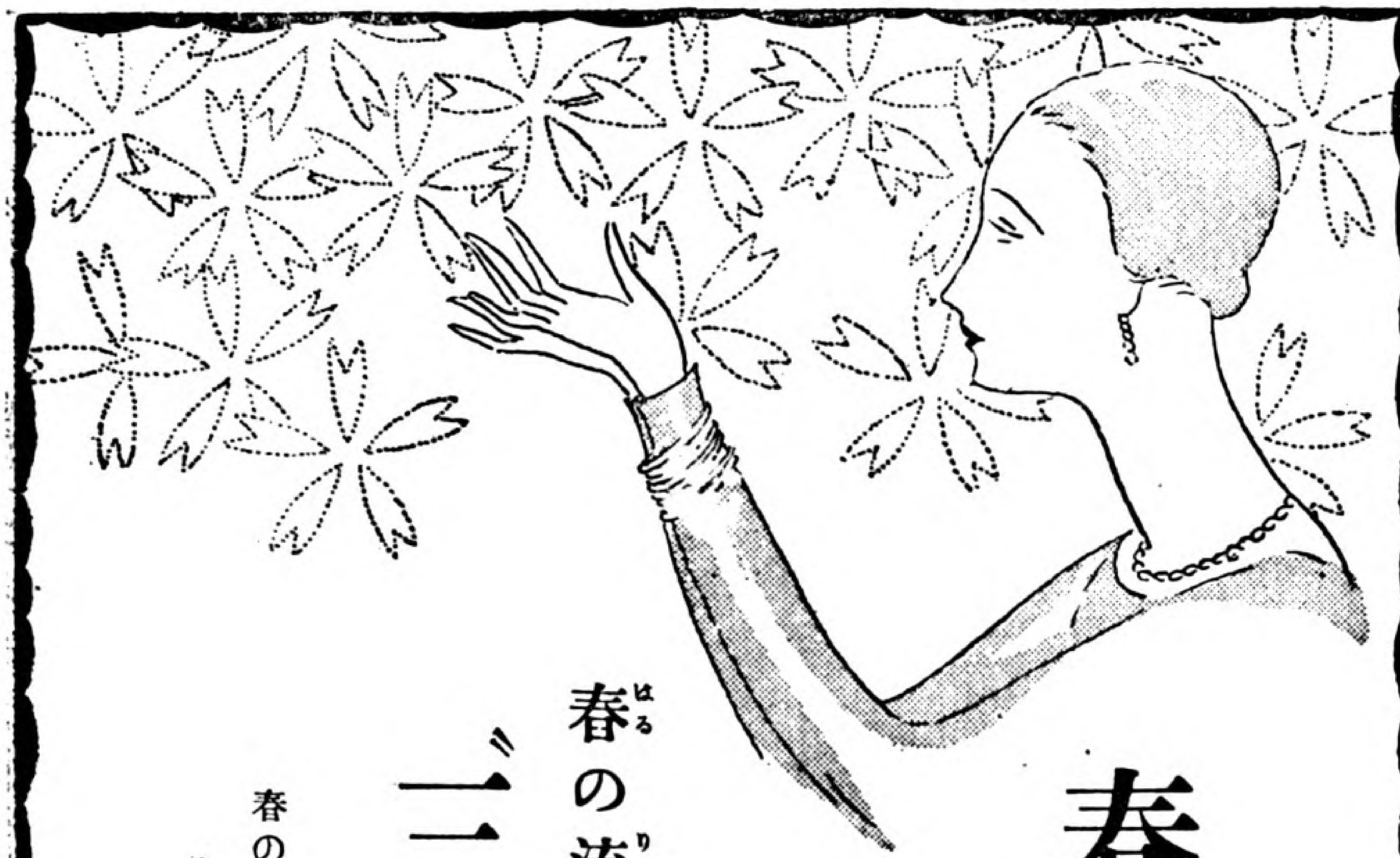
本店 東京日本橋 出張店 神戸湊川

金銀
白金

東京市神田區松田町

徳力本店

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



春！春！春！

麗らかな春
花咲く春
流行の春

春の流行品は
〝三越へ〟

春の巻に……
……氣持よいこの言葉

三越呉服店

◇大阪◇

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

精工舍製腕時計

SEIKO

歐米各種時計
裝身具ヒスイ
サンゴ鼈甲類
貴金屬美術品
精工舍各種時計
金銀盃洋食器
ダイヤ寶石類
寫眞器双眼鏡
測量器製圖器

東京銀座二丁目

服部時計店

大阪博労町
心齋橋筋角
大阪支店

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

天賞堂工場新製
ダイヤ指環と帶締
¥ 337.00
¥ 38.00
¥ 170.00
純潔の光り、清淨の輝き、品位を高むるダイヤモンドはどんなにか女性の美を增すことでありませう。新意匠と精妙の技巧とに依て成れる新品澤山取揃へてあります御用命をお待ち申上げます。
¥ 520.00
¥ 532.00
¥ 430.00
¥ 380.00
¥ 120.00
¥ 180.00
¥ 190.00
¥ 150.00
¥ 100.00
¥ 210.00
¥ 95.00
合名會社
東京 天賞堂本店 銀座
(電話銀座三三三•三三三四•一三〇三•一三〇四•一二五四•三六三五)
天賞堂大阪支店・天賞堂日本橋支店

東株一般取引員

清算
實物
國債

御申込次第進呈
㊁週報
委託証據金表
營業案內

陸(クガ)井幸平

坂井屋株式會社

▲御注文は是非
坂井屋へ……
▲一度の取引で
當店の誠實さ
敏速さが御諒
解願へます

日本橋區坂本町十九

LICENSED STOCK BROKER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Head office: Su-su-me-Sha
1890, Oimachi near Tokyo, Japan

The Su-su-me

Vol. V The Socialist No. 4 Monthly

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行)
昭和二年四月一日發行 昭和二年三月二十五日印刷

第五年第四號・五周年記念

定價拾錢